



Cisco 呼詳細レコードについて

この章では、Cisco Unified Communications Manager Release 6.1(1) のシステムで生成される呼詳細レコード (CDR) と呼管理レコード (CMR) の形式とロジックについて説明します。これらの情報は、課金レコードの生成やネットワーク分析などの後処理アクティビティに使用できます。この章では、CDR/CMR ファイルにアクセスする方法およびこれらのファイルのフィールドを解釈する方法について説明します。

システムをインストールした時点では、CDR はデフォルトで有効になっています。CMR はデフォルトで無効になっています。システムが稼働中であれば、いつでも CDR または CMR を有効または無効にできます。変更内容を有効にするために Cisco Unified Communications Manager を再起動する必要はありません。システムは、数秒以内にすべての変更内容に対応します。CMR または診断データは、CDR データとは切り離して有効にされます。

この章は次の内容で構成されています。

- [CDR 処理 \(P.10-2\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager CDR の概要 \(P.10-4\)](#)
- [コールタイプ \(P.10-11\)](#)
- [CDR 内の Cisco Personal Assistant データの解釈 \(P.10-32\)](#)
- [コールシナリオ \(P.10-38\)](#)
- [CDR フィールドの説明 \(P.10-83\)](#)
- [CMR のフィールドの説明 \(診断\) \(P.10-100\)](#)
- [CMR の K ファクタ データ \(P.10-104\)](#)
- [コーデックタイプ \(P.10-106\)](#)
- [コール終了原因コード \(P.10-107\)](#)
- [リダイレクト原因コード \(P.10-111\)](#)
- [OnBehalfof コード \(P.10-112\)](#)
- [関連項目 \(P.10-113\)](#)
- [関連資料 \(P.10-113\)](#)

CDR 処理

Cisco Unified Communications Manager では、CDR および CMR という 2 種類のコール情報レコードが生成されます。CDR レコードには、コールに関する情報が格納されます。CMR レコードには、コールの音声ストリームの品質に関する情報が格納されます。CDR レコードは、Global CallID callManagerId および GlobalCallID Called という 2 つの GlobalCallID カラムによって CMR に関連付けられます。コールシナリオに応じて、1 つの CDR に対して複数の CMR が存在する場合があります。

Cisco Unified Communications Manager がコールを発信または受信すると、そのコールの終了時に CDR レコードが生成されます。CDR はフラットファイル（テキストファイル）に書き込まれます。Cisco Unified Communications Manager 内部で、コール制御プロセスによって CDR レコードが生成されます。あるコールに重大な変化（コールの終了、転送、リダイレクト、分割、結合など）が発生すると、レコードが書き込まれます。

CDR レコードが有効になっている場合、コール制御によりコールごとに 1 つまたは複数の CDR レコードが生成されます。これらのレコードは EnvProcessCdr に送信され、フラットファイルに書き込まれます。書き込まれるレコードの数は、コールのタイプやコールシナリオによって異なります。診断が有効になっている場合、デバイスによりコールごとに CMR レコードが生成されます。コールに関係する IP Phone ごと、または Media Gateway Control Protocol (MGCP; メディアゲートウェイコントロールプロトコル) ゲートウェイごとに、1 つの CMR レコードが書き込まれます。これらのレコードは EnvProcessCdr にも送信され、フラットファイルに書き込まれます。

Cisco Unified Communications Manager は CDR レコードおよび CMR レコードを生成しますが、これらのレコードに対する後処理は実行しません。これらのレコードはカンマ区切り形式のフラットファイルに書き込まれ、定期的に CDR リポジトリに渡されます。CDR ファイルおよび CMR ファイルは、フラットファイル内で固有のファイル名の形式で表されます。

ファイル名の形式

次の例は、ファイル名の完全な形式を示します。

tag_clusterId_nodeId_datetime_seqNumber

- tag : ファイルのタイプ (CDR または CMR のいずれか) を識別します。
- clusterId : クラスタを識別します。
- nodeId : ノードを識別します。
- datetime : UTC 時間 (yyyyMMddhhmm 形式)。
- seqnumber : シーケンス番号。

次に、ファイル名の例を 2 つ示します。

- cdr_Cluster1_01_200404021658_1
- cmr_Cluster1_02_200404061011_6125

フラットファイルの形式

CDR および CMR のフラットファイルの形式は次のとおりです。

- 1 行目 : フィールド名のリスト (カンマ区切り)
- 2 行目 : フィールドタイプのリスト (カンマ区切り)
- 3 行目 : データ (カンマ区切り)
- 4 行目 : データ (カンマ区切り)

次に、フラット ファイルの例を示します。

```
Line1-"cdrRecordType","globalCallID_callManagerId","globalCallID_callId","origLegCallI  
dentifier",...  
Line2-INTEGER, INTEGER, INTEGER, INTEGER, ...  
Line3-1,1,388289,17586046,...  
Line4-1,1,388293,17586054,...
```



(注)

CDR Log Calls With Zero Duration Flag パラメータの値が True の場合、すべてのコールがフラット
ファイルに書き込まれます。このパラメータの詳細については、[P.2-3](#) の「[CDR のサービス パラ
メータの設定](#)」を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager CDR の概要

次の各項では、Cisco Unified Communications Manager で CDR が生成および管理される仕組みについて簡単に説明します。

- CDR 管理 (P.10-4)
- コール情報レコードのタイプ (P.10-6)

CDR 管理

CDR Management (CDRM; CDR 管理) 機能とは、次の各機能をサポートするバックグラウンドアプリケーションのことです。

- Cisco Unified Communications Manager ノードから CDR リポジトリ ノードに CDR/CMR ファイルを収集する。
- CDR リポジトリ ノード上の CDR/CMR ファイルを保守する。
- サードパーティ製のアプリケーションが SOAP インターフェイスを介して CDR/CMR ファイルをオンデマンドで取得できるようにする。
- ファイル名検索のオンデマンド要求を受け入れる。
- クラスタ内の個々のノードから CDR リポジトリ ノードに CDR/CMR ファイルをプッシュする。
- CDR リポジトリ ノードから最大 3 台のカスタマー課金サーバに CDR/CMR ファイルを送信する。
- CDR リポジトリ ノード上の CDR/CMR ファイルのディスク使用量を監視する。
- 正常に送信された CDR/CMR ファイルを定期的に削除する。フラットファイルの保存に使用するストレージの量を設定できます。後処理アプリケーションは、バッファリングされた履歴データを後で取得して、喪失データ、破損データ、または欠落データを再取得できます。CDRM 機能は、フラットファイル形式を認識しないため、ファイルの内容を操作しません。

CDRM は、2 つのデフォルト サービス (CDR Agent と CDR Repository Manager) および 1 つのアクティブ サービス (CDR onDemand Service) で構成されています。

CDR Agent

CDRM 機能の一部として、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内の各ノード上の常駐コンポーネントが CDR Agent として機能します。Cisco Unified Communications Manager と CDR Agent の両方が動作しているノード上では、Cisco Unified Communications Manager によって CDR が CDR フラットファイル (CSV 形式) に書き込まれます。このとき、コール処理モジュールによって特殊な制御文字 (“_”) がファイル名の前に付けられ、このファイルが転送に使用できないことを示します。この制御文字が付いていない場合、このファイルは転送に使用できると見なされ、指定された CDR リポジトリ ノードに送信されます。正常に転送されると、このファイルのローカルコピーは削除されます。

CDRM 機能では、信頼性が最優先されます。CDR は非常に重要な財務データを含むため、この機能の目的は CDR が一切失われないようにすることです。クラスタ内の Cisco Unified Communications Manager ノードは、CDR のフラットファイルへの書き込み、既存のフラットファイルのクローズ、新しいフラットファイルのオープンを継続的に行っています。書き込まれるレコードの数は、コールタイプやコール中に発生する重大な変化 (コールの終了、転送、リダイレクト、分割、結合など) によって異なります。

CDR Repository Manager

Cisco Unified Communications Manager クラスタ内部で、CDR Repository Manager の 1 つのインスタンスが CDR リポジトリ ノード上で動作します。Cisco Unified Communications Manager ノードから受信された CDR ファイルを管理し、指定されたカスタマー/サードパーティの課金サーバに CDR ファイルを定期的に送信します。

CDR ファイルが CDR リポジトリ ノードに到達すると、CDR Repository Manager がこれを検出します。CDR ファイルは、このファイルの作成時にファイル名に挿入された UTC タイムスタンプで示される日付別のディレクトリにアーカイブされます。

CDRM 設定で外部の課金サーバが指定されている場合、ファイルへのソフトリンクが宛先別のディレクトリに作成されます。CDR Repository Manager のファイル送信コンポーネントがこのソフトリンクを検出すると、指定された方法で宛先にファイルを送信します。正常に送信されると、宛先別ディレクトリのソフトリンクは削除されます。

各 Cisco Unified Communications Manager ノードは、最大 1 時間にわたって毎分 1 つの CDR ファイルと 1 つの CMR ファイルを生成できます。プロビジョニングを介して CDR Repository ノードに CDR ファイルを保存するための最大ディスク容量を設定できます。CDR Repository Manager のファイルマネージャ コンポーネントは、1 時間ごとに動作します。ファイルマネージャが動作すると、設定された保存期間を超える日付を持つファイルが削除されます。また、ディスク使用量が最高水準点を超えていないかどうかもチェックされます。最高水準点を超えている場合、処理済みの CDR ファイルは、最低水準点に達するまで古いものから順に削除されます。ただし、削除対象の CDR ファイルが指定された課金サーバに正常に送信されていない場合、そのファイルは CDR リポジトリに残され、通知またはアラームが生成されます。設定されたメンテナンス ウィンドウが表示されている間にフラグファイルが作成され、CDR onDemand Service による CDR ファイルへのアクセスが拒否されます。このフラグファイルは、メンテナンス ウィンドウが終了すると削除されます。

CDR Repository Manager およびカスタマー課金サーバを設定するための詳細な手順については、『*Cisco Unified Communications Manager Serviceability アドミニストレーションガイド*』の「CDR Repository Manager の設定」の項を参照してください。

CDR onDemand Service

CDR onDemand Service は SOAP/HTTPS ベースのサービスで、CDR リポジトリ ノード上で動作します。このサービスは、ユーザが指定した時間間隔（最大 1 時間）で CDR ファイル名リストに対する SOAP 要求を受信し、この要求で指定されている時間に適合するすべてのリストを返します。

また CDR onDemand Service は、特定の CDR ファイルを指定された宛先に (s) FTP 経由で送信する要求も処理できます。システムは、リポジトリの CDR ファイルにアクセスする必要がある場合、CDR リポジトリ ノード上で CDR onDemand Service をアクティブにすることができます。メンテナンス ウィンドウが表示されている間は、サービスを使用できません。CDR onDemand Service の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Developers Guide for Release 6.1(1)*』を参照してください。

コール情報レコードのタイプ

Cisco Unified Communications Manager では、呼詳細レコード (CDR) および呼管理レコード (CMR) という 2 種類のコール情報レコードが生成されます。CDR には、コールのエンドポイントやその他のコール制御 / ルーティングに関する情報が格納されます。CMR には、コールの音声ストリームやビデオストリームの品質に関する診断情報が格納されます。CDR ごとに複数の CMR が存在することが可能です。

CDR は、次の 2 つの globalCallID カラムによって CMR に関連付けられます。

- globalCallID_callManagerId
- globalCallId_callId

Call Diagnostics サービス パラメータが True に設定されている場合、各コールに最大 2 つの CMR が生成されます。コール タイプ (会議コール、コール転送、自動転送されたコール、およびゲートウェイ経由のコールなど) ごとにレコードセットが生成され、コールの終了時に ASCII ファイルに書き込まれます。コールが完了または失敗した場合のみ CDR および CMR が生成されます。Cisco Unified Communications Manager は、CDR および CMR に対する後処理は実行しません。

この項では、次のトピックを取り上げます。

- [グローバル コール ID \(P.10-6\)](#)
- [番号変換 \(P.10-7\)](#)
- [パーティションおよび番号 \(P.10-7\)](#)
- [タイムスタンプ \(P.10-9\)](#)
- [コール終了原因コード \(P.10-9\)](#)

グローバル コール ID

Cisco Unified Communications Manager は、Cisco Unified IP Phone がオフフック状態になるたびに、またはコールがゲートウェイ経由で受信されるたびに、グローバル コール ID (GlobalCallID) を割り当てます。

CDR テーブル (表 10-1) は、コールの終了時に CDR に書き込まれる CDR を、書き込まれる順に示しています。アクティブ コールの GlobalCallID は、CDR テーブルには表示されません。その他のグローバル ID も、CDR テーブルに表示されないことがあります。たとえば、会議コールの各コール レッグには GlobalCallID が割り当てられますが、これは会議の GlobalCallID に上書きされます。この場合、元の GlobalCallID は CDR に表示されません。

表 10-1 CDR テーブルの例

GlobalCallID	Start Time	End Time
1	973795815	973795820
2	973795840	973795845
5	973795860	973795870
4	973795850	973795880

この CDR テーブルに GlobalCallID 3 のエントリが含まれていないのは、このレコードが取得されたときに、そのコールがアクティブだったためです。この表では、GlobalCallID 5 は GlobalCallID 4 よりも先に表示されているのは、GlobalCallID 5 コールが GlobalCallID 4 コールよりも先に終了したためです。

番号変換

Cisco Unified Communications Manager は、ユーザがダイヤルした番号を変換できます。変換された番号（実際にダイヤルされた番号とは異なる）は、CDR に表示されます。

たとえば、多くの企業で「911」コールが「9-911」に変換されるため、発信者は緊急時に外線をダイヤルする必要はありません。この場合、ユーザが「911」とダイヤルしても、CDR には「9911」と表示されます。



(注)

番号が実際にゲートウェイ経由で出力される前に、ゲートウェイでさらに番号を修正することができます。CDR は、このような修正を反映しません。

パーティションおよび番号

CDR 内部では、内線番号とパーティションの組み合わせによって、参照される各電話機を識別します（パーティションが定義されている場合）。パーティションが存在する場合、電話機を正確に識別するには、内線番号とパーティションの両方の値が必要になります。これは、内線番号が一意ではないためです。

コールがゲートウェイ経由で受信された場合、Partition フィールドは空白のままです。コールがゲートウェイ経由で発信された場合、Partition フィールドはそのゲートウェイが属するパーティションを示します。

ダイヤルプランによって発信者が短縮ダイヤルに # キーを使用できる場合、# キーを使用するとデータベースに記録されます。たとえば、Called Party Number フィールドには「902087569174#」のような値が格納されます。

本リリースでは、Party Number フィールドに、従来の発呼 / 着信番号の代わりに SIP URI を格納できます。

CDR が使用するパーティション / 内線番号を表 10-2 に示します。

表 10-2 CDR のパーティション / 内線番号

電話番号	説明
callingPartyNumber	コールを発信したパーティ。転送されたコールの場合、転送されたパーティが発呼側になります。
originalCalledPartyNumber	この番号は、数字変換が行われた後の、元の着信側を示します。
finalCalledPartyNumber	自動転送されたコールの場合、この番号はコールを受信した最後のパーティを示します。 自動転送されたコール以外の場合、このフィールドは元の着信側を示します。
lastRedirectDn	自動転送されたコールの場合、このフィールドはコールをリダイレクトした最後のパーティを示します。 自動転送されたコール以外の場合、このフィールドはコールをリダイレクト（転送や会議など）した最後のパーティを示します。

表 10-2 CDR のパーティション / 内線番号 (続き)

電話番号	説明
callingPartyNumberPartition	<p>この番号は、CallingPartyNumber フィールドに関連付けられているパーティション名を示します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は異なるパーティションで同じ内線番号を持つ複数の Cisco Unified IP Phone をサポートしているため、この番号は、このフィールドによって一意に識別されます。</p> <p>ゲートウェイ経由で受信されたコールの場合、このフィールドは空白のままです。</p>
originalCalledPartyNumberPartition	<p>この番号は、OriginalCalledPartyNumber フィールドに関連付けられているパーティション名を示します。Cisco Unified Communications Manager は異なるパーティションで同じ内線番号を持つ複数の Cisco Unified IP Phone をサポートしているため、この番号は、このフィールドによって一意に識別されます。</p> <p>ゲートウェイ経由で発信されたコールの場合、このフィールドは、そのゲートウェイを示すルートパターンに関連付けられているパーティション名を示します。</p>
finalCalledPartyNumberPartition	<p>この番号は、FinalCalledPartyNumber フィールドに関連付けられているパーティション名を示します。Cisco Unified Communications Manager は異なるパーティションで同じ内線番号を持つ複数の Cisco Unified IP Phone をサポートしているため、この番号は、このフィールドによって一意に識別されます。</p> <p>ゲートウェイ経由で発信されたコールの場合、このフィールドは、そのゲートウェイを示すルートパターンに関連付けられているパーティション名を示します。</p>
lastRedirectDnPartition	<p>この番号は、LastRedirectDn フィールドに関連付けられているパーティション名を示します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は異なるパーティションで同じ内線番号を持つ複数の Cisco Unified IP Phone をサポートしているため、この番号は、このフィールドによって一意に識別されます。</p> <p>ゲートウェイ経由で発信されたコールの場合、このフィールドは、そのゲートウェイを示すルートパターンに関連付けられているパーティション名を示します。</p>

タイムスタンプ

CDR 内部のタイムスタンプは、世界標準時 (UTC) で示されます。この値は、サマータイムによる変化に左右されません。

32 ビットの符号なし整数によってすべての値を示します。この符号なし整数の値は、単一の整数としてデータベースから表示されます。このフィールドは、オペレーティング システムから取得された `time_t` 値を指定します。

CDR に含まれる UTC タイムスタンプを表 10-3 に示します。

表 10-3 CDR の UTC タイムスタンプ

フィールド	説明
<code>dateTimeOrigination</code>	<p>発信コールの場合、このフィールドはデバイスがオフフック状態になった時刻を示します。</p> <p>着信コールの場合、このフィールドは SETUP メッセージが受信された時刻を示します。</p>
<code>dateTimeConnect</code>	このフィールドは、デバイスが接続されて通話が開始された時刻を示します。コールが接続されなかった場合、このフィールドはゼロを示します。
<code>dateTimeDisconnect</code>	このフィールドは、コールが切断された時刻を示します。コールが接続されなかった場合、このフィールドはゼロを示します。

コール終了原因コード

CDR には、`OrigCause` および `DestCause` の 2 つのコール終了原因コードがあります。発信側がコールを切断すると、`OrigCause` に値が設定されます。終端側がコールを切断または拒否すると、`DestCause` に値が設定されます。値が設定されなかった場合、コール終了原因コードの値はゼロを示します。

P.10-107 の表 10-8 に、ITU 仕様 Q.850 ごとのコール終了原因コードを示します。オンネット コール レッグの場合、Cisco Unified Communications Manager によってコール終了原因コードの値が決まります。オフネット コール レッグの場合、終端スイッチによってコール終了原因コードの値が決まります。

IP アドレス

IP アドレスは、符号なし整数として保存されます。CDR ファイルでは、IP アドレスは符号付き整数として表示されます。符号付き整数の値を IP アドレスに変換するには、この値が実際には符号なしの数字であることを考慮しながら、まず 16 進数に変換します。この 32 ビットの 16 進数の値は、4 バイトの値を逆の順序で表しています (Intel 規格)。IP アドレスを決めるには、バイトの順序を反転し、各バイトを 10 進数に変換します。この結果の 4 バイトは、ドット付き 10 進表記の IP アドレスを示す 4 バイトのフィールドになります。



(注)

IP アドレスの下位バイトに最上位ビットセットが含まれている場合、CDR ファイルにはマイナスの値が表示されます。

たとえば、IP アドレス 192.168.18.188 は -1139627840 として表示されます。この IP アドレスを変換するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** データベースの表示 (-1139627840) を 16 進数に変換します。
16 進数の値は 0xBC12A8C0 になります。
- ステップ 2** 次に示すように、この 16 進数のバイトの順序を反転します。
CO A8 12 BC
- ステップ 3** 次に示すように、この 4 バイトの値を 16 進数から 10 進数に変換します。
192 168 18 188
- ステップ 4** 次に示すように、IP アドレスがドット付き 10 進表記で表示されます。
192.168.18.188
-

CDR で作業を行うときに、CAR データベース内の他の表を読み込んで、各 CDR のデバイス タイプに関する情報を取得する必要があることがあります。これは、Device テーブル内のデバイスや CDR に記録されている IP アドレス間の相互関係が直接的なものではないためです。

コールタイプ

2つのパーティ間でコールが成功すると、このコールは CDR に記録されます。各 CDR にはすべてのフィールドが含まれていますが、一部のフィールドが使用されていないことがあります。フィールドが使用されていない場合は、CDR 定義テーブルのデフォルト値を参照してください。補足サービスがコールに関係している場合、追加の CDR が書き込まれることがあります。

1つのコールには、CDR に加えて、エンドポイントごとに 1つの CMR を生成できます。IP Phone を使用している 2つのパーティ間でコールが成功すると、2つの CMR（発信者用に 1つ、コールの宛先用に 1つ）が書き込まれます。

この項では、システム内の異なるコールタイプ用に書き込まれる CDR について説明します。

- [成功したオンネット コール \(P.10-11\)](#)
- [放棄呼 \(P.10-12\)](#)
- [話し中のコールまたは送信先が不正なコール \(P.10-12\)](#)
- [短時間コール \(P.10-13\)](#)
- [自動転送またはリダイレクトされたコール \(P.10-13\)](#)
- [ピックアップ コール \(P.10-14\)](#)
- [転送されたコール \(P.10-15\)](#)
- [会議コール \(P.10-17\)](#)
- [ミーティング会議 \(P.10-19\)](#)
- [アドホック会議のリンク \(P.10-20\)](#)
- [優先コール \(MLPP\) \(P.10-22\)](#)
- [迷惑呼 \(P.10-22\)](#)
- [Conference Drop Any Party \(P.10-22\)](#)
- [即時転送 \(ボイス メッセージング システム宛\) \(P.10-23\)](#)
- [ビデオ コール \(P.10-23\)](#)
- [コール モニタリングおよびコール録音 \(P.10-24\)](#)
- [AAC コールおよび iLBC コール \(P.10-26\)](#)
- [モビリティ \(P.10-28\)](#)
- [インターコム \(P.10-30\)](#)
- [転送時の元の発呼側 \(P.10-30\)](#)

成功したオンネット コール

2台の Cisco Unified IP Phone 間でコールが成功すると、コールの終了時に 1つの CDR が生成されます。

成功したオンネット コールの CDR の例

次の表には、2つの例が含まれています。

- A : 発信者が切断する 60 秒のコール
- B : 着信側が切断する 60 秒のコール

	Calling Party	Calling Partition	Original Called Party	Original Called Partition	Orig Cause	Dest Cause	Duration
A	2001	Accounts	2309	Marketing	16	0	60
B	2001	Accounts	2309	Marketing	0	16	60

放棄呼

接続時間ゼロのコールのロギングは、オプションのアクションです。接続時間がゼロのコールのロギングが有効になっている場合、次のアクションが発生します。

- すべてのコールで CDR が生成される。
- コールが放棄された場合（電話機を一旦オフフックにしてから再びオンフックにした場合など）、各フィールドにはデータは格納されない。この場合、originalCalledPartyNumber、finalCalledPartyNumber、これらに関連付けられているパーティション、destIpAddr、および dateTimeConnect フィールドはすべて空白のままです。接続されていないコールはすべて、接続時間が 0 秒になります。コールが放棄された場合、原因コードには **0** が格納されます。
- ユーザが電話番号をダイヤルし、接続前にそのコールを放棄した場合、FirstDest フィールドと FinalDest フィールドおよびこれらに関連するパーティションには、電話番号とそのコールが拡張されるはずだったパーティションが格納されます。DestIp フィールドは空白のまま、接続時間は 0 秒になります。

放棄呼の CDR の例

次の表には、2 つの例が含まれています。

- A：内線 2001 が一旦オフフック状態になってからオンフック状態になった（CdrLogCallsWithZeroDurationFlag は **True** に設定されている）。
- B：内線 2001 が 2309 に電話したが、応答がある前に 2001 が電話を切った（放棄した）。

	Calling Party	Calling Partition	Original Called Party	Original Called Partition	Orig Cause	Dest Cause	Duration
A	2001	Accounts			16	0	0
B	2001	Accounts	2309		16	0	0

話し中のコールまたは送信先が不正なコール

このようなコールは通常のコールとしてログに記録され、該当するフィールドにデータが格納されます。Calling または Called Party Cause フィールドには、なぜコールが接続されなかったかを示す原因コードが格納され、Called Party IP および Date/Time Connect フィールドは空白のままです。接続時間ゼロのコールはログに記録されなくても、失敗したコールはすべてログに記録されます（CdrLogCallsWithZeroDurationFlag は **True** または **False** に設定され、接続時間はゼロ、DateTimeConnect の値もゼロ）。

話し中のコールまたは送信先が不正なコールの CDR の例

次の表には、3 つの例が含まれています。

- A：PSTN 番号へのコール、相手が話し中（原因 17 = ユーザが話し中）。
- B：PSTN 番号へのコール、番号が存在しない（原因 1 = 番号が使用不可）。
- C：PSTN トランクに異常があるため、PSTN へのコールが失敗（原因 38 = ネットワークの異常）。

	Calling Party	Calling Partition	Original Called Party	Original Called Partition	Orig Cause	Dest Cause	Duration
A	2001	Accounts	902920262226	PSTN	0	17	0
B	2001	Accounts	902920100000	PSTN	0	1	0
C	2001	Accounts	902920262226	PSTN	0	38	0

短時間コール

CdrLogCallsWithZeroDurationFlag に True が設定され、接続時間が 1 秒未満の短時間コールは、CDR では接続時間はゼロと表示されます。コールの実際の接続時間を示す DateTimeConnect フィールドでは、このようなコールを失敗したコールとは区別しています。失敗したコール（接続されなかった）では、この値はゼロになります。

短時間コールの CDR の例

次の表には、接続時間が 1 秒未満で着信側が切断した、成功したオンネット コールの例が含まれています。

Calling Party	Calling Partition	Original Called Party	Original Called Partition	Orig Cause	Dest Cause	DateTimeConnect	Duration
2001	Accounts	2309	Marketing	0	16	973795815	0

自動転送またはリダイレクトされたコール

自動転送されたコールに対して 1 つの CDR が生成され、Calling Party、Original Called Number、Last Redirecting Number、Final Called Number、および関連パーティションが表示されます。コールが 3 回以上自動転送された場合、中間の自動転送パーティは CDR に書き込まれません。

コール転送は、複数の条件（常時、話し中、および応答なし）で発生します。コールが自動転送される条件は、CDR に書き込まれません。

自動転送されたコールの CDR は、originalCalledPartyNumber フィールドおよび originalCalledPartyNumberPartition フィールド以外は、通常のコールの CDR と同じになります。これらのフィールドには、コールの発信者が最初にダイヤルした送信先の電話番号およびパーティションが格納されます。コールが自動転送された場合、finalCalledPartyNumber フィールドと finalCalledPartyNumberPartition フィールドの値は異なり、コールの最終送信先の電話番号およびパーティションが格納されます。

また、コールが自動転送されると、lastRedirectDn フィールドおよび lastRedirectDnPartition フィールドには、コールを自動転送またはリダイレクトした最後の電話機の電話番号およびパーティションが格納されます。

自動転送またはリダイレクトされたコールの CDR の例

次の表には、2 つの例が含まれています。

- A : PSTN から内線 2001 へのコールが 2309 に自動転送され、そこでコールが応答されます。
- B : PSTN から内線 2001 へのコールが 2309 に自動転送され、さらにボイス メッセージング システムに自動転送されます。

	Calling Party	Original Called Party	Original Called Partition	Final Called Party	Final Called Partition	Last Redirect Party	Last Redirect Partition	Duration	Original Called Party Redirect OnBehalfOf	Last Redirect Redirect OnBehalfOf
A	02920262227	2001	ACNTS	2309	MKTG	2001	ACNTS	120	5	5
B	02920262227	2001	ACNTS	6000	VMAIL	2309	MKTG	60	5	5

ピックアップコール

Cisco Unified Communications Manager には、ピックアップおよび自動ピックアップの 2 つのピックアップモードがあります。次の各項で、これらのコールについて説明します。

- [ピックアップ \(P.10-14\)](#)
- [自動ピックアップ \(P.10-15\)](#)

ピックアップ

ピックアップコールは、自動転送されたコールと同様に動作します。ピックアップコールの CDR は、originalCalledPartyNumber フィールドおよび originalCalledPartyNumberPartition フィールド以外は、通常のコールの CDR と同じになります。これらのフィールドには、コールの発信者が最初にダイヤルした送信先の電話番号およびパーティションが格納されます。

コールがピックアップされた場合、finalCalledPartyNumber フィールドおよび finalCalledPartyNumberPartition フィールドの値は異なり、コールをピックアップした電話機の電話番号およびパーティションが格納されます。また、コールがピックアップされると、lastRedirectDn フィールドおよび lastRedirectDnPartition フィールドには、コールをリダイレクトした最後の電話機の電話番号およびパーティションが格納されます。

origTermination、destTermination、lastRedirect、および Join OnBehalfOf フィールドには 16 (ピックアップ) およびリダイレクト原因フィールドには 5 (ピックアップ) が格納されます。

ピックアップの CDR は、ピックアップ、グループピックアップ、および他のピックアップというすべてのピックアップタイプで同じに見えます。

ピックアップコールの CDR の例

1. PSTN から内線 2000、2001、および 2002 (同じピックアップグループ) にコールが着信します。
2. 内線 2002 が、2001 で呼出音が鳴っているコールをピックアップします。
3. 内線 2002 が、このコールに応答し、このコールは PSTN 発信者と内線 2002 の間で接続されません。

Call ID	Orig Cause	Calling Party	Dest Cause	Original Called Party	Final Called Party	Last Redirect Party	Orig Termination On BehalfOf	Dest Termination On BehalfOf	Last Redirect On BehalfOf	Last Redirect Reason	Join On BehalfOf
22	0	9728131234	16	2001	2002	2001	16	16	16	5	16

自動ピックアップ

自動ピックアップは、自動応答するコールピックアップと同様に動作します。コールは自動接続されるため、最後の応答ソフトキーを押す必要はありません。自動ピックアップには 2 つの CDR が生成され、これらの Call ID は同じになります。

最初の CDR は元のコール用に生成されます。この CDR の `origTerminationOnBehalfOf` フィールドおよび `destTerminationOnBehalfOf` フィールドは 16 (ピックアップ) になります。これは、このコールがピックアップ機能のために終了したことを示します。

2 番目の CDR は、ピックアップされた後の最後のコール用です。この CDR の `lastRedirectOnBehalfOf` フィールドおよび `joinOnBehalfOf` フィールドには 16 (ピックアップ) が設定されます。これは、このコールがピックアップ機能のために結合したことを示します。`lastRedirectReason` には、リダイレクト原因 5 (ピックアップ) が格納されます。

自動ピックアップの CDR は、自動ピックアップ、自動グループピックアップ、および他の自動ピックアップというすべての自動ピックアップタイプで同じに見えます。

自動ピックアップの CDR の例

1. PSTN から内線 2001 にコールが着信します。2001 および 2002 は同じピックアップグループに属しています。
2. 内線 2002 が、2001 で呼出音が鳴っているコールをピックアップします。
3. コールは PSTN 発信者と内線 2002 の間で自動接続されます。

Call ID	Orig Cause	Calling Party	Dest Cause	Original Called Party	Final Called Party	Last Redirect Party	Orig Termination On BehalfOf	Dest Termination On BehalfOf	Last Redirect On BehalfOf	Last Redirect Reason	Join On BehalfOf
11	126	9728131234	126	2001	2001	2001	16	16	0	0	0
11	0	9728131234	16	2002	2002	2001	16	16	16	5	16

転送されたコール

コール転送は非常に複雑なため、1 つの CDR だけでコール転送に必要なすべてのデータを示すことはできません。コールが転送されるたびに、Cisco Unified Communications Manager はそのコールの CDR を終了して新しい CDR を開始します。

次に示すように、転送されたコールには複数の CDR がログに記録されます。

1. パーティ A からパーティ B への元のコール。
2. 転送する側 (パーティ A または B) から転送先 (パーティ C) へのコール。
3. 転送される側 (パーティ A または B) から転送先 (パーティ C) へのコール。

最初の CDR は、最初に発信されたコールを表します。2 番目の CDR は、転送の開始に使用されるセットアップコール (打診 / 通知) を表します。3 番目の CDR は、転送されたコール自体を表します。最初の 2 つの CDR の `origCause_value` および `destCause_value` には、スプリット (126) が設定されます。

また、`origCallTerminationOnBehalfOf` フィールドおよび `destCallTerminationOnBehalfOf` フィールドには転送 (10) が設定され、これらのコールが転送に関与したことを示します。コールの転送されたログの `joinOnBehalfOf` フィールドには転送 (10) が設定され、このコールが転送の結果であることを示します。このため、転送のすべてのログを 1 つのコールに結合することができます。

転送されたコールの CDR の例

次の例は、すべてを網羅しているわけではありませんが、上記のような環境で生成されるレコードを示しています。この例は、転送されたコールに対してどのようなレコードが生成されるかを理解するのに役立ちます。

例 1

A が B にコールし、A は B を C に転送します。この場合、次の 3 つのコールがログに記録されます。

1. A から B へのコール
2. A から C へのコール
3. B から C へのコール

コールがブラインド転送だった場合、A から C へのコールの接続時間はゼロ秒になります。コールが打診転送だった場合、すべてのコールの接続時間はゼロ以外になります。Original Called Party フィールドおよび Call Party Number フィールドの値は、同じになります。

例 2

A が B にコールし、B は A を C に転送します。この場合、次の 3 つのコールがログに記録されます。

1. A から B へのコール
2. B から C へのコール
3. A から C へのコール

コールがブラインド転送だった場合、B から C へのコールの接続時間はゼロ秒になります。コールが打診転送だった場合、すべてのコールの接続時間はゼロ以外になります。Original Called Party フィールドおよび Call Party Number フィールドの値は、同じになります。

例 3

A が B にコールし、B が A を C にブラインド転送します。C が D に無応答時転送します。この場合、次のコールがログに記録されます。

1. A から B へのコール
2. B から C へのコール
3. A から D へのコール

コールがブラインド転送だったため、B から C へのコールの接続時間はゼロ秒になります。A から D へのコールの Original Called Party フィールドには「C」が、Called Party Number フィールドには「D」がセットされます。

打診なしの転送

打診なしのコール転送のプロセスには、3 つの CDR の作成が含まれます。最初の CDR には元の 2 つのパーティ (A と B) 間のコールが、2 番目の CDR には転送するパーティ (A) と新しいパーティ (C) 間の (接続時間ゼロの) コールが、3 番目の CDR には B と C との間のコールが反映されます。

コールが保留されている時間を反映する CDR はありません。コールが PSTN ゲートウェイを経由する場合、このコールの保留中、CDR に反映されない料金が課せられます。

打診なしの転送の CDR の例

次の表には、3 つの例が含まれています。

- A : 内線 2001 から PSTN 番号へのコールで 120 秒間の通話を行います。

- B：内線 2001 が内線 2002 に打診なしの転送（接続時間ゼロ）を開始します。
- C：内線 2001 が転送を完了し、コールを切断し、他の 2 つのパーティ間のコールが残ります。

	Calling Party	Calling Partition	Calling Leg	Original Called Party	Original Called Partition	Called Leg	Orig Cause	Dest Cause	OrigCall Term On BehalfOf	DestCall Term On BehalfOf	Join On BehalfOf	Duration
A	2001	ACNTS	101	3071111	PSTN	102	126	126	10	10	0	120
B	2001	ACNTS	103	2002	ACNTS	104	126	126	10	10	0	0
C	3071111	PSTN	102	2002	ACNTS	104	0	16	0	0	10	350

打診付きの転送

打診付きの転送は、中間コールの接続時間ゼロでないこと以外は、基本的に打診なしの転送と同じ動作をします。

打診なしの転送と同様に、Cisco Unified Communications Manager は 3 つの CDR を作成します。最初の CDR には元の 2 つのパーティ (A と B) 間のコールが、2 番目の CDR には転送するパーティ (A) と新しいパーティ (C) 間の打診コールが、3 番目の CDR には B と C の間のコールが反映されます。

打診付きの転送の CDR の例

次の表には、3 つの例が含まれています。

- A：内線 2001 から PSTN 番号へのコールで 120 秒間の通話を行います。
- B：内線 2001 が保留中の PSTN コールを発信して内線 2002 にコールし、30 秒間の通話を行います。
- C：内線 2001 が転送を完了し、コールを切断し、他の 2 つのパーティ間のコールが残ります。

	Calling Party	Calling Partition	Calling Leg	Original Called Party	Original Called Partition	Called Leg	Orig Cause	Dest Cause	OrigCall Term On BehalfOf	DestCall Term On BehalfOf	Join On BehalfOf	Duration
A	2001	ACNTS	101	3071111	PSTN	102	126	126	10	10	0	120
B	2001	ACNTS	103	2002	ACNTS	104	126	126	10	10	0	30
C	3071111	PSTN	102	2002	ACNTS	104	0	16	0	0	10	350

会議コール

会議コールの CDR には、動作上重要な要素が 3 つあります。

1. 会議が 2 つのパーティだけになると、この 2 つのパーティは直接接続され、会議リソースは解放されます。この変化により、会議コールの最後の 2 つのパーティ間のコールに対して、追加の CDR が生成されます。

たとえば、4 人 (Amy、Dustin、Spencer、Ethan) の人物が会議コールに接続されている場合、Ethan が電話を切ると、会議ブリッジ (Amy、Dustin、Spencer) に接続された会議コールには 3 人が残ります。Spencer が電話を切ると、会議コールには 2 人 (Amy と Dustin) だけが残ります。システムは Amy と Dustin を直接結合し、会議リソースは解放されます。Amy と Dustin の直接結合により、会議の最後の 2 つのパーティ間に追加の CDR が作成されます。

2. システムは、会議の司会者情報を CDR の Comment フィールドに追加します。この情報により、会議の司会者が特定されます。このため、打診コールを調べてだれが会議の司会者であるかを判断する必要がなくなります。この情報の例を次に示します。

Comment フィールド = “ConfControllerDn=1000;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FEBD”

- 会議の司会者の DN とデバイス名により、会議の司会者が一意に特定されます。シェアドラインの場合、デバイス名が必要です。
 - コールが複数の会議コールに関係している場合、Comment フィールドには、複数の会議司会者情報が格納されています。会議が 2 つのパーティだけになり、どちらか一方のパーティが別の会議を開始すると、このような状況が発生することがあります。このような場合、Comment フィールドの最後の会議の司会者情報によって会議の司会者が特定されます。
3. 参加者を追加したパーティ（リクエスタパーティと呼ばれる）は、CDR の Comment フィールドに表示されます。リクエスタ情報のタグには、ConfRequestorDn および ConfRequestorDeviceName が含まれます。参加者を削除するよう要求したパーティ（ドロップリクエスタ）は、CDR の Comment フィールドに表示されます。ドロップリクエスタ情報のタグには、DropConfRequestorDn および DropConRequestorDeviceName が含まれます。

会議の一部であるコールには、ログに記録される複数のレコードがあります。生成される CDR の数は、会議に参加するパーティの数によって異なります。会議に参加する各パーティに 1 つの CDR、最初に発信されたコールに 1 つの CDR、および他のパーティを会議に参加させるために使用した各セットアップコールに 1 つの CDR がそれぞれ存在します。このため、3 つのパーティからなるアドホック会議では、次の 6 つの CDR が存在します。

- 元のコールに 1 つの CDR
- 会議に接続されているパーティに 3 つの CDR
- 各セットアップコールに 1 つの CDR
- 会議の最後の 2 つのパーティに 1 つの CDR

発信レグ ID および着信レグ ID を調べて、セットアップコールを適切なコールレグに関連付けることができます。

会議ブリッジ デバイスは、Cisco Unified Communications Manager にとって特別な意味があります。会議ブリッジへのコールは、会議ブリッジ デバイスへのコールとして表示されます。「b0019901001」という形式の特殊な番号は、会議ブリッジ ポートを示します。実際の方向に関係なく、すべてのコールが会議ブリッジへの方向で表示されます。セットアップコールの CDR を調べることで、各コールの元の方向を判断できます。

会議に接続されているコールレグでは、次の各フィールドに、それぞれ対応する値が格納されます。

- finalCalledPartyNumber : 会議ブリッジ「b0019901001」を表します。
- origCalledPartyRedirectOnBehalfOf : 会議 (4) が設定されます。
- lastRedirectRedirectOnBehalfOf : 会議 (4) が設定されます。
- joinOnBehalfOf : 会議 (4) が設定されます。
- comment : 会議の司会者を特定します。

最初に発信されたコールおよびパーティを会議に参加させるために使用されたすべてのセットアップコールには、次の各フィールドに、それぞれ対応する値が格納されます。

- origCallTerminationOnBehalfOf : 会議 (4) が設定されます。
- destCallTerminationOnBehalfOf : 会議 (4) が設定されます。

会議コールの CDR の例

次の表には、以下の例が含まれています。

- 2001 から 2309 へのコールです。
- 60 秒後、ユーザ 2001 が Cisco Unified IP Phone の「会議」キーを押し、PSTN 番号「3071111」にダイヤルします。
- 3071111 が応答して 20 秒間通話し、その後 2001 が会議キーを押して会議を終了します。
- 会議で 360 秒間の通話が行われます。

- 各コール レッグは、会議ブリッジへのコールとして表示されます。コールの実際の方向に関係なく、会議ブリッジへのコールとして表示されます。
- 3071111 が電話を切り、2001 と 2309 が会議に残ります。この会議には 2 つのパーティだけが残ったため、会議機能により両者は直接結合され、さらに 55 秒間通話します。

Calling Party	Calling Partition	Calling Leg	Original Called Party	Original Called Partition	Called Leg	Final Called Party	Final Called Partition	Last Redirect Party	Last Redirect Reason	Orig Conversation Id
2001	ACNTS	101	2309	MKTG	102	2309	MKTG	2001	0	0
2001	ACNTS	101	2309	MKTG	115	b0029901001		b0029901001	0	1
2309	ACNTS	101	b0029901001		116	b0029901001		b0029901001	0	1
3071111	PSTN	101	b0029901001		117	b0029901001		b0029901001	0	1
2001	ACNTS	105	3071111	PSTN	106	3071111	PSTN	3071111	0	0
2001	ACNTS	101	2309	MKTG	102	2309	MKTG	b0029901001	98	0v

OrigCall Termination OnBehalfOf	DestCall Termination OnBehalfOf	Original CalledParty Redirect OnBehalfOf	Last Redirect OnBehalfOf	Join OnBehalfOf	Duration	Comment
4	4	0	0	0	60	
12	0	4	4	4	360	ConfControllerDn=2001;ConfController DeviceName=SEP0003E333FEED
12	0	4	4	4	360	ConfControllerDn=2001;ConfController DeviceName=SEP0003E333FEED
4	4	4	4	4	360	ConfControllerDn=2001;ConfController DeviceName=SEP0003E333FEED
4	4	0	0	0	20	
12	42	0	4	4	55	ConfControllerDn=2001;ConfController DeviceName=SEP0003E333FEED

ミーティング

ミーティングは、あらかじめ決められた時刻に、複数のパーティが個々に会議ブリッジにダイヤルすることで発生します。

Cisco Secure Conference 機能では、既存の callSecuredStatus フィールドを使用して、コールが満たしている最も高いセキュリティ ステータスを表示します。ミーティングでは、会議への参加を試みたもののミーティングのセキュリティ レベルに達していないコールは、終了原因=58 (ベアラ機能は現在使用できません) で切断されます。

ミーティングの CDR の例

次の表には、以下のシナリオの CDR の例が含まれています。5001 はダイヤルイン番号を表します。会議ブリッジ デバイスは Cisco Unified Communications Manager にとって特別な意味があり、会議ブリッジへのコールは自動転送されたコールとして表示されます。つまり、ユーザ A があらかじめ決められた番号 (5001) に電話すると、そのコールは会議ブリッジ ポートに自動転送されます。会議ブリッジ ポートは、「b0019901001」という形式の特殊な番号で表示されます。

- ユーザ A (2001) は、電話番号 5001 を使用してミーティングブリッジにコールします。

- ユーザ B (2002) は、電話番号 5001 を使用してミートミー会議ブリッジにコールします。
- ユーザ C (2003) は、電話番号 5001 を使用してミートミー会議ブリッジにコールします。

	Calling Party	Calling Partition	Original Called Party	Original Called Partition	Final Called Party	Final Called Partition	Last Redirect Party	Last Redirect Partition	Duration
A	2001	Accounts	5001		b0019901001		b0019901001		70
B	2002	Accounts	5001		b0019901001		b0019901001		65
C	2003	Accounts	5001		b0019901001		b0019901001		80

アドホック会議のリンク

高度なアドホック会議リンク機能では、アドホック会議を個々の参加者のように別のアドホック会議に追加することによって、複数のアドホック会議を互いにリンクすることができます。また、個々の参加者をアドホック会議に追加するために使用できる方法で、アドホック会議を別のアドホック会議に追加することもできます。

高度なアドホック会議リンク機能によって生成される CDR には、OrigConversationId と呼ばれるフィールドがあります。このフィールドは、リンクされた会議に関係する会議ブリッジに関連しています。CDR の Comment フィールドには、ConfRequestorDN タグおよび ConfRequestorDeviceName タグが追加されます。これらのタグは、会議の司会者以外の参加者による参加者の追加 / 削除を示します。

会議リンクには、次の 2 つのタイプがあります。

- 線形：参加している会議に直接リンクできるアドホック会議は 2 つだけです。
- 非線形：3 つ以上のアドホック会議を別の会議に直接リンクできます。このタイプのリンクは、会議リソースに悪影響を与える可能性があるため、デフォルトでは許可されていません。

参加による線形アドホック会議リンクの CDR の例

次の表には、以下のシナリオの CDR の例が含まれています。

- Alice (1000) が Bob (1001) にコールします。これは元のコールです。
- Bob (1001) が Carol (1002) を会議に参加させます。これは打診コールです。
- Dave (1003) が Carol (1002) にコールします。これは元のコールです。
- Dave (1003) は Ed (1004) を会議に参加させます。これは打診コールです。
- 2 つの異なる会議が作成されます。Carol は両方の会議に参加しています。この時点で、CDR1、CDR2、CDR3、および CDR4 が生成されます。
- Carol (1002) は、会議ブリッジ (b002990122) を介して 2 つの会議に参加します。この時点で CDR5 が生成されます。
- Dave (1003) は、会議ブリッジ (b002990122) を介して 2 つの会議に参加します。この時点で CDR6 が生成されます。
- Ed (1004) が会議を退席します。CDR7 が生成されます。
- Dave (b002990122) が会議を退席します。CDR8 が生成されます。
- Alice (1000) が会議を退席します。CDR9 が生成されます。
- Bob (1001) が会議を退席します。CDR10 が生成されます。
- Carol (1002) が会議を退席します。CDR11 が生成されます。

Calling Party Number	globalCallID-callid	Original Leg Call Identifier	Dest Leg Call Identifier	Original Called Party Number	Final Called Party Number	Last RedirectDn	OrigCall Termination OnBehalfOf
1000 (CDR1)	1	11	12	1001	1001	1001	4
1001 (CDR2)	2	13	14	1002	1002	1002	4
1003 (CDR3)	3	21	22	1002	1002	1002	4
1003 (CDR4)	4	23	24	1004	1004	1004	4
1002 (CDR5)	3	22	25	b0029901222	b0029901222	1003	4
1003 (CDR6)	3	21	26	b0029901222	b0029901222	1003	0
1004 (CDR7)	3	24	27	b0029901222	b0029901222	1003	0
b0029901222 (CDR8)	1	25	28	b0029901001	b0029901001	10020	0
1000 (CDR9)	1	11	15	b0029901001	b0029901001	1001	0
1001 (CDR10)	1	12	16	b0029901001	b0029901001	1001	0
1002 (CDR11)	1	14	17	b0029901001	b0029901001	1001	0

前の表の続きです。

Calling Party Number	DestCall Termination OnBehalfOf	LastRedirect Redirect Reason	LastRedirect Redirect OnBehalfOf	Original Conversation ID	Destination Conversation ID	Comment
1000 (CDR1)	4	0	0	0	0	
1001 (CDR2)	4	0	0	0	0	
1003 (CDR3)	4	0	0	0	0	
1003 (CDR4)	4	0	0	0	0	
1002 (CDR5)	4	98	4	0	2222	ConfControllerDn=1003;Conf ControllerDeviceName=SEP00 03E333FAD1;ConfRequestorDn -1003;ConfRequestorDeviceN ame=SEP0003E333 FAD1
1003 (CDR6)	0	98	4	0	2222	ConfControllerDn=1003;Conf ControllerDeviceName=SEP00 03E333FAD1;ConfRequestorDn -1003;ConfRequestorDeviceN ame=SEP0003E333 FAD1
1004 (CDR7)	0	98	4	0	2222	ConfControllerDn=1003;Conf ControllerDeviceName=SEP00 03E333FAD1;ConfRequestorDn -1003;ConfRequestorDeviceN ame=SEP0003E333 FAD1
B0029901222 (CDR8)	0	98	4	2222	1111	ConfControllerDn=1003;Conf ControllerDeviceName=SEP00 03E333FAD1;ConfRequestorDn -1003;ConfRequestorDeviceN ame=SEP0003E333 FAD1
1000 (CDR9)	0	98	4			
1001 (CDR10)	0	98	4			
1002 (CDR11)	0	98	4			

優先コール (MLPP)

優先コールは、優先レベル フィールドが CDR に設定されること以外は、他のコールと同様に行われます。また、より高い優先レベルのコールが他のコールより優先されると、原因コードはプリエンプションの原因を示します。

優先コールの CDR の例

次の表には、以下のシナリオの CDR の例が含まれています。

- ユーザ A (2001) が優先パターン (優先レベル 2) にダイヤルして別の IP Phone にコールします。
- ユーザ A (2001) が優先パターン (優先レベル 3) にダイヤルして別の IP Phone にコールします。
- ユーザ A がより高い優先レベルのコールを別のネットワークから受信します (優先レベル 1)。
- より高い優先レベルのコールが最初のコールより優先されます。

Calling Party	Calling Partition	Origin Precedence Level	Original Called Party	Original Called Partition	Dest Precedence Level	Orig Cause	Dest Cause
2001	CMD	2	826001	FIRE	2	0	16
2001	CMD	3	836001	FIRE	3	0	16
9728552001	GEN	1	6001	FIRE	1	16	0
2001	CMD	2	826001	FIRE	2	0	9
9728552001	GEN	1	826001	FIRE	1	0	16

迷惑呼

コールが迷惑呼として識別された場合 (ボタン押下)、ローカル ネットワーク (Cisco Unified Communications Manager) によってコールにフラグが設定されます。Comment フィールドに迷惑呼のフラグが設定されます。

迷惑呼の CDR の例

次の表には、迷惑呼のマークが付けられたカスタマー コールの CDR の例が含まれています。

Calling Party	Calling Partition	Original Called Party	Original Called Partition	Orig Cause	Dest Cause	Comment
9728552001	CUST	5555	ACNTS	0	16	"callFlag=MALICIOUS"

Conference Drop Any Party

Conference Drop Any Party 機能は、新しい原因コード以外は他のコールと同じに見えるコールを終了します。原因コードは、この機能によって終了したコールを示します。

Conference Drop Any Party の CDR の例

次の表には、会議に接続され、この機能によって廃棄されたコールの CDR の例が含まれています。

Calling Party	Calling Partition	Original Called Party	Orig Cause	Original Called Partition	Called Leg	Dest Cause	Final Called Party	Final Called Partition	Last Redirect Party
2001	ACNTS	2309	0	MKTG	102	16	2309	MKTG	2001
2001	ACNTS	2309	16	MKTG	115	0	b0029901001		b0029901001
2309	ACNTS	b0029901001	0		116	128	b0029901001		b0029901001
3071111	PSTN	b0029901001	16		117	0	b0029901001		b0029901001
2001	ACNTS	2309	16	PSTN	106	0	3071111	PSTN	3071111

Orig Conversation ID	OrigCall Termination OnBehalfOf	DestCall Termination OnBehalfOf	OriginalCalled Pty Redirect OnBehalfOf	LastRedirect Redirect OnBehalfOf	Join OnBehalfOf	Duration
0	4	4	0	0	0	60
1	12	0	4	4	4	360
1	13	0	4	4	4	200
1	4	4	4	4	4	360
0	4	4	0	0	0	20

即時転送（ボイス メッセージング システム宛）

即時転送コールの CDR は、**origCalledPartyRedirectOnBehalfOf** フィールドおよび **lastRedirectRedirectOnBehalfOf** フィールドに値が設定されること以外は、自動転送されたコールと同様に生成されます。

即時転送の CDR の例

次の表には、このシナリオの CDR の例が含まれています。

Calling Party	Calling Partition	Original Called Party	Original Called Partition	Final Called Party	Final Called Partition	Last Redirect Party	Last Redirect Partition	Duration	OrigCalled Party Redirected OnBehalfOf	Last Redirect Redirect OnBehalfOf
02920262227		2001	ACNTS	2309	MKTG	2001	ACNTS	120	5	5
02920262227		2001	ACNTS	6000	VMAIL	2309	MKTG	60	5	5

ビデオ コール

次の表には、以下のシナリオのビデオ コールの CDR の例が含まれています。

- 発呼側 51234 が着信側 57890 にコールします。
- 100 = H.261
- 187962284 = 172.19.52.11
- 288625580 = 172.19.52.17
- 320 - 320

ビデオ コールの CDR の例

- 2 = QCIF

■ コールタイプ

Calling Party	Calling Partition	Calling Leg	Original Called Party	Original Called Partition	Called Leg	Orig VideoCap _Codec	Orig VideoCap _Bandwidth	Orig VideoCap _Resolution	OrigVideo Transport Address_IP	OrigVideo Transport Address_Port
51234	CISCO	101	57890	CISCO	102	100	320	2	187962284	49208

Dest VideoCap _Codec	Dest VideoCap _Bandwidth	Dest VideoCap _Resolution	DestVideo Transport Address_IP	DestVideo Transport Address_Port
100	320	2	288625580	49254

コール モニタリングおよびコール録音

コール モニタリングおよびコール録音の CDR は、既存の CDR のフィールドを使用して生成されます。

モニタリングと録音では、モニタリングする側のコールおよび録音する側のコールのメディアは単方向です。単方向メディアの CDR では、コールの一方に対するメディア フィールドは空白のままです。

コール モニタリングの CDR の **destConversationID** フィールドは、モニタリングされる側のコールの CDR のエージェント コール レッグ ID と一致し、コール モニタリングの CDR とモニタリングされる側のコールの CDR が関連付けられます。

2 つのコール録音の CDR の **origConversationID** フィールドは、録音する側のコールの CDR のエージェント コール レッグ ID と一致し、コール録音の CDR と録音される側のコールの CDR が関連付けられます。

コール モニタリングの CDR の例

次の表には、以下のシナリオのコール モニタリングの CDR の例が含まれています。

- 例 A : カスタマー 9728134987 がエージェント 30000 にコールし、エージェントが応答します。スーパーバイザ 40003 がこのコールをモニタリングします。モニタリングする側のコールの **destConversationID** は、モニタリングされる側のコールの **destLegCallIdentifier** と一致します。
- 例 B : エージェント 30000 がカスタマー 9728134987 にコールし、カスタマーが応答します。スーパーバイザ 40003 がこのコールをモニタリングします。モニタリングする側のコールの **destConversationID** は、モニタリングされる側のコールの **origLegCallIdentifier** と一致します。

	Global Call ID callid	Orig Leg Call Identifier	Dest Leg Call Identifier	Calling Party Number	Orig Called Party Number	Final Called Party Number	Last RedirectDn	Orig Cause Values
A : モニタリングされる側のコール	7	16777230	16777231	9728134987	30000	30000	30000	16
A : モニタリングする側のコール	10	16777232	16777235	4003	b001501001	b001501001	b001501001	0
B : モニタリングされる側のコール	71	16777299	16777300	30000	9728134987	9728134987	9728134987	16
B : モニタリングする側のコール	101	16777932	16777935	40003	b001501002	b001501002	b001501002	0

Dest Cause Value	Orig Called Party Redirect Reason	last Redirect Redirect Reason	Orig Called Party Redirect OnBehalfOf	last Redirect Redirect OnBehalfOf	dest Conversation ID
0	0	0			0
0	370	370	28	28	16777231
0	0	0			0
0	370	370	28	28	16777299

コール録音の CDR の例

次の表には、以下のシナリオで、録音する側のコールの CDR の例が含まれています。

- 例 A : カスタマー 9728134987 がエージェント 30000 にコールし、エージェントが応答します。録音機能により、録音デバイス宛に 2 つの録音する側のコールが作成されます。この処理によって、追加の CDR が 2 つ (1 つはエージェント音声用、もう 1 つはカスタマー音声用) 作成されます。録音する側の CDR の **origConversationID** は、録音される側の CDR の **destLegCallIdentifier** と一致します。この例では、カスタマーが電話を切ります。
- 例 B : エージェント 30000 がカスタマー 9728134987 にコールし、カスタマーが応答します。録音機能により、録音デバイス宛に 2 つの録音する側のコールが作成されます。この処理によって、追加の CDR が 2 つ (1 つはエージェント音声用、もう 1 つはカスタマー音声用) 作成されます。録音する側の CDR の **origConversationID** は、録音される側の CDR の **origLegCallIdentifier** と一致します。この例では、エージェントが電話を切ります。

	Global Call ID callid	Orig Leg Call Identifier	Dest Leg Call Identifier	Calling Party Number	Orig Called Party Number	Final Called Party Number	Last RedirectDn	Orig Cause Values
A : 録音される側のコール	7	16777110	16777111	9728134987	30000	30000	30000	16
A : 録音する側のコールの CDR1	10	16777120	16777121	30000	90000	90000	90000	0
A : 録音する側のコールの CDR2	11	16777122	16777123	30000	90000	90000	90000	0
B : 録音される側のコール	71	16777113	16777114	30000	9728134987	9728134987	9728134987	16
B : 録音する側のコールの CDR1	100	16777220	16777221	30000	90000	90000	90000	16
B : 録音する側のコールの CDR2	110	16777222	16777223	30000	90000	90000	90000	16

Dest Cause Value	Orig Called Party Redirect Reason	last Redirect Redirect Reason	Orig Called Party Redirect OnBehalfOf	last Redirect Redirect OnBehalfOf	Orig Conversation ID
0	0	0			0
0	354	354	27	27	16777111
0	354	354	27	27	16777111
0	0	0			0
0	354	354	27	27	16777113
0	354	354	27	27	16777113

AAC コールおよび iLBC コール

Advanced Audio Codec (AAC) とは、改良された音声忠実度を提供する帯域幅の音声コーデックを規定するものです。また、このコーデックは、ビットレートの低い以前のコーデックと同等またはそれ以上の音声品質を提供します。AAC には次の機能があります。

- AAC コールに対して、コーデックは Media_Payload_AAC 42 を指定する。
- maxFramesPerPacket は 1 を指定する。
- Internet Low Bit Rate Codec (iLBC) は、フレームが損失するロスの大いネットワークにおける音声品質の劣化に対応する。iLBC コールに対して、コーデックは Media_Payload_ILBC = 86 を指定する。

AAC コールおよび iLBC コールの CDR には、オーディオ帯域幅のフィールドが追加されます。

フィールド名	定義
origMediaCap_bandwidth	この整数フィールドには、オーディオ帯域幅が格納されます。
destMediaCap_bandwidth	この整数フィールドには、オーディオ帯域幅が格納されます。

帯域幅のフィールドには、次の表に基づいて値が格納されます。

コーデック	帯域幅
G711Alaw64k	64
G711Alaw56k	56
G711Ulaw64k	64
G711Ulaw56k	56
G722_64k	64
G722_56k	56
G722_48k	48
G7231	7
G728	16
G729	8
G729AnnexA	8
G729AnnexB	8
G729AnnexAwAnnexB	8
XV150_MR_729A	8
NSE_VBD_729A	8
GSM_Full_Rate	13
GSM-Half_Rate	7
GSM_Enhanced_Full_Rate	13
Wide_Band_256k	256
Is11172AudioCap	0
Is13818AudioCap	0
Data64	64
Data56	56
GSM	13
G7221_32K	32
G7221_24K	24

コーデック	帯域幅
AAC	256
iLBC	15k または 13k

AAC コールの CDR の例

次の表には、AAC コーデックを使用するコールの CDR の例が含まれています。

発呼側 51234 が着信側 57890 にコールします。

Global Call ID callid	Orig Leg Call Identifier	Dest Leg Call Identifier	Calling Party Number	Orig Called Party Number	Final Called Party Number	Last Redirect Dn	Orig Cause Values	Dest Cause Value	Orig MediaCap Payload Capability
121	101	102	51234	57890	57890	57890	0	16	42

Orig MediaCap Bandwidth	Dest MediaCap Payload Capability	Dest MediaCap Bandwidth
256	42	256

iLBC コールの CDR の例

次の表には、iLBC コーデックを使用するコールの CDR の例が含まれています。

発呼側 51234 が着信側 57890 にコールします。

Global Call ID callid	Orig Leg Call Identifier	Dest Leg Call Identifier	Calling Party Number	Orig Called Party Number	Final Called Party Number	Last Redirect Dn	Orig Cause Values	Dest Cause Value	Orig MediaCap Payload Capability
121	101	102	51234	57890	57890	57890	0	16	86

Orig MediaCap Bandwidth	Dest MediaCap Payload Capability	Dest MediaCap Bandwidth
15	86	15

モビリティ

システムでは、次のモビリティ機能がサポートされています。

- Hand-In
- Hand-Out
- Cell Pickup
- Interactive Voice Response (IVR; 自動音声応答)

モビリティ機能を使用するコールごとに、標準 CDR が生成されます。モビリティ機能によってコールが分割、リダイレクトまたは結合されると、対応する OnBehalfOf コードは、モビリティ機能に指定されている新しい値を示します。CAR ロダは、次の OnBehalfOf フィールドをチェックします。

- origCallTerminationOnBehalfOf
- destCallTerminationOnBehalfOf
- origCalledPartyRedirectOnBehalfOf
- lastRedirectRedirectOnBehalfOf
- joinOnBehalfOf

上記のいずれかの OnBehalfOf コードにモビリティ コード 24 が設定されている場合、CDR のモビリティ コール タイプは、CAR ロダによって決まります。モビリティ機能には、4 つの redirectResource コード (Hand-In (コード 303)、Hand-Out (コード 319)、Cell Pickup (コード 335)、および IVR (コード 399)) が割り当てられます。

モビリティの CDR の例

デュアルモード フォンの企業固定電話番号が 22285、携帯電話番号が 9728324124 とします。次の表には、以下のシナリオでデュアルモード フォンを使用するモビリティ コールの CDR の例が含まれています。

- 例 A : モビリティ Follow Me : 22202 が 22285 にコールし、22285 と 9728324124 の両方で呼出音が鳴ります。携帯電話がこのコールに応答します。80 秒間の通話が行われます。
- 例 B : モビリティ Hand-In : コールが携帯電話に着信します。39 秒間の通話が行われ、デュアルモード フォンが企業ネットワークに接続され、このコールは携帯電話ネットワークから企業ネットワークに切り替えられます。さらに 15 秒間の通話が続きます。
- 例 C : モビリティ Hand-Out : Handout 番号 (H 番号) に 555123 が指定されています。企業固定電話番号 22285 にコールが着信します。21 秒間の通話の後、デュアルモード フォンが企業ネットワークから切り離され、携帯電話ネットワークに接続されます。このコールは企業ネットワークから携帯電話ネットワーク (9728324124) に切り替えられます。さらに 39 秒間の通話が続きます。
- 例 D : モビリティ Cell Pickup : 22285 へのコールが確立されます。40 秒間の通話の後、Cell Pickup が開始されます。このコールは企業固定電話から携帯電話に切り替えられます。さらに 111 秒間の通話が続きます。
- 例 E : モビリティ IVR : コールが文字列 (DID#RemoteDest#TargetNum#) とともに Cisco Unified Communications Manager に着信します。このコールは TargetNum にリダイレクトされます。9728131234 が IVR にコールし、データが収集されます。転送先に 812345 が指定され、このコールは 812345 にリダイレクトされます。コールは 60 秒間接続されます。

	Global Call ID callid	Orig Leg Call Identifier	Dest Leg Call Identifier	Calling Party Number	Orig Called Party Number	Final Called Party Number	Last RedirectDn	Orig Cause Values
A : Follow Me コールの CDR	861	22481077	22481078	22202	22285	9728324124	22285	16
B : モビリティ HandIn : 携帯電話 #9728324214 への コールの CDR	864	22481083	22481085	22202	919728324124	919728324124	9199728324124	393216
B: 企業固定電話への HandIn コールの CDR	864	22481083	22481087	22202	22285	22285	22285	0
C : 企業固定電話 22285 への HandOut コールの CDR	964	22481093	22481094	22202	22285	22285	22285	393216
C: 携帯電話から H 番号への HandOut サーバ コールの CDR	965	22481095	22481096	9728324124	555123	555123	555123	393216
C : HandOut コールの CDR	964	22481093	22481095	22202	9728324124	9728324124	9728324124	0
D: モビリティ Cell Pickup 企業固定電話の 22285 への コールの CDR	555	22481111	22481112	22202	22285	22285	22285	393216
D: モビリティ Cell Pickup サーバの携帯電話へのコールの CDR	566	22481222	22481223		9728324124	9728324124	9728324124	0
D : モビリティ最後の Handout コールの CDR	964	22481111	22481222	22202	9728324124	9728324124	0728324124	0
E: モビリティ IVR の CDR	12345	16677100	16677102	9728131234	8005559876	812345	8005559876	0

Dest Cause Value	Last Redirect Redirect Reason	Last Redirect Redirect OnBehalOf	Orig Termination OnBehalfOf	Dest Termination OnBehalfOf	Joint OnBehalfOf	Duration
0	0	0			0	80
393216	0	0	24	24	0	39
16	303	24	24	12	24	15
393216	0	0	24	24	0	21
393216	0	0	24	24	0	0
16	319	24	24	12	24	39
393216	0	0	24	24	0	40

Dest Cause Value	Last Redirect Redirect Reason	Last Redirect Redirect OnBehalOf	Orig Termination OnBehalOf	Dest Termination OnBehalOf	Joint OnBehalOf	Duration
0	0	0	24	24	0	0
16	335	24	24	12	24	111
16	399	24	0	0	N/A	60

インターコム

インターコム機能は、単方向の音声を提供します。このため、CDR にも単方向の音声も反映されません。トークバック インターコムでは双方向の音声があるため、CDR にも双方向の音声も反映されます。

インターコム機能には、パーティション（インターコム パーティション）、およびインターコムコールの識別に使用される既存の CDR パーティションフィールドが必要です。

インターコムの CDR の例

電話機 20000 で、以下のシナリオのインターコムが開始されます。

- 例 A：ウィスパー インターコム：設定済みのインターコム パーティションに「intercom」が指定されています。
- 例 B：トークバック インターコム：電話機 20000 がインターコム ボタンを押します。20001 がトークバックを開始して 20000 と通話します。設定済みのインターコム パーティションは「intercom」を示します。

	Global Call ID callid	Orig Leg Call Identifier	Dest Leg Call Identifier	Calling Party Number	Orig Called Party Number	Final Called Party Number	Orig Cause Values	Dest Cause Value
A：ウィスパー インターコムの CDR	1111000	21822467	21822468	20000	20001	20001	16	0
B：トークバック インターコムの CDR	1111000	21822469	21822470	20000	20001	20001	16	0T

Orig Media Transport Address IP	Orig Media Transport Address Port	Dest Media Transport Address IP	Dest Media Transport Address Port	Orig Called Party Number Partition	Calling Party Number Partition	Final Called Party Number Partition	Duration
0	0	-47446006	28480	Intercom	Intercom	Intercom	5
-131332086	29458	-47446006	29164	Intercom	Intercom	Intercom	5

転送時の元の発呼側

この機能は、Cisco Unity または Cisco Unity Connection が発信したコール転送の打診コールの発呼側番号を変更するものです。打診コールの CDR には、Cisco Unity または Cisco Unity Connection ポートが転送先にコールしたのではなく、元の発信者が転送先にコールしたことが示されます。

この機能は、Cisco Unified Communications Manager のサービス パラメータで設定する必要があります。詳細については、P.2-3 の「CDR のサービス パラメータの設定」を参照してください。

転送時の元の発呼側の CDR の例

4001 が 4002 にコールします。4002 はこのコールを 4003 に転送します。この場合、次の 3 つの CDR が生成されます。

- 元のパーティ間のコール (4001 から 4002)
- 転送するパーティ (4002) と最終転送先 (4003) 間の打診コール
- 転送されたパーティ (4001) から転送先 (4003) 間のコール

コール	CallingPartyNumber	originalCalledPartyNumber
1	4001	4002
2	4002	4003
3	4001	4003



(注) CDR に originalCallingParty フィールドはありません。

CDR 内の Cisco Personal Assistant データの解釈

Cisco Personal Assistant アプリケーションは、着信コールを選択的に処理し、発信コールを支援します。この項では、Personal Assistant の概要を説明し、CDR のシナリオ例を使用して Personal Assistant のコールタイプについて説明します。

Personal Assistant には、次の機能があります。

- **ルールベースのコールルーティング**：Personal Assistant は、ユーザが定めたルールに基づいて着信コールの自動転送や選別を行います。Personal Assistant は、発信者 ID、日時、またはユーザカレンダー（勤務時間、会議スケジュール、休暇、休業日など）に基づくユーザ会議ステータスに応じて着信コールを処理できます。また、Personal Assistant は選択的にコールを他の電話番号に転送できます。
このため、Personal Assistant は、ユーザが定めるルールに基づいて着信コールをデスクの電話、携帯電話、自宅の電話、またはその他の電話機に転送できます。着信コールは電子メールベースのページも生成できます。
- **音声対応ディレクトリダイヤリング**：Personal Assistant では、相手の名前を発声することによって電話番号をダイヤルできます。Personal Assistant は、企業ディレクトリまたは個人アドレス帳から相手の電話番号を取得します。
- **音声対応ボイスメールの閲覧**：ユーザは、ボイス コマンドを使用してボイスメール メッセージの閲覧、受信、および削除ができます。
- **音声対応シンプルアドホック会議**：ユーザは、目的の参加者との会議コールを設定するように Personal Assistant に指示することにより、会議を開始できます。

Personal Assistant には、次のコールタイプがあります。

- [Personal Assistant ダイレクトコール \(P.10-32\)](#)
- [メディアポートに入ってコールを転送する Personal Assistant インターセプタ \(P.10-33\)](#)
- [直接送信先に入る Personal Assistant インターセプタ \(P.10-33\)](#)
- [複数の送信先に入る Personal Assistant インターセプタ \(P.10-34\)](#)
- [Personal Assistant 会議 \(P.10-37\)](#)

Personal Assistant ダイレクトコール

Personal Assistant ダイレクトコールは、打診なしの転送コールタイプと同様に機能します。[P.10-16 の「打診なしの転送」](#)を参照してください。

Personal Assistant ダイレクトコールの CDR の例

次の表には、以下のシナリオの CDR の例が含まれています。

- ユーザ A (2101) が Personal Assistant ルートポイント (2000) にコールし、「call User B」と発声します。
- このコールがユーザ B (2105) に転送されます。この場合、ユーザ B はルールを設定していません。



(注)

次の例では、2000 は Personal Assistant に到達するためのメイン Personal Assistant ルートポイント、21XX は Personal Assistant インターセプタ ルートポイント、および 2001 ~ 2004 はメディアポートです。

いずれの場合も、2101 が発信番号になります。

Calling Party Num	Orig LegCall Identifier	Calling Party Number Partition	DestLeg Identifier	Final Called Party Num	Final Called Party Number Partition	Original Called Party Num	Original Called Party Number Partition	Last Redir DN	Last Redirect DN Partition	Duration (secs)
2101	16777217	PAManaged	16777219	2004	Phones	2000	1023970182	2000	Phones	34
2004	16777221	Phones	16777222	2105	PAManaged	2105	1023970182	2105	PAManaged	0
2101	16777217	PAManaged	16777222	2105	PAManaged	2105	1023970191	2105	PAManaged	5

メディア ポートに入ってコールを転送する Personal Assistant インターセプタ

このシナリオは、打診なしの転送および自動転送されたコールと同様の動作をします。P.10-16 の「打診なしの転送」および P.10-13 の「自動転送またはリダイレクトされたコール」の項を参照してください。

メディア ポートに入ってコールを転送する Personal Assistant インターセプタの例

次の表には、以下のシナリオの CDR の例が含まれています。

- ユーザ A (2101) が 2105 にダイヤルします。
- Personal Assistant インターセプタ (21XX) がこのコールをピックアップし、メディア ポート (2002) にリダイレクトします。
- Personal Assistant はルール (設定されている場合) に従ってこのコールを処理し、送信先 (2105) にコールします。この送信先にルールは設定されていません。

Calling Party Num	Orig LegCall Identifier	Calling Party Number Partition	DestLeg Identifier	Final Called Party Num	Final Called Party Number Partition	Original Called Party Num	Original Called Party Number Partition	Last Redir DN	Last Redirect DN Partition	Duration (secs)
2002	16777234	Phones	16777285	2105	PAManaged	2105	1023970478	2105	PAManaged	2
2101	16777230	PAManaged	16777232	2002	PA	2105	1023970478	21xx	“ “	9
2105	16777235	PAManaged	16777230	2101	“ “	“ “	1023970483	“ “	“ “	5

直接送信先に入る Personal Assistant インターセプタ

このシナリオでは、ルールありとルールなしの 2 つのケースが考えられます。

送信先 (ルールなし) に直接入る Personal Assistant の CDR の例

次の表には、以下のシナリオの CDR の例が含まれています。

- ユーザ A (2101) が 2105 にダイヤルします。
- Personal Assistant インターセプタ (21XX) がこのコールをピックアップし、ルール (設定されている場合) に従って処理し、送信先 (2105) にリダイレクトします。

Calling Party Number	OrigLeg Call Identifier	Calling Party Number Partition	DestLeg Identifier	Final Called Party Number	Final Called Party Number Partition	Original Called Party Number	Original Called Party Number Partition	Last Redirect DN	Last Redirect DN Partition	Duration (secs)
2101	16777240	PAManaged	16777242	2105	PA	2105	1023970710	21XX	“ “	8

送信先（ルールあり）に直接入って異なる送信先にコールを自動転送する Personal Assistant の CDR の例

次の表には、以下のシナリオの CDR の例が含まれています。

- ユーザ A（2101）が 2105 にダイヤルします。
- Personal Assistant インターセプタ（21XX）がこのコールをピックアップし、ルールに従って処理します。
- 次に Personal Assistant インターセプタはこのコールを最終送信先（2110）にリダイレクトします。この場合、2105 はコールを内線 2110 に自動転送するルールを設定しています。

Calling Party Number	OrigLeg Call Identifier	Calling Party Number Partition	DestLeg Identifier	Final Called Party Number	Final Called Party Number Partition	Original Called Party Number	Original Called Party Number Partition	Last Redire ct DN	Last Redirect DN Partition	Duration (secs)
2101	16777240	PAManaged	16777242	2110	PA	2105	1023970710	21XX	“ “	8

複数の送信先に入る Personal Assistant インターセプタ

このシナリオには、複数の異なるケースが考えられます。いずれのケースでも、ユーザ B（2105）は内線 2110 または 2120 に到達するルールを設定しています。発信者が Personal Assistant ルータ ポイント（2000）にコールして「call User B」と発声した場合（ダイレクトのケース）、または発信者がユーザ B（2105）に直接ダイヤルした場合（代行受信のケース）、このルールが有効になります。

複数の送信先に入る Personal Assistant インターセプタの CDR の例

次の各項では、ケースごとに例を説明しています。各表には、これらのシナリオのそれぞれの CDR の例が含まれています。

- [Personal Assistant ダイレクトでの複数の送信先 2110 および 2120（最初の送信先でコールが受信されるケース）（P.10-34）](#)
- [Personal Assistant ダイレクトでの複数の送信先 2110 および 2120（2 番目の送信先でコールが受信されるケース）（P.10-35）](#)
- [Personal Assistant ダイレクトでの複数の送信先 2110 および 2120（3 番目の送信先でコールが受信されるケース）（P.10-35）](#)
- [Personal Assistant 代行受信での複数の送信先 2110 および 2120（最初の送信先でコールが受信されるケース）（P.10-36）](#)
- [Personal Assistant 代行受信での複数の送信先 2110 および 2120（2 番目の送信先でコールが受信されるケース）（P.10-36）](#)
- [Personal Assistant 代行受信での複数の送信先 2110 および 2120（3 番目の送信先でコールが受信されるケース）（P.10-36）](#)

Personal Assistant ダイレクトでの複数の送信先 2110 および 2120（最初の送信先でコールが受信されるケース）

- ユーザ A が Personal Assistant にコールし、「call User B」と発声します。
- ユーザ B が内線 2110 でこのコールに応答します。

Calling Party Num	Orig LegCall Identifier	Calling Party Number Partition	DestLeg Identifier	Final Called Party Num	Final Called Party Number Partition	Original Called Party Num	Original Called Party Number Partition	Last Redir DN	Last Redirect DN Partition	Duration (secs)
2004	16777262	Phones	16777263	2110	PAManaged	2110	1023971303	2110	PAManaged	6
2101	16777258	PAManaged	16777260	2004	Phones	2000	1023971303	2000	Phones	22
2110	16777263	PAManaged	16777258	2101	“ “	“ “	1023971312	“ “	“ “	9

Personal Assistant ダイレクトでの複数の送信先 2110 および 2120（2 番目の送信先でコールが受信されるケース）

- ユーザ A が Personal Assistant にコールし、「call User B」と発声します。
- ユーザ B が内線 2120 でこのコールに応答します。

Calling Party Num	Orig LegCall Identifier	Calling Party Number Partition	DestLeg Identifier	Final Called Party Num	Final Called Party Number Partition	Original Called Party Num	Original Called Party Number Partition	Last Redir DN	Last Redirect DN Partition	Duration (secs)
2001	16777269	Phones	16777270	2110	PAManaged	2110	1023971456	2110	PAManaged	0
2001	16777272	Phones	16777273	2120	PAManaged	2120	1023971467	2120	PAManaged	4
2101	16777265	PAManaged	16777267	2001	Phones	2000	1023971467	2000	Phones	37
2120	16777273	PAManaged	16777265	2101	“ “	“ “	1023971474	“ “	“ “	7
2110	16777275	PAManaged	0	“ “	“ “	“ “	1023971476	“ “	“ “	0

Personal Assistant ダイレクトでの複数の送信先 2110 および 2120（3 番目の送信先でコールが受信されるケース）

- ユーザ A が Personal Assistant にコールし、「call User B」と発声します。
- ユーザ B は内線 2110 でも 2120 でも応答しません。
- Personal Assistant がこのコールを元の送信先（2105）に転送すると、ユーザ B はこの内線で応答します。



(注) このケースでは、2105（元の送信先）は、3 番目の送信先になります。

Calling Party Num	Orig LegCall Identifier	Calling Party Number Partition	DestLeg Identifier	Final Called Party Num	Final Called Party Number Partition	Original Called Party Num	Original Called Party Number Partition	Last Redir DN	Last Redirect DN Partition	Duration (secs)
2002	16777281	Phones	16777282	2110	PAManaged	2110	1023971602	2110	PAManaged	0
2002	16777284	Phones	16777285	2120	PAManaged	2120	1023971615	2120	PAManaged	0
2101	16777277	PAManaged	16777279	2002	Phones	2000	1023971619	2000	Phones	38
2002	16777287	Phones	16777288	2105	PAManaged	2105	1023971619	2105	PAManaged	0
2101	16777277	PAManaged	16777288	2105	PAManaged	2105	1023971627	2105	PAManaged	7
2105	16777289	PAManaged	0	“ “	“ “	“ “	1023971629	“ “	“ “	0

Personal Assistant 代行受信での複数の送信先 2110 および 2120（最初の送信先でコールが受信されるケース）

- ユーザ A が Personal Assistant にコールし、「call User B」と発声します。
- ユーザ B が内線 2110 でこのコールに応答します。

Calling Party Num	Orig LegCall Identifier	Calling Party Number Partition	DestLeg Identifier	Final Called Party Num	Final Called Party Number Partition	Original Called Party Num	Original Called Party Number Partition	Last Redir DN	Last Redirect DN Partition	Duration (secs)
2003	16777295	Phones	16777296	2110	PAManaged	2110	1023971740	2110	PAManaged	4
2101	16777291	PAManaged	16777293	2003	PA	2105	1023971740	21XX	“ “	10
2110	16777296	PAManaged	16777291	2101	“ “	“ “	1023971749	“ “	“ “	9

Personal Assistant 代行受信での複数の送信先 2110 および 2120（2 番目の送信先でコールが受信されるケース）

- ユーザ A が Personal Assistant にコールし、「call User B」と発声します。
- ユーザ B が内線 2120 でこのコールに応答します。

Calling Party Num	Orig LegCall Identifier	Calling Party Number Partition	DestLeg Identifier	Final Called Party Num	Final Called Party Number Partition	Original Called Party Num	Original Called Party Number Partition	Last Redir DN	Last Redirect DN Partition	Duration (secs)
2004	16777302	Phones	16777303	2110	PAManaged	2110	1023971815	2110	PAManaged	0
2004	16777305	Phones	16777306	2120	PAManaged	2120	1023971824	2120	PAManaged	3
2101	16777298	PAManaged	16777300	2004	PA	2105	1023971824	21XX	“ “	22
2120	16777306	PAManaged	16777298	2101	“ “	“ “	1023971832	“ “	“ “	8

Personal Assistant 代行受信での複数の送信先 2110 および 2120（3 番目の送信先でコールが受信されるケース）

- ユーザ A が Personal Assistant にコールし、「call User B」と発声します。
- ユーザ B は内線 2110 でも 2120 でも応答しません。
- Personal Assistant がこのコールを元の送信先（2105）に転送すると、ユーザ B は応答します。



(注) このケースでは、2110（元の送信先）は、3 番目の送信先になります。

Calling Party Num	Orig LegCall Identifier	Calling Party Number Partition	DestLeg Identifier	Final Called Party Num	Final Called Party Number Partition	Original Called Party Num	Original Called Party Number Partition	Last Redir DN	Last Redirect DN Partition	Duration (secs)
2001	16777312	Phones	16777313	2110	PAManaged	2110	1023971923	2110	PAManaged	0
2001	16777315	Phones	16777316	2120	PAManaged	2120	1023971936	2120	PAManaged	0
2101	16777308	PAManaged	16777310	2001	PA	2105	1023971940	21XX	“ “	30
2001	16777318	Phones	16777319	2105	PAManaged	2105	1023971940	2105	PAManaged	0
2101	16777308	PAManaged	16777319	2105	PAManaged	2105	1023971953	2105	PAManaged	12

Personal Assistant 会議

Personal Assistant 会議は、アドホック会議コールタイプと同様に機能します。詳細については、P.10-17 の「[会議コール](#)」を参照してください。

Personal Assistant 会議の CDR の例

次の表には、以下のシナリオの CDR の例が含まれています。

- ユーザ A が Personal Assistant ルートポイント (2000) にコールして「conference User B (2105) and User C (2110)」と発声します。
- Personal Assistant は、ユーザ B と C をユーザ A の会議に追加します。

Calling Party Num	Orig LegCall Identifier	Calling Party Number Partition	DestLeg Identifier	Final Called Party Num	Final Called Party Number Partition
2003	16777345	Phones	16777346	2105	PAManaged
2101	16777340	PAManaged	16777342	2003	Phones
2003	16777350	Phones	16777351	2002	PAManaged
2003	16777342	Phones	16777347	2110	“ “
2110	16777351	PAManaged	16777352	b00110201001	“ “
2105	16777346	PAManaged	16777349	b00110201001	“ “
2101	16777340	PAManaged	16777348	b00110201001	“ “

この表には、次の追加情報が含まれています。

Original Called Party Number	Original Called Party Number Partition	Last Redirect DN	Last Redirect DN Partition	Duration (seconds)
2105	1023972575	2105	PAManaged	6
2000	1023972576	2003	Phones	62
2110	1023972595	2110	PAManaged	39
b00110201001	1023972601	b00110201001	“ “	25
b00110201001	1023972609	b00110201001	“ “	14
b00110201001	1023972610	b00110201001	“ “	34
b00110201001	1023972610	b00110201001	“ “	34

コール シナリオ

2つのパーティ間の通常のコールは、1つの CDR に記録されます。各 CDR には、前のシナリオで示されたすべてのフィールドが含まれていますが、一部のフィールドが使用されていない場合があります。フィールドが使用されていない場合、ASCII 文字列のフィールドは空白、数字のフィールドは「0」のままです。補足サービスがコールに参加している場合、追加の CDR が書き込まれることがあります。

CDR に加えて、エンドポイントごとに 1つの CMR が生成されます。IP Phone を使用している 2つのパーティ間の通常のコールでは、2つの CMR（発信者用に 1つ、コールの宛先用に 1つ）が書き込まれます。

この項では、さまざまなコール タイプに対して書き込まれるレコードについて説明します。コールごとのすべてのレコードおよび重要なフィールドを要約した表に示しているため、見やすくまた比較しやすくなっています。

- [通常のコール \(IP Phone と IP Phone\) \(P.10-39\)](#)
- [放棄呼 \(P.10-40\)](#)
- [話し中のコールまたは送信先が不正なコール \(失敗したコール\) \(P.10-41\)](#)
- [自動転送されたコール \(P.10-42\)](#)
- [コール ピックアップ \(P.10-44\)](#)
- [レガシー コール ピックアップ \(P.10-45\)](#)
- [転送されたコール \(P.10-46\)](#)
- [会議コール \(P.10-49\)](#)
- [セキュア ミートミー会議 \(P.10-51\)](#)
- [アドホック会議のリンク \(P.10-51\)](#)
- [コール パーク \(P.10-60\)](#)
- [優先コール \(MLPP\) \(P.10-62\)](#)
- [迷惑呼 \(P.10-63\)](#)
- [即時転送 \(ボイス メッセージング システム宛\) \(P.10-64\)](#)
- [割込み \(P.10-65\)](#)
- [C 割込 \(P.10-67\)](#)
- [ビデオコール \(P.10-68\)](#)
- [FAC \(Forced Authorization Code\) \(P.10-69\)](#)
- [クライアント証明書コード \(CMC\) \(P.10-70\)](#)
- [セキュリティ保護されたコール \(P.10-70\)](#)
- [セキュア ミートミー会議 \(P.10-51\)](#)
- [DTMF 方式 \(P.10-71\)](#)
- [RSVP \(P.10-72\)](#)
- [リダイレクト \(3xx\) コール \(P.10-73\)](#)
- [Replaces コール \(P.10-74\)](#)
- [Refer コール \(P.10-75\)](#)
- [モニタリングする側のコール \(P.10-75\)](#)
- [録音する側のコール \(P.10-76\)](#)
- [AAC コールおよび iLBC コール \(P.10-78\)](#)
- [モビリティ \(P.10-78\)](#)
- [インターコム コール \(P.10-81\)](#)

通常のコール (IP Phone と IP Phone)

通常のコールでは、コールごとに 3 つのレコード (エンドポイントごとに 1 つの CDR と 2 つの CMR) がログに記録されます。CDR では、「originalCalledPartyNumber」フィールドに「finalCalledPartyNumber」フィールドと同じ電話番号が格納されます。

成功したコールの例

2 台の Cisco Unified IP Phone 間でコールが成功すると、コールの終了時に 1 つの CDR が生成されます。

- 発信者が 60 秒のコールを終了します。発呼側が電話を切ったため、orig_CauseValue には 16 (通常の切断) が設定されます。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	1
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	101
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	2309
finalCalledPartyNumber	2309
lastRedirectDn	2309
origCause_Value	16
dest_CauseValue	0
duration	60

- 着信側が 60 秒のコールを切断します。着信側が電話を切ったため、dest_CauseValue には 16 (通常の切断) が設定されます。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	1
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	101
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	2309
finalCalledPartyNumber	2309
lastRedirectDn	2309
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
duration	60

放棄呼

接続時間ゼロのコールのロギングは、オプションです。通常、このようなレコードは記録されません。接続時間ゼロのコールのロギングが有効になっている場合、すべてのコールで CDR が生成されます。

コールが放棄された場合（電話機を一旦オフフックにしてから再びオンフックにした場合など）、各フィールドにはデータは格納されません。この場合、**originalCalledPartyNumber**、**finalCalledPartyNumber**、これらに関連付けられているパーティション、**destIpAddr**、および **dateTimeConnect** の各フィールドは空白のままです。接続されなかったコールの**接続時間**は、ゼロ秒になります。コールが放棄されると、原因コードにはゼロが設定されます。

ユーザが電話番号をダイヤルし、接続前にそのコールを放棄した場合、**origCalledPartyNumber** フィールドと **finalCalledPartyNumber** フィールドおよびこれらに関連するパーティションには、電話番号とそのコールが拡張されるはずだったパーティションが格納されます。**destIPAddress** フィールドは空白のまま、**duration** にはゼロが設定されます。

放棄呼の例

- 内線 2001 が一旦オフフック状態になってから、オンフック状態になりました。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	1
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	0
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	
finalCalledPartyNumber	
lastRedirectDn	
origCause_Value	16
dest_CauseValue	0
duration	0

- 内線 2001 が 2309 に電話したが、応答がある前に 2001 が電話を切りました（放棄しました）。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	2
origLegCallIdentifier	200
destLegCallIdentifier	201
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	2309
finalCalledPartyNumber	2309
lastRedirectDn	2309
origCause_Value	16
dest_CauseValue	0
duration	0

話し中のコールまたは送信先が不正なコール（失敗したコール）

このようなコールは、該当フィールドにデータが格納された通常のコールとして記録されます。Calling または Called Party Cause フィールドには、なぜコールが接続されなかったかを示す原因コードが格納され、Called Party IP および Date/Time Connect フィールドは空白のままです。接続時間ゼロのコールが記録されない場合でも、失敗したコールは記録されます。

失敗したコールの例

- PSTN 番号に電話したが、パーティが話し中になっています（原因 17 = ユーザが話し中）。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	3
origLegCallIdentifier	300
destLegCallIdentifier	301
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	9728134987
origCause_Value	0
dest_CauseValue	17
duration	0

- PSTN 番号に電話したが、番号が存在しません（原因 1 = 番号が使用不可）。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	4
origLegCallIdentifier	302
destLegCallIdentifier	303
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	9728134987
origCause_Value	1
dest_CauseValue	0
duration	0

- PSTN トランクに異常があるため、PSTN へのコールが失敗します（原因 38 = ネットワークの異常）。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	5
origLegCallIdentifier	304
destLegCallIdentifier	305
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	9728134987
origCause_Value	0
dest_CauseValue	38
duration	0

自動転送されたコール

コール転送では、自動転送されたコールに対してリダイレクト コール プリミティブが使用されます。リダイレクト コール プリミティブを使用する機能では、CDR は同じになります。次に、自動転送されたコールの重要な CDR フィールドの一部を示します。

- **originalCalledPartyNumber** には、元の着信側の番号が格納されます。
- **finalCalledPartyNumber** は、コールに応答した番号を示します。
- **lastRedirectDn** フィールドは、最後にリダイレクトを実行した番号を示します。
- **origCalledPartyRedirectReason** は、最初にコールがリダイレクトされた原因を示します。コール転送の場合、このフィールドに格納される値（話中転送 =1、無応答時転送 =2、すべてのコールの転送 =15）。
- **lastRedirectRedirectReason** は、最後にコールがリダイレクトされた原因を示します。コール転送の場合、このフィールドに格納される値（話中転送 =1、無応答時転送 =2、すべてのコールの転送 =15）。
- **origCalledPartyRedirectOnBehalfOf** フィールドは、最初のリダイレクトでコールをリダイレクトした機能を示します。コール転送の場合、このフィールドは 5（自動転送）を示します。
- **lastRedirectRedirectOnBehalfOf** フィールドは、最後のリダイレクトでコールをリダイレクトした機能を示します。コール転送の場合、このフィールドは 5（自動転送）を示します。

自動転送の例

- **CFA の例**: PSTN から内線 2001 にコールが着信し、このコールは 2309 に自動転送され (CFA)、そこでコールの応答があり、2 分間の通話が行われます。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	12345
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	102
callingPartyNumber	9728134987
originalCalledPartyNumber	2001
finalCalledPartyNumber	2309
lastRedirectDn	2001
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origCalledPartyRedirectReason	15
lastRedirectRedirectReason	15
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	5
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	5
duration	120

- 複数のホップ CFA および CFNA の例 : PSTN から内線 1000 にコールが着信し、このコールは 2000 に自動転送され (CFA)、その後ボイス メッセージング システム (6000) に自動転送 (CFNA) され、そこでメッセージが残されます。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	12346
origLegCallIdentifier	102
destLegCallIdentifier	105
callingPartyNumber	9728134987
originalCalledPartyNumber	1000
finalCalledPartyNumber	6000
lastRedirectDn	2000
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origCalledPartyRedirectReason	15
lastRedirectRedirectReason	2
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	5
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	5
duration	15

- 複数のホップ CFNA および CFB の例 : PSTN から内線 4444 にコールが着信し、このコールは 5555 に自動転送され (CFNA)、その後 6666 に自動転送され (CFB)、そこでコールの応答があり、30 秒間の通話が行われます。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	12347
origLegCallIdentifier	106
destLegCallIdentifier	108
callingPartyNumber	9728134987
originalCalledPartyNumber	4444
finalCalledPartyNumber	6666
lastRedirectDn	5555
origCause_Value	16
dest_CauseValue	0
origCalledPartyRedirectReason	2
lastRedirectRedirectReason	1
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	5
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	5
duration	30

コール ピックアップ

Cisco Unified Communications Manager には、次の 2 つのタイプのコール ピックアップがあります。

- [ピックアップ \(P.10-44\)](#)
- [自動ピックアップ \(P.10-44\)](#)

各タイプのコール ピックアップの CDR は、多少異なっています。

ピックアップ

ピックアップ コールの例

PSTN から内線 2000、2001、および 2002 にコールが着信します。これらの内線番号は同じピックアップグループに属しています。内線 2002 が、2001 で呼出音が鳴っているコールをピックアップします。内線 2002 が、このコールに応答し、このコールにより PSTN 発信者と内線 2002 が接続されます。

フィールド名	ピックアップ コールの CDR
globalCallID_callId	22
callingPartyNumber	9728131234
originalCalledPartyNumber	2001
finalCalledPartyNumber	2002
lastRedirectDn	2001
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origTerminationOnBehalfOf	16
destTerminationOnBehalfOf	16
lastRedirectOnBehalfOf	16
lastRedirectReason	5
joinOnBehalfOf	16

自動ピックアップ

自動ピックアップは、自動応答するコール ピックアップと同様に動作します。ユーザは最後の応答ソフトキーを押す必要はありません。コールは自動的に接続されます。自動ピックアップでは、2 つの CDR が生成されます。これらの CDR の Call ID は同じになります。

- 最初の CDR は、元のコール用に生成されます。この CDR の **origTerminationOnBehalfOf** フィールドおよび **destTerminationOnBehalfOf** フィールドの値は、16 (ピックアップ) になります。これは、コールがピックアップ機能のために終了したことを示します。
- 2 番目の CDR は、ピックアップされた後の最後のコール用です。この CDR の **lastRedirectOnBehalfOf** フィールドおよび **joinOnBehalfOf** フィールドの値は、16 (ピックアップ) になります。これは、コールがピックアップ機能のために結合したことを示します。**lastRedirectReason** には、リダイレクト原因 5 (ピックアップ) が格納されます。

自動ピックアップの CDR は、自動ピックアップ、自動グループ ピックアップ、および他の自動ピックアップというすべての自動ピックアップタイプで同じに見えます。

自動ピックアップの例

- **自動ピックアップの例**：PSTN から内線 2001 にコールが着信します。2001 および 2002 は同じピックアップグループに属しています。2002 が、2001 で呼出音が鳴っているコールをピックアップします。このコールは、PSTN 発信者と 2002 を自動的に接続します。2 分間の通話が行われます。

フィールド名	元のコールの CDR	ピックアップの CDR
globalCallID_callId	11	11
origLegCallIdentifier	12345	12345
destLegCallIdentifier	12346	12347
callingPartyNumber	9728134987	9728134987
originalCalledPartyNumber	2001	2002
finalCalledPartyNumber	2001	2002
lastRedirectDn	2001	2001
origCause_Value	393216	16
dest_CauseValue	393216	0
origTerminationOnBehalfOf	16	12
destTerminationOnBehalfOf	16	16
lastRedirectRedirectReason	0	5
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	16
joinOnBehalfOf	0	16
duration	0	120

レガシー コール ピックアップ

レガシー コール ピックアップ コールは、自動転送されたコールと非常によく似た動作をします。レガシー コール ピックアップでは、コール転送と同様にリダイレクト コール制御プリミティブが使用されます。次に、レガシー コール ピックアップ コールの重要な CDR フィールドを示します。

- **originalCallPartyNumber** には、元の着信側の番号が格納されます。
- **finalCalledPartyNumber** は、コールをピックアップしたパーティの番号を示します。
- **lastRedirectDn** フィールドは、コールがピックアップされたときに呼び出していた番号を示します。
- **origCalledPartyRedirectReason** は、最初にコールがリダイレクトされた原因を示します。コールピックアップコールの場合、このフィールドに格納される値（**コール ピックアップ = 5**）。
- **lastRedirectRedirectReason** は、最後にコールがリダイレクトされた原因を示します。コールピックアップの場合、このフィールドに格納される値（**コール ピックアップ = 5**）。
- **origCalledPartyRedirectOnBehalfOf** フィールドは、最初のリダイレクトでコールをリダイレクトした機能を示します。コールピックアップの場合、このフィールドに格納される値（**ピックアップ = 16**）。
- **lastRedirectRedirectOnBehalfOf** フィールドは、最後のリダイレクトでコールをリダイレクトした機能を示します。コールピックアップの場合、このフィールドに格納される値（**ピックアップ = 16**）。

レガシー コール ピックアップの例

PSTN から内線 2001 にコールが着信します。2001 および 2002 は同じピックアップグループに属しています。2002 が、2001 で呼出音が鳴っているコールをピックアップします。2002 はこのコールに応答し、このコールは PSTN 発信者と 2002 を接続します。2 分間の通話が行われます。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	22
origLegCallIdentifier	1
destLegCallIdentifier	2
callingPartyNumber	9728134987
originalCalledPartyNumber	2001
finalCalledPartyNumber	2002
lastRedirectDn	2001
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origCalledPartyRedirectReason	0
lastRedirectRedirectReason	5
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	16
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	16
duration	120

転送されたコール

コールが転送されると、複数の CDR が生成されます。元のコール用に 1 つ、打診コール用に 1 つ、転送された最後のコール用に 1 つの CDR がそれぞれ生成されます。

元のコールの場合、**origCause_value** および **destCause_value** には、コールが分割されたことを示す値（分割 = 393216）がセットされます。**origCallTerminationOnBehalfOf** および **destCallTerminationOnBehalfOf** フィールドには、このコールが転送に関係したことを示す値（転送 = 10）がセットされます。

打診コールの場合、**origCause_value** および **destCause_value** には、コールが分割されたことを示す値（分割 = 393216）がセットされます。**origCallTerminationOnBehalfOf** および **destCallTerminationOnBehalfOf** フィールドには、このコールが転送に関係したことを示す値（転送 = 10）がセットされます。

転送された最後のコールの場合、**joinOnBehalfOf** フィールドには、このコールが転送の結果発生したことを示す値（転送 = 10）がセットされます。

転送の例

次の例は、すべてを網羅しているわけではありませんが、上記のような環境で生成されるレコードを示しています。この例は、転送されたコールに対してどのようなレコードが生成されるかを理解するのに役立ちます。

- **発呼側からのブラインド転送**：内線 2001 から PSTN 番号へのコールで、通話時間は 120 秒です。2001 が 2002 へのブラインド転送を開始します。**CDR 1**（元のコール）は、内線 2001 から PSTN 番号へのコールで、通話時間 120 秒を示します。**CDR 2**（打診コール）は 2001 から内線 2002 へのコールを示します。**CDR 3** は転送された最後のコールで、2001 は転送を完了し、コールから抜け、PSTN と 2002 間のコールを残します。

フィールド名	元のコールの CDR	打診コールの CDR	転送された最後の CDR
globalCallID_callId	1	2	1
origLegCallIdentifier	101	103	102
destLegCallIdentifier	102	104	104
callingPartyNumber	2001	2001	3071111
originalCalledPartyNumber	3071111	2002	2002
finalCalledPartyNumber	3071111	2002	2002
lastRedirectDn	3071111	2002	2001
origCause_Value	393216	393216	16
dest_CauseValue	393216	393216	0
origTerminationOnBehalfOf	10	10	0
destTerminationOnBehalfOf	10	10	0
joinOnBehalfOf	0	0	10
duration	120	0	360

- **発呼側からの打診転送**：内線 2001 から PSTN 番号へのコールで、通話時間は 60 秒です。2001 が 2002 への打診転送を開始し、転送が完了するまで 10 秒間の通話を行います。転送された最後のコールの通話時間は 360 秒です。**CDR 1**（元のコール）は、内線 2001 から PSTN 番号へのコールを示し、通話時間は 60 秒です。**CDR 2**（打診コール）は、2001 から内線 2002 へのコールを示し、通話時間は 10 秒です。**CDR 3** は転送された最後のコールで、2001 は転送を完了し、コールから抜け、PSTN と 2002 間のコールを残します。

フィールド名	元のコールの CDR	打診コールの CDR	転送された最後の CDR
globalCallID_callId	1	2	1
origLegCallIdentifier	111	113	112
destLegCallIdentifier	112	114	114
callingPartyNumber	2001	2001	3071111
originalCalledPartyNumber	3071111	2002	2002
finalCalledPartyNumber	3071111	2002	2002
lastRedirectDn	50001	50001	2001
origCause_Value	393216	393216	16
dest_CauseValue	393216	393216	0
origTerminationOnBehalfOf	10	10	0
destTerminationOnBehalfOf	10	10	0
joinOnBehalfOf	0	0	10
duration	60	10	360

- **着信側からのブライント転送**: 50000 から 50001 へのコールで、通話時間は 120 秒です。50001 が 50002 へのブライント転送を開始します。**CDR 1** (元のコール) は、内線 50001 から 50002 へのコールを示し、通話時間は 120 秒です。**CDR 2** (打診コール) は 50001 から内線 50002 へのコールを示します。**CDR 3** は転送された最後のコールで、50001 は転送を完了し、コールから抜け、50000 と 50002 間のコールを残します。

フィールド名	元のコールの CDR	打診コールの CDR	転送された最後のコールの CDR
globalCallID_callId	1	2	1
origLegCallIdentifier	200	202	200
destLegCallIdentifier	201	203	203
callingPartyNumber	50000	50001	50000
originalCalledPartyNumber	50001	50002	50002
finalCalledPartyNumber	50001	50002	50002
lastRedirectDn	50001	50001	50001
origCause_Value	393216	393216	16
dest_CauseValue	393216	393216	0
origTerminationOnBehalfOf	10	10	0
destTerminationOnBehalfOf	10	10	0
joinOnBehalfOf	0	0	10
duration	120	0	360

- **着信側からの打診転送**: 50000 から 50001 へのコールで、通話時間は 120 秒です。50000 は 50002 へのブライント転送を開始します。**CDR 1** (元のコール) は、内線 50000 から 50001 へのコールを示し、通話時間は 120 秒です。**CDR 2** (打診コール) は 50000 から内線 50002 へのコールを示します。**CDR 3** は転送された最後のコールで、50000 は転送を完了し、コールから抜け、50001 と 50002 間のコールを残します。

フィールド名	元のコールの CDR	打診コールの CDR	転送された最後のコールの CDR
globalCallID_callId	1	2	1
origLegCallIdentifier	200	202	201
destLegCallIdentifier	201	203	203
callingPartyNumber	50000	50001	50000
originalCalledPartyNumber	50001	50002	50002
finalCalledPartyNumber	50001	50002	50002
lastRedirectDn	50001	50001	50001
origCause_Value	393216	393216	16
dest_CauseValue	393216	393216	0
origTerminationOnBehalfOf	10	10	0
destTerminationOnBehalfOf	10	10	0
joinOnBehalfOf	0	0	10
duration	120	0	360

会議コール

会議の一部であるコールでは、複数のレコードがログに記録されます。生成される CDR レコードの数は、会議に参加するパーティの数によって異なります。会議に参加する各パーティに 1 つの CDR、最初に発信されたコールに 1 つの CDR、他のパーティを会議に参加させるために使用した各セットアップ コールに 1 つの CDR、および会議内で接続されている最後の 2 つのパーティに 1 つの CDR がそれぞれ存在します。3 つのパーティからなるアドホック会議では、元のコールに 1 つの CDR、会議に接続されたパーティに 3 つの CDR、各セットアップ コールに 1 つの CDR、および会議での最後の 2 つのパーティに 1 つの CDR、合計 6 つの CDR が存在します。発信レグ ID および着信レグ ID を調べて、セットアップ コールを適切なコール レグに関連付けることができます。

会議ブリッジ デバイスは Cisco Unified Communications Manager に対して特別な意味があり、会議ブリッジへのコールは会議ブリッジ デバイスへのコールとして表示されます。「b0019901001」という形式の特殊な番号は、会議ブリッジ ポートを示します。レコードには、実際の方向に関係なく、すべてのコールが会議ブリッジへのコールとして示されます。ただし、セットアップ コールの CDR を調べることによって、各コールの元の方向を判断できます。

会議の司会者情報は、CDR の Comment フィールドに表示されます。この情報の形式は次のとおりです。

Comment フィールド = “ConfControllerDn=1000;ConfControllerDeviceName=SEP0003”

- 会議の司会者の DN とデバイス名により、会議の司会者が一意に特定されます。シェアドラインの場合、デバイス名が必要です。
- コールが複数の会議コールに関係している場合、Comment フィールドには、複数の会議司会者情報が格納されています。会議が 2 つのパーティだけになり、どちらか一方のパーティが別の会議を開始すると、このような状況が発生することがあります。このような場合、Comment フィールドの最後の会議司会者情報によって会議の司会者が特定されます。

会議に接続されているコール レグには、次のフィールド情報があります。

- **finalCalledPartyNumber** フィールドには、会議ブリッジ番号「b0019901001」が格納されます。
- **origCalledPtyRedirectOnBehalfOf** フィールドには、会議を示す 4 がセットされます。
 - **lastRedirectRedirectOnBehalfOf** フィールドには、会議を示す 4 がセットされます。
 - **joinOnBehalfOf** フィールドには、会議を示す 4 がセットされます。
 - **Comment** フィールドで、会議の司会者が特定されます。
 - **destConversationID** フィールドは、会議のすべてのメンバで同一です。このフィールドを使用して、会議コールのメンバを特定できます。

最初に発信されたコールおよびパーティを会議に参加させるために使用されたすべてのセットアップ コールには、次の特性があります。

- **origCallTerminationOnBehalfOf** フィールドには、会議を示す 4 がセットされます。
- **destCallTerminationOnBehalfOf** フィールドには、会議を示す 4 がセットされます。

会議の例

2001 から 2309 へのコールです。

2309 が応答し、60 秒間の通話が行われます。

2001 が会議ソフトキーを押して 3071111 にダイヤルします。

307111 が応答して 20 秒間通話し、その後 2001 が会議ソフトキーを押して会議を終了します。

会議の 3 メンバが 360 秒間の通話を行います。

■ コール シナリオ

3071111 が電話を切り、2001 と 2309 が会議に残ります。この会議には 2 つのパーティだけが残ったため、会議機能により両者は直接結合され、さらに 55 秒間通話します。



(注)

各会議コール レッグは、会議ブリッジへの発信コールとして表示されます。コールは、コールの実際の方向に関係なく、会議ブリッジへのコールとして表示されます。

フィールド名	元のコールの CDR	セットアップコールの CDR	会議 CDR 1	会議 CDR 2	会議 CDR 3	最後の CDR
globalCallID_callId	1	2	1	1	1	1
origLegCallIdentifier	101	105	101	102	106	101
destLegCallIdentifier	102	106	115	116	117	102
callingPartyNumber	2001	2001	2001	2309	3071111	2001
originalCalledPartyNumber	2309	3071111	b0029901001	b0029901001	b0029901001	2309
finalCalledPartyNumber	2309	3071111	b0029901001	b0029901001	b0029901001	2309
lastRedirectDn	2001	3071111	b0029901001	b0029901001	b0029901001	b0029901001
origCause_Value	393216	0	16	393216	393216	16
dest_CauseValue	393216	0	393216	393216	393216	0
origCalledPartyRedirectReason	0	0	0	0	0	0
lastRedirectRedirectReason	0	0	0	0	0	98
origTerminationOnBehalfOf	4	4	12	12	4	12
destTerminationOnBehalfOf	4	4	0	0	4	4
origCalledRedirectOnBehalfOf	0	0	4	4	4	0
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	0	4	4	4	4
joinOnBehalfOf	0	0	4	4	4	4
Conversation ID	0	1		1	1	0
duration	60	360		360	360	55

Comment

元のコールの CDR	
セットアップ コールの CDR	ConfControllerDn=2001;ConfControlderDeviceName=SEP0003E333FEBD
会議 CDR 1	ConfControllerDn=2001;ConfControlderDeviceName=SEP0003E333FEBD
会議 CDR 2	ConfControllerDn=2001;ConfControlderDeviceName=SEP0003E333FEBD
会議 CDR 3	ConfControllerDn=2001;ConfControlderDeviceName=SEP0003E333FEBD
最後の CDR	

セキュア ミートミー会議

次の例は、セキュア ミートミー会議の CDR を示しています。35010 がセキュア ミートミー会議にコールしますが、35010 は非セキュアな電話機です。35010 がミートミー会議の最低セキュリティレベルを満たしていないため、このコールは原因コード 58（ミートミー会議の最低セキュリティレベルが満たされていない）で切断されます。

セキュア会議の例

フィールド名	ミートミー会議へのコールの CDR
globalCallID_callId	5045247
origLegCallIdentifier	123456879
destLegCallIdentifier	123456999
callingPartyNumber	35010
originalCalledPartyNumber	50000
finalCalledPartyNumber	50000
lastRedirectDn	50000
origCause_Value	58
dest_CauseValue	0
origCalledPartyRedirectReason	0
lastRedirectRedirectReason	0
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	0
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0
origTerminationOnBehalfOf	6
destTerminationOnBehalfOf	6

アドホック会議のリンク

アドホック会議リンク機能では、会議の環境に応じてさまざまな CDR が生成されます。次のシナリオは、さまざまな CDR の一部を示しています。

- [参加による会議リンク \(P.10-51\)](#)
- [転送または直接転送による会議リンク \(P.10-53\)](#)
- [リンクされた会議からのパーティの削除 \(P.10-54\)](#)
- [リンクされた会議からのパーティ（司会者）の削除 \(P.10-56\)](#)
- [リンクされた会議の削除 \(P.10-58\)](#)

参加による会議リンク

ブリッジ間のコールの方向は、Carol の 2 つのコールのうち、どちらがプライマリであるかによって異なります。プライマリ コールはそのまま、セカンダリ コールは会議にリダイレクトされます。

Alice が Bob にコールし、Bob が Carol を会議に参加させます（会議 1）。Dave が Carol にコールし、Ed を会議に参加させます（会議 2）。2 つの異なる会議が作成されます。Carol は両方の会議に参加しています。この時点で、CDR1、CDR2、CDR3、および CDR4 が生成されます。

Carol が 2 つの会議に結合されます。この時点で CDR5 が生成されます。

残りのパーティが電話を切ると、パーティが退席した順に残りの CDR が生成されます。

参加による会議リンクの例

フィールド名	CDR1 : Alice -> Bob (元のコール)	CDR2 : Bob -> Carol (打診コール)	CDR3 : Dave -> Carol (元のコール)	CDR4 : Dave -> Ed (打診コール)	CDR5 : Carol -> 会議ブリッジ (会議コール)	CDR6 : Dave -> 会議ブリッジ (会議コール)
globalCallID_callId	1	2	3	4	3	3
origLegCallIdentifier	11	13	21	23	22	21
destLegCallIdentifier	12	14	22	24	25	26
callingPartyNumber	1000	1001	1003	1003	1002	1003
originalCalledPartyNumber	1001	1002	1002	1004	b0029901222	b0029901222
finalCalledPartyNumber	1001	1002	1002	1004	b0029901222	b0029901222
lastRedirectDn	1001	1002	1002	1004	1003	1003
origTerminationOnBehalfOf	4	4	4	4	4	0
destTerminationOnBehalfOf	4	4	4	4	4	0
lastRedirectRedirectReason	0	0	0	0	98	98
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	0	0	0	4	4
origConversationID	0	0	0	0	0	0
destConversationID	0	0	0	0	2222	2222
Comment					ConfControllerDn=1003;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1;ConfRequestorDn-1003;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1	ConfControllerDn=1003;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1;ConfRequestorDn-1003;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1

フィールド名	CDR7 : Ed -> 会議ブリッジ (会議コール)	CDR8 : Dave -> 会議ブリッジ (会議コール)	CDR9 : Alice -> 会議ブリッジ (会議コール)	CDR10 : Bob -> 会議ブリッジ (会議コール)	CDR11 : Carol -> 会議ブリッジ (会議コール)
globalCallID_callId	3	1	1	1	1
origLegCallIdentifier	24	25	11	12	14
destLegCallIdentifier	27	28	15	16	17
callingPartyNumber	1004	b0029901222	1000	1001	1002
originalCalledPartyNumber	b0029901222	b0029901001	b0029901001	b0029901001	b0029901001
finalCalledPartyNumber	b0029901222	b0029901001	b0029901001	b0029901001	b0029901001
lastRedirectDn	1003	1002	1001	1001	1001
origTerminationOnBehalfOf	0	0	0	0	0
destTerminationOnBehalfOf	0	0	0	0	0
lastRedirectRedirectReason	98	98	98	98	98
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	4	4	4	4	4
origConversationID	0	2222			
destConversationID	2222	1111			

フィールド名	CDR7 : Ed -> 会議ブリッジ (会議コール)	CDR8 : Dave -> 会議ブリッジ (会議コール)	CDR9 : Alice -> 会議ブリッジ (会議コール)	CDR10 : Bob -> 会議ブリッジ (会議コール)	CDR11 : Carol -> 会議ブリッジ (会議コール)
Comment	ConfControllerDn=1003;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1;ConfRequestorDn-1003;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1	ConfControllerDn=1003;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1;ConfRequestorDn-1003;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1			

転送または直接転送による会議リンク

Alice が Bob にコールし、Bob が Carol を会議に参加させます (会議 1)。Dave が Carol にコールし、Ed を会議に参加させます (会議 2)。2 つの別々の会議が作成され、Carol は両方の会議に参加しています。この時点で、CDR1、CDR2、CDR3、および CDR4 が生成されます。

Carol は、最初の会議へのコールで直接転送 (DirTrfr) ソフトキーを押します。Alice と Bob が会議 1 に、Dave と Ed は会議 2 にいます。残りのパーティが電話を切ると、パーティが会議を退席した順に残りの CDR が生成されます。



(注)

ブリッジ間のコールの方向は、Carol の 2 つのコールのうち、どちらがプライマリ コールであるかによって異なります。プライマリ コール側が、転送されたコールの発呼側になります。

転送または直接転送による会議リンクの例

フィールド名	CDR1 : Alice -> Bob (元のコール)	CDR2 : Bob -> Carol (打診コール)	CDR3 : Dave -> Carol (元のコール)	CDR4 : Dave -> Carol (打診コール)	CDR5 : Carol -> 会議ブリッジ (会議コール)	CDR6 : Carol -> 会議ブリッジ (会議コール)
globalCallID_callId	1	2	3	4	1	3
origLegCallIdentifier	11	13	21	23	14	22
destLegCallIdentifier	12	14	22	24	17	25
callingPartyNumber	1000	1001	1003	1003	1002	1002
originalCalledPartyNumber	1001	1002	1002	1004	b0029901001	b0029901222
finalCalledPartyNumber	1001	1002	1002	1004	b0029901001	b0029901222
lastRedirectDn	1001	1002	1002	1004	1001	1003
origTerminationOnBehalfOf	4	4	4	4	10	10
destTerminationOnBehalfOf	4	4	4	4	10	10
lastRedirectRedirectReason	0	0	0	0	98	98
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	0	0	0	4	4
origConversationID	0	0	0	0	0	0
destConversationID	0	0	0	0	1111	2222

■ コール シナリオ

フィールド名	CDR1 : Alice -> Bob (元のコール)	CDR2 : Bob -> Carol (打診コール)	CDR3 : Dave -> Carol (元のコール)	CDR4 : Dave -> Carol (打診コール)	CDR5 : Carol -> 会議ブリッジ (会議コール)	CDR6 : Carol -> 会議ブリッジ (会議コール)
Comment					ConfControllerDn=1001;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FEBD;ConfRequestorDn-1001;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FEBD	ConfControllerDn=1003;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1;ConfRequestorDn-1003;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1

フィールド名	CDR7 : Dave -> 会議ブリッジ (会議コール)	CDR : Ed -> 会議ブリッジ (会議コール)	CDR9 : 会議ブリッジ -> 会議ブリッジ	CDR10 : Alice -> 会議ブリッジ (会議コール)	CDR11 : Bob -> 会議ブリッジ (会議コール)
globalCallID_callId	3	3	1	1	1
origLegCallIdentifier	21	24	17	11	12
destLegCallIdentifier	26	27	28	15	16
callingPartyNumber	1003	1004	b0029901001	1000	1001
originalCalledPartyNumber	b0029901222	b0029901222	b0029901222	b0029901001	b0029901001
finalCalledPartyNumber	b0029901222	b0029901222	b0029901222	b0029901001	b0029901001
lastRedirectDn	1003	1003	1002	1001	1001
origTerminationOnBehalfOf	0	0	0	0	0
destTerminationOnBehalfOf	0	0	0	0	0
lastRedirectRedirectReason	98	98	4	98	98
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	4	4	10	4	4
origConversationID	0	0	1111	0	0
destConversationID	2222	2222	2222	1111	1111
Comment	ConfControllerDn=1003;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1;ConfRequestorDn-1003;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1	ConfControllerDn=1003;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1;ConfRequestorDn-1003;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1	ConfControllerDn=1003;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1;ConfRequestorDn-1003;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1	ConfControllerDn=1001;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FEBD;ConfRequestorDn-1001;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FEBD	ConfControllerDn=1001;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FEBD;ConfRequestorDn-1001;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FEBD

リンクされた会議からのパーティの削除

CDR は、パーティが会議を退席した順に生成されます。残りのパーティが 2 つだけになると、この 2 つのパーティは直接結合されます。

Alice が Bob にコールし、Bob が Carol を会議に参加させます (会議 1)。Dave が Carol にコールし、Ed を会議に参加させます (会議 2)。2 つの別々の会議が作成され、Carol は両方の会議に参加しています。この時点で、CDR1、CDR2、CDR3、および CDR4 が生成されます。

Carol は、最初の会議へのコールで直接転送 (DirTrfr) ソフトキーを押します。Alice と Bob は会議 1 に、Dave と Ed は会議 2 にいます。会議 1 と会議 2 は同時に転送されます。Carol が電話を切り、会議 1 には 2 つのパーティだけが残ります。

会議には 2 つのパーティだけが残っているため、Bob と会議リンクはともに結合されます。この時点で、CDR7、CDR8、および CDR9 が生成されます。Bob は会議 1 の司会者であるため、Bob と会議 2 の間のコールでは Bob が発呼側になります。残りのパーティが電話を切ると、パーティが会議を退席した順に残りの CDR が生成されます。



(注)

Bob が司会者ではなく、Bob が会議 1 に参加する前にチェーニングが発生した場合、Bob と会議 2 の間のコールは、CDR に示されている方向と反対方向に生成されます。

会議の最後の 2 つのパーティ間のコールの方向は、だれが会議に最も長くいたかによって異なります。会議に最も長くいたパーティが発呼側になります。

リンクされた会議からのパーティの削除の例

フィールド名	CDR1 : Alice -> Bob (元のコール)	CDR2 : Bob -> Carol (打診コール)	CDR3 : Dave -> Carol (元のコール)	CDR4 : Dave -> Carol (打診コール)	CDR5 : Carol -> 会議ブリッジ (会議コール)	CDR6 : Carol -> 会議ブリッジ (会議コール)
globalCallID_callId	1	2	3	4	1	3
origLegCallIdentifier	11	13	21	23	14	22
destLegCallIdentifier	12	14	22	24	17	25
callingPartyNumber	1000	1001	1003	1003	1002	1002
originalCalledPartyNumber	1001	1002	1002	1004	b0029901001	b0029901222
finalCalledPartyNumber	1001	1002	1002	1004	b0029901001	b0029901222
lastRedirectDn	1001	1002	1002	1004	1001	1003
origTerminationOnBehalfOf	4	4	4	4	10	10
destTerminationOnBehalfOf	4	4	4	4	10	10
lastRedirectRedirectReason	0	0	0	0	98	98
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	0	0	0	4	4
origConversationID	0	0	0	0	0	0
destConversationID	0	0	0	0	1111	2222
Comment					ConfControllerDn=1001;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FEBD;ConfRequestorDn-1001;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FEBD	ConfControllerDn=1003;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1;ConfRequestorDn-1003;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1

フィールド名	CDR7 : Alice -> 会議ブリッジ (会議コール)	CDR8 : Bob -> 会議ブリッジ (会議コール)	CDR9 : 会議ブリッジ-> 会議ブリッジ	CDR10 : Bob -> 会議ブリッジ (会議コール)	CDR11 : Dave -> 会議ブリッジ (会議コール)	CDR12 : Ed -> 会議ブリッジ (会議コール)
globalCallID_callId	1	1	3	3	3	3
origLegCallIdentifier	11	12	25	11	12	24
destLegCallIdentifier	15	16	28	15	16	27
callingPartyNumber	1000	1001	b0029901222	1000	1001	1004
originalCalledPartyNumber	b0029901001	b0029901001	b0029901001	b0029901222	b0029901222	b0029901222
finalCalledPartyNumber	b0029901001	b0029901001	b0029901001	b0029901222	b0029901222	b0029901222
lastRedirectDn	1001	1001	1002	b0029901001	1003	1003
origTerminationOnBehalfOf	16	4	4	4	0	0
destTerminationOnBehalfOf	0	4	4	4	0	0
lastRedirectRedirectReason	98	98	4	98	98	98
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	4	4	10	4	4	4
origConversationID	0	0	2222	0	0	0
destConversationID	1111	1111	1111	2222	2222	2222
Comment	ConfControllerDn=1001; ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FEBD; ConfRequestorDn-1001; ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FEBD	ConfControllerDn=1001; ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FEBD; ConfRequestorDn-1001; ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FEBD	ConfControllerDn=1003; ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1; ConfRequestorDn-1003; ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1	ConfControllerDn=1003; ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1; ConfRequestorDn-1003; ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1	ConfControllerDn=1003; ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1; ConfRequestorDn-1003; ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1	ConfControllerDn=1003; ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1; ConfRequestorDn-1003; ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1

リンクされた会議からのパーティ（司会者）の削除

CDR は、パーティが会議を退席した順に生成されます。残りのパーティが 2 つだけになると、この 2 つのパーティは直接結合されます。

Alice が Bob にコールし、Bob が Carol を会議に参加させます（会議 1）。Dave が Carol にコールし、Ed を会議に参加させます（会議 2）。2 つの別々の会議が作成され、Carol は両方の会議に参加しています。この時点で、CDR1、CDR2、CDR3、および CDR4 が生成されます。

Carol は、最初の会議へのコールで直接転送（DirTrfr）ソフトキーを押します。Alice と Bob は会議 1 に、Dave と Ed は会議 2 にいます。会議 1 と会議 2 は同時に転送されます。Bob が電話を切り、2 つのパーティだけが会議 1 に接続されています。

会議 1 には 2 つのパーティだけが残っているため、Alice と会議リンクは直接結合されます。この時点で、CDR7、CDR8、および CDR9 が生成されます。Alice の方が会議に長くいるため、Alice と会議 2 の間のコールでは Alice が発呼側になります。残りのパーティが電話を切ると、パーティが会議を退席した順に残りの CDR が生成されます。



(注)

会議の最後の 2 つのパーティ間のコールの方向は、だれが会議に最も長くいたかによって異なります。会議に最も長くいたパーティが発呼側になります。

リンクされた会議からの司会者の削除の例

フィールド名	CDR1 : Alice -> Bob (元のコール)	CDR2 : Bob -> Carol (打診コール)	CDR3 : Dave -> Carol (元のコール)	CDR4 : Dave -> Carol (打診コール)	CDR5 : Carol -> 会議ブリッジ (会議コール)	CDR6 : Carol -> 会議ブリッジ (会議コール)
globalCallID_callId	1	2	3	4	1	3
origLegCallIdentifier	11	13	21	23	14	22
destLegCallIdentifier	12	14	22	24	17	25
callingPartyNumber	1000	1001	1003	1003	1002	1002
originalCalledPartyNumber	1001	1002	1002	1004	b0029901001	b0029901222
finalCalledPartyNumber	1001	1002	1002	1004	b0029901001	b0029901222
lastRedirectDn	1001	1002	1002	1004	1001	1003
origTerminationOnBehalfOf	4	4	4	4	10	10
destTerminationOnBehalfOf	4	4	4	4	10	10
lastRedirectRedirectReason	0	0	0	0	98	98
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	0	0	0	4	4
origConversationID	0	0	0	0	0	0
destConversationID	0	0	0	0	1111	2222
Comment					ConfControl lerDn=1001; ConfControl lerDeviceNa me=SEP0003E 333FEBD; Con fRequestorD n-1001; Conf RequestorDe viceName=SE P0003E333FE BD	ConfControl lerDn=1003; ConfControl lerDeviceNa me=SEP0003E 333FAD1; Con fRequestorD n-1003; Conf RequestorDe viceName=SE P0003E333FA D1

フィールド名	CDR7 : 会議ブリッジ-> 会議ブリッジ	CDR8 : Alice -> 会議ブリッジ (会議コール)	CDR9 : 会議ブリッジ-> 会議ブリッジ	CDR10:Alice -> 会議ブリッジ (会議コール)	CDR11:Dave -> 会議ブリッジ (会議コール)	CDR12 : Ed -> 会議ブリッジ (会議コール)
globalCallID_callId	1	1	3	3	3	3
origLegCallIdentifier	12	11	25	11	21	24
destLegCallIdentifier	16	15	28	25	26	27
callingPartyNumber	1001	1000	b0029901222	1001	1003	1004
originalCalledPartyNumber	b0029901001	b0029901001	b0029901001	b0029901222	b0029901222	b0029901222
finalCalledPartyNumber	b0029901001	b0029901001	b0029901001	b0029901222	b0029901222	b0029901222
lastRedirectDn	1001	1001	1002	b0029901001	1003	1003
origTerminationOnBehalfOf	4	16	4	4	0	0
destTerminationOnBehalfOf	4	0	4	4	0	0
lastRedirectRedirectReason	98	98	4	98	98	98
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	4	4	10	4	4	4
origConversationID	0	0	2222	0	0	0

■ コール シナリオ

フィールド名	CDR7 : 会議ブリッジ→ 会議ブリッジ	CDR8 : Alice → 会議ブリッジ (会議コール)	CDR9 : 会議ブリッジ→ 会議ブリッジ	CDR10: Alice → 会議ブリッジ (会議コール)	CDR11: Dave → 会議ブリッジ (会議コール)	CDR12 : Ed → 会議ブリッジ (会議コール)
destConversationID	1111	1111	1111	2222	2222	2222
Comment	ConfControl lerDn=1001; ConfControl lerDeviceNa me=SEP0003E 333FEBD; Con fRequestorD n-1001; Conf RequestorDe viceName=SE P0003E333FE BD	ConfControl lerDn=1001; ConfControl lerDeviceNa me=SEP0003E 333FEBD; Con fRequestorD n-1001; Conf RequestorDe viceName=SE P0003E333FE BD	ConfControl lerDn=1003; ConfControl lerDeviceNa me=SEP0003E 333FAD1; Con fRequestorD n-1003; Conf RequestorDe viceName=SE P0003E333FA D1	ConfControl lerDn=1003; ConfControl lerDeviceNa me=SEP0003E 333FAD1; Con fRequestorD n-1003; Conf RequestorDe viceName=SE P0003E333FA D1	ConfControl lerDn=1003; ConfControl lerDeviceNa me=SEP0003E 333FAD1; Con fRequestorD n-1003; Conf RequestorDe viceName=SE P0003E333FA D1	ConfControl lerDn=1003; ConfControl lerDeviceNa me=SEP0003E 333FAD1; Con fRequestorD n-1003; Conf RequestorDe viceName=SE P0003E333FA D1

リンクされた会議の削除

Alice が Bob にコールし、Bob が Carol を会議に参加させます (会議 1)。Dave が Carol にコールし、Ed を会議に参加させます (会議 2)。2 つの別々の会議が作成され、Carol は両方の会議に参加しています。この時点で、CDR1、CDR2、CDR3、および CDR4 が生成されます。

Carol は、最初の会議へのコールで**直接転送** (DirTrfr) ソフトキーを押します。Alice と Bob は会議 1 に、Dave と Ed は会議 2 にいます。会議 1 と会議 2 は同時に転送されます。

Bob が参加者ソフトキーを押すと、Alice、Bob、および会議リンク「Conference」がリストに表示されます。Bob は「Conference」を選択し、**削除**ソフトキーを押します。この時点で、CDR7、CDR8、および CDR9 が生成されます。会議リンクが削除され、2 つのパーティが会議に残っています。

残りの 2 つのパーティは結合されます。会議 1 では Alice と Bob が、会議 2 では Dave と Ed が結合されます。残りのパーティが電話を切ると、パーティが退席した順に残りの CDR が生成されます。

リンクされた会議の削除の例

フィールド名	CDR1 : Alice → Bob (元のコール)	CDR2 : Bob → Carol (打診コール)	CDR3 : Dave → Carol (元のコール)	CDR4 : Dave → Carol (打診コール)	CDR5 : Carol → 会議ブリッジ (会議コール)	CDR6 : Carol → 会議ブリッジ (会議コール)
globalCallID_callId	1	2	3	4	1	3
origLegCallIdentifier	11	13	21	23	14	22
destLegCallIdentifier	12	14	22	24	17	25
callingPartyNumber	1000	1001	1003	1003	1002	1002
originalCalledPartyNumber	1001	1002	1002	1004	b0029901001	b0029901222
finalCalledPartyNumber	1001	1002	1002	1004	b0029901001	b0029901222
lastRedirectDn	1001	1002	1002	1004	1001	1003
origTerminationOnBehalfOf	4	4	4	4	10	10
destTerminationOnBehalfOf	4	4	4	4	10	10
lastRedirectRedirectReason	0	0	0	0	98	98
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	0	0	0	4	4
origConversationID	0	0	0	0	0	0

フィールド名	CDR1 : Alice -> Bob (元のコール)	CDR2 : Bob -> Carol (打診コール)	CDR3 : Dave -> Carol (元のコール)	CDR4 : Dave -> Carol (打診コール)	CDR5 : Carol -> 会議ブリッジ (会議コール)	CDR6 : Carol -> 会議ブリッジ (会議コール)
destConversationID	0	0	0	0	1111	2222
Comment					ConfControllerDn=1001; ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1; ConfRequestorDn=1001; ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FEBD	ConfControllerDn=1003; ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1; ConfRequestorDn=1003; ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1

フィールド名	CDR7 : 会議ブリッジ -> 会議ブリッジ	CDR8 : Alice -> 会議ブリッジ (会議コール)	CDR9 : Bob -> 会議ブリッジ	CDR10 : Dave-> 会議ブリッジ (会議コール)	CDR11 : Ed -> 会議ブリッジ (会議コール)	CDR12 : Bob -> Alice
globalCallID_callId	3	1	1	3	3	3
origLegCallIdentifier	25	11	12	21	24	21
destLegCallIdentifier	28	15	16	26	27	24
callingPartyNumber	b0029901222	1000	1001	1003	1004	1003
originalCalledPartyNumber	b0029901001	b0029901001	b0029901001	b0029901222	b0029901222	b0029901222
finalCalledPartyNumber	b0029901001	b0029901001	b0029901001	b0029901222	b0029901222	1004
lastRedirectDn	1002	1001	1001	1003	1003	b0029901222
origTerminationOnBehalfOf	4	4	4	16	0	0
destTerminationOnBehalfOf	4	4	4	0	0	0
lastRedirectRedirectReason	4	98	98	98	98	98
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	10	4	4	4	4	4
origConversationID	2222	0	0	0	0	0
destConversationID	1111	1111	1111	2222	2222	0
Comment	ConfControllerDn=1003; ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1; ConfRequestorDn=1003; ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1	ConfControllerDn=1001; ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FEBD; ConfRequestorDn=1001; ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FEBD	ConfControllerDn=1001; ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FEBD; ConfRequestorDn=1001; ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FEBD	ConfControllerDn=1003; ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1; ConfRequestorDn=1003; ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1	ConfControllerDn=1003; ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1; ConfRequestorDn=1003; ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1	ConfControllerDn=1003; ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1; ConfRequestorDn=1003; ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1

■ コール シナリオ

フィールド名	CDR13 : Dave -> Ed
globalCallID_callId	3
origLegCallIdentifier	21
destLegCallIdentifier	24
callingPartyNumber	1003
originalCalledPartyNumber	b0029901222
finalCalledPartyNumber	1004
lastRedirectDn	b0029901222
origTerminationOnBehalfOf	0
destTerminationOnBehalfOf	0
lastRedirectRedirectReason	98
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	4
origConversationID	0
destConversationID	0
Comment	ConfControllerDn=1003;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1;ConfRequestorDn-1003;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1

コール パーク

コール パークでは、2 つの CDR (パークされる元のコール用とピックアップまたは復帰されるコール用) が生成されます。これらの CDR の globalCallID_callId は同じになります。この項では、次の CDR の例を取り上げます。

- [コール パーク ピックアップ \(P.10-60\)](#)
- [コール パーク 復帰 \(P.10-61\)](#)

コール パーク ピックアップ

コールがパークされると、そのコールは分割されます。元のコールで CDR が生成されます。この CDR の **origTerminationOnBehalfOf** および **destTerminationOnBehalfOf** フィールドには、コール パークを示す 3 がセットされます。

パークされているコールを取得すると、ユーザはオフフック状態になり、パーク コードを入力します。このコールは、パークされているコールと結合されます。コールをピックアップしているユーザはパークされているコールと結合されるため、このユーザはコールの発信元として扱われ、パークされているユーザは送信先として扱われます。つまり、コールの **callingPartyNumber** には、このコールをピックアップしているユーザの電話番号が格納され、**originalCalledNumber** および **finalCalledNumber** には、パークされているユーザの電話番号が格納されます。**lastRedirectDn** には、コールをピックアップするために使用されたパーク コードが格納されます。

lastRedirectRedirectReason には、コール パーク ピックアップを示す 8 が格納されます。

lastRedirectRedirectOnBehalfOf には、コール パークを示す 3 が格納されます。

コール パークの例

50003 が 50002 にコールし、50002 がパーク ソフトキーを押します。50001 はパーク コード (44444) にダイヤルし、パークされているコールをピックアップします。

フィールド名	パークされている元の コールの CDR	ピックアップされた パークされている コールの CDR
globalCallID_callId	1	1
origLegCallIdentifier	20863957	20863961
destLegCallIdentifier	20863958	20863957
callingPartyNumber	50003	50001
originalCalledPartyNumber	50002	50003
finalCalledPartyNumber	50002	50003
lastRedirectDn	50002	44444
origCause_Value	393216	0
dest_CauseValue	393216	16
origCalledPartyRedirectReason	0	0
lastRedirectRedirectReason	0	8
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	0	0
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	3
origTerminationOnBehalfOf	3	0
destTerminationOnBehalfOf	3	12
joinOnBehalfOf	0	3
duration	4	60

コール パーク 復帰

コールがパークされていても、ピックアップされなかった場合は、コール パーク 復帰タイマーが切れ、そのコールは着信側にリダイレクトされます。この場合、2つの CDR が生成されます。最初の CDR は上記のコール パーク ピックアップのシナリオと同様ですが、2 番目の CDR は多少異なります。コール ピックアップ 復帰タイマーが切れると、コールは着信側にリダイレクトされます。

コールがパークされると、そのコールは分割されます。この処理によって、元のコールに対する CDR が生成されます。この CDR の **origTerminationOnBehalfOf** および **destTerminationOnBehalfOf** フィールドには、コール パークを示す 3 がセットされます (コール パーク ピックアップのシナリオと同じ)。

コール パーク 復帰タイマーが切れると、コールは着信側にリダイレクトされます。

origCalledPartyRedirectOnBehalfOf および **lastRedirectRedirectOnBehalfOf** フィールドにはコール パークを示す 3 がセットされます。**origCalledPartyRedirectReason** フィールドにはコール パークを示す 7 が、**lastRedirectRedirectReason** フィールドにはコール パーク 復帰を示す 11 がセットされます。

コール パーク復帰の例

- コール パーク復帰の例：50003 が 50002 にコールし、50002 がパーク ソフトキーを押します。パークされているコールはピックアップされず、50002 に復帰し、50002 が応答します。

フィールド名	パークされている元の コールの CDR	復帰されたコールの CDR
globalCallID_callId	2	2
origLegCallIdentifier	20863963	20863963
destLegCallIdentifier	20863964	20863967
callingPartyNumber	50003	50003
originalCalledPartyNumber	50002	50002
finalCalledPartyNumber	50002	50002
lastRedirectDn	50002	50002
origCause_Value	393216	0
dest_CauseValue	393216	16
origCalledPartyRedirectReason	0	7
lastRedirectRedirectReason	0	11
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	0	3
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	3
origTerminationOnBehalfOf	3	3
destTerminationOnBehalfOf	3	12
joinOnBehalfOf	0	3
duration	7	60

優先コール (MLPP)

優先コールは、基本的にはすべてのコール（通常のコール、自動転送されたコールなど）と同じです。ただし、他のコールとは異なり、CDR の優先レベル フィールドに値がセットされています。また、より高い優先レベルのコールが他のコールより優先されると、原因コードはプリエンプションを示します。

優先コールの例

- 優先パターン（優先レベル 2）にダイヤルして別の IP Phone にコールします。

フィールド名	優先コールの CDR
globalCallID_callId	100
origLegCallIdentifier	12345
destLegCallIdentifier	12346
callingPartyNumber	2001
origCalledPartyNumber	826001
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origPrecedenceLevel	2
destPrecedenceLevel	2

- 別のネットワーク（優先レベル 1）からの優先コールを受信します。

フィールド名	優先コールの CDR
globalCallID_callId	102
origLegCallIdentifier	11111
destLegCallIdentifier	11112
callingPartyNumber	9728552001
origCalledPartyNumber	6001
origCause_Value	16
dest_CauseValue	0
origPrecedenceLevel	1
destPrecedenceLevel	1

- より高い優先レベルのコールが優先されます。

フィールド名	元のコールの CDR	より高い優先レベルの コールの CDR
globalCallID_callId	10000	10001
origLegCallIdentifier	12345678	12345680
destLegCallIdentifier	12345679	12345681
callingPartyNumber	2001	9728551234
origCalledPartyNumber	826001	826001
origCause_Value	0	0
dest_CauseValue	9	16
origPrecedenceLevel	2	1
destPrecedenceLevel	2	1

迷惑呼

コールが迷惑呼として識別された場合（ボタン押下）、ローカル ネットワークの Cisco Unified CallManager によってコールにフラグが設定されます。迷惑呼にフラグを設定するために、「Comment」フィールドが使用されます。

迷惑呼の例

- カスタマー コールに迷惑呼のマークが付けられます。

フィールド名	元のコールの CDR
globalCallID_callId	1
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	101
callingPartyNumber	9728552001
origCalledPartyNumber	5555
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
Comment	callFlag=MALICIOUS

即時転送（ボイス メッセージング システム宛）

即時転送（IDivert）は、次の 3 つのコール状態で起動できます。

- IDivert 機能は、着信コールの呼び出し中に起動できます。呼び出しに対する CDR はコール転送の場合とよく似ていますが、**origCalledPartyRedirectOnBehalfOf** および **lastRedirectRedirectOnBehalfOf** フィールドは、即時転送を示す 14 になります。
- IDivert 機能は、コールの接続中または保留中に起動できます。これらのシナリオでは、2 つの CDR が生成されます。これら 2 つの CDR の **globalCallID_CallId** フィールドは同じになります。最初の CDR は元の接続に適用され、2 番目の CDR はボイス メッセージング システムにリダイレクトされたコールに適用されます。最初のコールの **origTerminationOnBehalfOf** および **destTerminationOnBehalfOf** フィールドには、即時転送を示す 14 がセットされます。
- ボイス メッセージング システムにリダイレクトされたコールの **origCalledPartyRedirectOnBehalfOf** および **lastRedirectRedirectOnBehalfOf** フィールドには、即時転送を示す 14 がセットされます。

即時転送の例

- 警告中の IDivert : 40003 が 40001 にコールし、40001 の呼び出し中に 40001 が IDivert ボタンを押し、コールがボイス メッセージング システム 40000 に転送されます。



(注) コールが警告状態で IDivert によってリダイレクトされた場合、生成される CDR は 1 つだけです。

フィールド名	元のコールの CDR
globalCallID_callId	37
origLegCallIdentifier	16777327
destLegCallIdentifier	16777329
callingPartyNumber	40003
origCalledPartyNumber	40001
finalCalledPartyNumber	40000
lastRedirectDn	40001
origCause_Value	16
dest_CauseValue	0
origCalledPartyRedirectReason	50
lastRedirectRedirectReason	50
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	14
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	14
joinOnBehalfOf	14

- 接続中の **IDivert** : 40003 が 40001 にコールし、40001 がこのコールに応答します。40001 は発信者をボイス メッセージング システムに転送することにし、**IDivert** ソフトキーを押します。40003 はボイス メッセージング システム 40000 に転送されます。

このコールはリダイレクトの前に接続されていたため、2 つの CDR (1 つは元の接続コール用、もう 1 つはボイス メッセージング システムに転送されたコール用) が生成されます。

フィールド名	元の接続コールの CDR	転送されたコールの CDR
globalCallID_callId	38	38
origLegCallIdentifier	16777330	16777330
destLegCallIdentifier	16777331	16777332
callingPartyNumber	40003	40003
origCalledPartyNumber	40001	40001
finalCalledPartyNumber	40001	40000
lastRedirectDn	40001	40001
origCause_Value	0	16
dest_CauseValue	0	0
origCalledPartyRedirectReason	0	50
lastRedirectRedirectReason	0	50
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf		14
lastRedirectRedirectOnBehalfOf		14
origTerminationOnBehalfOf	14	14
destTerminationOnBehalfOf	14	12
joinOnBehalfOf		14

割込み

シェアラインが割込み機能を使用している場合、**origCalledPartyNumber**、**finalCalledPartyNumber** および **lastRedirectDn** は会議ブリッジ番号「b00...」を示します。リダイレクトおよび結合の **OnBehalfOf** フィールドの値は割込みを示す 15 に、リダイレクト原因フィールドは割込みを示す 114 になります。

割込みの例

- **割込みの例 1** : 40003 が 40001 にコールし、40001 が応答します。別の電話機上のシェアライン 40001 が割込みソフトキーを押します。すべてのパーティが会議に参加し、その後、40003 が電話を切ります。



(注) どちらの CDR も同じ **globalCallID_callId** を持ち、**conversationID** フィールドは割り込みされたコールの **CI** (コール ID) にリンクしています。

フィールド名	元のコールの CDR	割込みコールの CDR
globalCallID_callId	7	7
origLegCallIdentifier	16777230	16777232
destLegCallIdentifier	16777231	16777235
callingPartyNumber	40003	40003
origCalledPartyNumber	40001	b001501001
finalCalledPartyNumber	40001	b001501001
lastRedirectDn	40001	b001501001
origCause_Value	16	0
dest_CauseValue	0	0
origCalledPartyRedirectReason	0	114
lastRedirectRedirectReason	0	114
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf		15
lastRedirectRedirectOnBehalfOf		15
joinOnBehalfOf		15
destConversationID	0	16777231

- **割込みの例 2** : 40003 が 40001 にコールし、40001 が応答します。別の電話機上のシェアドライン 40001 が割込みソフトキーを押します。すべてのパーティが会議に参加し、その後、40001 が電話を切ります。



(注) どちらの CDR も同じ globalCallID_callId を持ち、conversationID フィールドは割り込みされたコールの CI (コール ID) にリンクしています。

フィールド名	元のコールの CDR	割込みコールの CDR	最後のコールの CDR
globalCallID_callId	9	9	9
origLegCallIdentifier	16777236	16777238	16777236
destLegCallIdentifier	16777237	16777241	16777238
callingPartyNumber	40003	40001	40003
origCalledPartyNumber	40001	b001501001	40001
finalCalledPartyNumber	40001	b001501001	40001
lastRedirectDn	40001	b001501001	40001
origCause_Value	0	393216	16
dest_CauseValue	16	393216	0
origCalledPartyRedirectReason	0	114	0
lastRedirectRedirectReason	0	114	0
origTerminationOnBehalfOf		15	12
destTerminationOnBehalfOf	12	15	12
lastRedirectRedirectOnBehalfOf		15	
joinOnBehalfOf		15	
destConversationID	0	16777237	0

- **割込みの例 3** : 40003 が 40001 にコールし、40001 が応答します。別の電話機上のシェアドライン 40001 が割込みソフトキーを押します。すべてのパーティが会議に参加し、その後、40001 (別のシェアドラインで別の電話機) が割込みソフトキーを押します。40003 が最初に電話を切ります。



(注) すべての CDR が同じ **globalCallID_callId** を持ち、**conversationID** フィールドは割り込みされたコールの CI (コール ID) にリンクしています。

フィールド名	元のコールの CDR	割込みコール 1 の CDR	割込みコール 2 の CDR
globalCallID_callId	14	14	14
origLegCallIdentifier	16777249	16777251	16777255
destLegCallIdentifier	16777250	16777254	16777258
callingPartyNumber	40003	40001	40001
origCalledPartyNumber	40001	b001501001	b001501001
finalCalledPartyNumber	40001	b001501001	b001501001
lastRedirectDn	40001	b001501001	b001501001
origCause_Value	16	0	0
dest_CauseValue	0	0	0
origCalledPartyRedirectReason	0	114	114
lastRedirectRedirectReason	0	114	114
origTerminationOnBehalfOf	12	15	15
destTerminationOnBehalfOf			
origRedirectOnBehalfOf		15	15
lastRedirectRedirectOnBehalfOf		15	15
joinOnBehalfOf		15	15
destConversationID	0	16777250	16777251

C 割込

C 割込機能は、会議機能と非常によく似ています。シェアドラインが C 割込機能を使用している場合、**origCalledPartyNumber**、**finalCalledPartyNumber** および **lastRedirectDn** は、会議ブリッジ番号「b00...」を示します。リダイレクトおよび結合の **OnBehalfOf** フィールドの値は会議を示す 4 に、**リダイレクト原因** フィールドは会議を示す 98 になります。

C 割込の例

- **C 割込の例** : 40003 が 40001 にコールし、40001 が応答し、別の電話機上の 40001 (シェアドライン) が C 割込ボタンを押します。

■ コール シナリオ

フィールド名	元のコールの CDR	C 割込コールの CDR 1	C 割込コールの CDR 2	C 割込コールの CDR 3	最後のコールの CDR
globalCallID_callId	49	49	49	49	49
origLegCallIdentifier	1677346	1677348	1677347	1677346	1677347
destLegCallIdentifier	1677347	1677353	1677351	1677352	1677346
callingPartyNumber	40003	40001	40001	40003	40001
originalCalledPartyNumber	40001	b0029901001	b0029901001	b0029901001	40003
finalCalledPartyNumber	40001	b0029901001	b0029901001	b0029901001	40003
lastRedirectDn	40001	b0029901001	40001	40001	b0029901001
origCause_Value	393216	16	393216	393216	16
dest_CauseValue	393216	0	393216	393216	0
origCalledPartyRedirectReason	0	98	98	98	0
lastRedirectRedirectReason	0	98	98	98	98
destTerminationOnBehalfOf	4		4	4	4
origCalledRedirectOnBehalfOf		4	4	4	
lastRedirectRedirectOnBehalfOf		4	4	4	4
joinOnBehalfOf		4	4	4	4
Conversation ID	0	16777220	16777220	16777220	1
duration	60	360		360	360

Comment

元のコールの CDR

C 割込コールの CDR 1 ConfControllerDn=40003;ConfControolerDeviceName=SEP0003E333FEBD

C 割込コールの CDR 2 ConfControllerDn=40003;ConfControolerDeviceName=SEP0003E333FEBD

C 割込コールの CDR 3 ConfControllerDn=40003;ConfControolerDeviceName=SEP0003E333FEBD

最後のコールの CDR ConfControllerDn=40003;ConfControolerDeviceName=SEP0003E333FEBD

ビデオ コール

次の例は、ビデオ コールの CDR を示しています。

ビデオ コールの例

- 例：発呼側 51234 が着信側 57890 にコールします。次の例では、100 = H.261、187962284 = 172.19.52.11、288625580 = 172.19.52.17、320 = 320K、および 2 = QCIF とします。

フィールド名	ビデオ コールの CDR
globalCallID_callId	121
origLegCallIdentifier	101
destLegCallIdentifier	102
callingPartyNumber	51234
origCalledPartyNumber	57890
finalCalledPartyNumber	57890
lastRedirectDn	57890

フィールド名	ビデオ コールの CDR
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origVideoCap_Codec	100
origVideoCap_Bandwidth	320
origVideoCap_Resolution	2
origVideoTransportAddress_IP	187962284
origVideoTransportAddress_Port	49208
destVideoCap_Codec	100
destVideoCap_Bandwidth	320
destVideoCap_Resolution	2
destVideoTransportAddress_IP	288625580
destVideoTransportAddress_Port	49254

FAC (Forced Authorization Code)

FAC 機能が起動すると、認証の説明と認証レベルが CDR に書き込まれます。セキュリティ上の理由から、実際の認証コードは CDR に書き込まれません。

- **authCodeDescription** フィールドには、認証コードの説明が格納されます。
- **authorizationLevel** フィールドには、認証コードに関連付けられている認証レベルが格納されます。

FAC の例

45000 が 9728134987 にコールします。ユーザは認証コードを要求され、12345 を入力します。FAC コード 12345 はレベル 1、名前は Legal1 と設定されています。発信者はこのコールに応答し、2 分間の通話を行います。

フィールド名	値
globalCallID_callId	100
origLegCallIdentifier	16777123
destLegCallIdentifier	16777124
callingPartyNumber	45000
origCalledPartyNumber	9728134987
finalCalledPartyNumber	9728134987
lastRedirectDn	9728134987
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
authCodeDescription	Legal1
authorizationLevel	1
duration	120

クライアント証明書コード (CMC)

CMC 機能が起動すると、クライアント証明書コードが CDR に書き込まれます。clientMatterCode フィールドには、発信者が入力したクライアント証明書コードが格納されます。

CMC の例

- 10000 が 2142364624 にコールします。ユーザはクライアント証明書コードを要求され、11111 を入力します。発信者はコールに応答し、10 分間の通話を行います。

フィールド名	値
globalCallID_callId	101
origLegCallIdentifier	16777130
destLegCallIdentifier	16777131
callingPartyNumber	10000
origCalledPartyNumber	2142364624
finalCalledPartyNumber	2142364624
lastRedirectDn	2142364624
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
clientMatterCode	11111
duration	600

セキュリティ保護されたコール

このフィールドは、コールのセキュリティ ステータスを示します。コール中に達成した最も高いセキュリティ レベルが格納されます。たとえば、コールが最初はセキュリティ保護されておらず、後でセキュリティ保護されるようになった場合、コールの別の部分のステータス値が異なっても、CDR には 1 (セキュリティ保護あり) が格納されます。callSecuredStatus フィールドは、コールのセキュリティ ステータスを示します。

セキュリティ保護されたコールの例

- 暗号化コールの例：20000 と 20001 間のコールが暗号化されます。5 分間の通話が行われます。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	102
origLegCallIdentifier	16777140
destLegCallIdentifier	16777141
callingPartyNumber	20000
origCalledPartyNumber	20001
finalCalledPartyNumber	20001
lastRedirectDn	20001
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
callSecuredStatus	2
duration	300

- **認証されたコールの例**：20000 と 20001 が認証されます（暗号化はされていません）。10 分間の通話が行われます。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	103
origLegCallIdentifier	16777142
destLegCallIdentifier	16777143
callingPartyNumber	20000
origCalledPartyNumber	20001
finalCalledPartyNumber	20001
lastRedirectDn	20001
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
callSecuredStatus	1
duration	600

DTMF 方式

これらのフィールドは、コールに使用される DTMF 方式を示します。

DTMF コールの例

- **初期設定なしの例**：このコール中に使用される DTMF 方式は初期設定なし / ベスト エフォートです。このコールは 1 分間接続された状態になります。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	200
origLegCallIdentifier	16777500
destLegCallIdentifier	16777501
callingPartyNumber	20000
origCalledPartyNumber	20001
finalCalledPartyNumber	20001
lastRedirectDn	20001
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origDTMFMethod	0
destDTMFMethod	0
duration	60

- **優先 OOB の例**：このコール中に使用される DTMF 方式は優先 OOB です。このコールは 1 分間接続された状態になります。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	201
origLegCallIdentifier	16777502
destLegCallIdentifier	16777503
callingPartyNumber	20000
origCalledPartyNumber	20001
finalCalledPartyNumber	20001
lastRedirectDn	20001
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origDTMFMethod	1
destDTMFMethod	1
duration	60

RSVP

これらのフィールドは、コールの RSVP 予約のステータスを示します。Cisco Unified Communications Manager RSVP CDR ステータス フィールドの値は連結され、コールの最後の 32 個のステータス値が保持されることに注意してください。

たとえば、コールが「オプション」ポリシーで確立され、最初の RSVP 予約が成功し、その後帯域幅予約が失敗し、コールの途中で数回の再試行後に帯域幅予約が成功した場合、このコールは RSVP 予約が成功した状態で終了します。この CDR では、特定のストリームに対する Unified Communication RSVP 予約ステータスとして、「2:5:2:5:2:5:2」(success:lost_bw:success:lost_bw:success:lost_bw:success) という文字列が表示されます。

RSVP コールの例

- 次の例では、コールが「オプション」ポリシーで確立され、最初の RSVP 予約が成功します。5 分間の通話が行われます。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	300
origLegCallIdentifier	16777300
destLegCallIdentifier	16777301
callingPartyNumber	20000
origCalledPartyNumber	20001
finalCalledPartyNumber	20001
lastRedirectDn	20001
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origDTMFMethod	2
destDTMFMethod	2
duration	300

- 次の例では、コールが「オプション」ポリシーで確立され、最初の RSVP 予約が成功し、その後帯域幅予約が失敗しましたが、再試行後に成功します。1 分間の通話が行われます。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	301
origLegCallIdentifier	16777302
destLegCallIdentifier	16777303
callingPartyNumber	20000
origCalledPartyNumber	20001
finalCalledPartyNumber	20001
lastRedirectDn	20001
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origDTMFMethod	2:5:2
destDTMFMethod	2:5:2
duration	60

リダイレクト (3xx) コール

次の例は、リダイレクト機能 (3xx) に適用される CDR を示しています。

コールがリダイレクト機能 (3xx) によってリダイレクトされると、

origCalledPartyRedirectOnBehalfOf および **lastRedirectRedirectOnBehalfOf** フィールドには、Unified CM リダイレクトを示す 19 がセットされます。**origCalledPartyRedirectReason** および **lastRedirectRedirectReason** には、リダイレクトを示す 162 がセットされます。

リダイレクト (3xx) の例

- リダイレクトの例**：SIP を実行している電話機 10010 (Cisco Unified Communications Manager に登録済み) 上のアクティブな CFA で、CFA 送信先は 10000 です。35010 が、10000 への CFA である 10010 にコールします。このコールは 10010 から 10000 にリダイレクトされます。10000 が、このコールに応答し、1 分間の通話が行われます。

フィールド名	元のコールの CDR
globalCallID_callId	11
origLegCallIdentifier	21832023
destLegCallIdentifier	21832026
callingPartyNumber	35010
originalCalledPartyNumber	10010
finalCalledPartyNumber	10000
lastRedirectDn	10010
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origCalledPartyRedirectReason	162
lastRedirectRedirectReason	162
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	19
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	19
origTerminationOnBehalfOf	0

フィールド名	元のコールの CDR
destTerminationOnBehalfOf	12
joinOnBehalfOf	19
duration	60

Replaces コール

次の例は、さまざまな Replaces コールの CDR を示しています。

Replaces の例

- **Invite with Replaces** : SIP を実行している電話機 35010 が、SIP を実行している電話機 35020 にコールします。35010 で転送ボタンが押され、コールが SCCP 電話機 3000 に発信されます。3000 がコールに応答し、電話機 35010 が転送を完了します。転送された最後のコールが、35020 と 3000 の間で発生します。



(注) 転送が完了すると、Invite with Replaces が Cisco Unified Communications Manager に送信されます。

フィールド名	元のコールの CDR	復帰されたコールの CDR
globalCallID_callId	5045247	5045248
origLegCallIdentifier	21822467	21822469
destLegCallIdentifier	21822468	21822468
callingPartyNumber	35010	35020
originalCalledPartyNumber	3000	3000
finalCalledPartyNumber	3000	3000
lastRedirectDn	3000	35010
origCause_Value	393216	0
dest_CauseValue	393216	16
origCalledPartyRedirectReason	0	0
lastRedirectRedirectReason	0	146
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	0	0
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	18
origTerminationOnBehalfOf	18	0
destTerminationOnBehalfOf	18	12
joinOnBehalfOf	0	18
duration	5	60

- **Refer with Replaces** : SIP を実行している電話機 35010 が SCCP 3000 にコールし、35010 で転送ボタンが押され、コールが SCCP 電話機 3001 に発信されます。3001 がコールに応答し、電話機 35010 が転送を完了します。転送された最後のコールが、3000 と 3001 の間で発生します。



(注) 転送が完了すると、Refer with Replaces が Cisco Unified Communications Manager に送信されます。

フィールド名	元のコールの CDR	打診コールの CDR	転送された最後のコールの CDR
globalCallID_callId	5045245	5045246	5045245
origLegCallIdentifier	21822461	21822463	21822462
destLegCallIdentifier	21822462	21822464	21822464
callingPartyNumber	35010	35010	3000
originalCalledPartyNumber	3000	3001	3001
finalCalledPartyNumber	3000	3001	3001
lastRedirectDn	3000	3001	35010
origCause_Value	393216	393216	16
dest_CauseValue	393216	393216	0
origCalledPartyRedirectReason	0	0	130
lastRedirectRedirectReason	0	0	146
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	0	0	17
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	0	18
origTerminationOnBehalfOf	17	18	12
destTerminationOnBehalfOf	17	18	17
joinOnBehalfOf	0	0	18
duration	25	4	25

Refer コール

P.10-74 の「Replaces コール」で、Refer with Replaces の例を参照してください。

モニタリングする側のコール

次の例は、モニタリングする側のコールの CDR を示しています。

モニタリングの例

- **モニタリングの例 1**: カスタマー (9728134987) がエージェント (30000) にコールし、エージェントが応答します。スーパーバイザ (40003) がこのコールをモニタリングします。モニタリングする側のコールの **destConversationID** は、モニタリングされる側のコールの **destLegCallIdentifier** と一致します。

フィールド名	モニタリングされる側の コールの CDR	モニタリングする側の コールの CDR
globalCallID_callId	7	10
origLegCallIdentifier	16777230	16777232
destLegCallIdentifier	16777231	16777235
callingPartyNumber	9728134987	40003
originalCalledPartyNumber	30000	b001501001
finalCalledPartyNumber	30000	b001501001
lastRedirectDn	30000	b001501001
origCause_Value	16	0
dest_CauseValue	0	0
origCalledPartyRedirectReason	0	370
lastRedirectRedirectReason	0	370
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf		28
lastRedirectRedirectOnBehalfOf		28
destConversationID	0	16777231

- **モニタリングの例 2** : エージェント (30000) がカスタマー (9728134987) にコールし、カスタマーが応答します。スーパーバイザ (40003) がこのコールをモニタリングします。モニタリングする側のコールの **destConversationID** は、モニタリングされる側のコールの **origLegCallIdentifier** と一致します。

フィールド名	モニタリングされる側の コールの CDR	モニタリングする側の コールの CDR
globalCallID_callId	71	101
origLegCallIdentifier	16777299	16777932
destLegCallIdentifier	16777300	16777935
callingPartyNumber	30000	40003
originalCalledPartyNumber	9728134987	b001501002
finalCalledPartyNumber	9728134987	b001501002
lastRedirectDn	9728134987	b001501002
origCause_Value	16	0
dest_CauseValue	0	0
origCalledPartyRedirectReason	0	370
lastRedirectRedirectReason	0	370
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf		28
lastRedirectRedirectOnBehalfOf		28
destConversationID	0	16777299

録音する側のコール

次の例は、録音する側のコールの CDR を示しています。

録音する側のコールの例

- 録音する側のコールの例 1: カスタマー (9728134987) がエージェント (30000) にコールし、エージェントが応答します。録音機能により、録音デバイスへの 2 つの録音する側のコールが作成され、その結果 2 つの CDR (1 つはエージェント ボイス用、もう 1 つはカスタマー ボイス用) が追加されます。録音する側の CDR の **origConversationID** フィールドは、録音される側のコールの **destLegCallIdentifier** と一致します。この例では、カスタマーが電話を切ります。

フィールド名	録音される側の コールの CDR	録音する側の コールの CDR1	録音する側の コールの CDR2
globalCallID_callId	7	10	11
origLegCallIdentifier	16777110	16777120	16777122
destLegCallIdentifier	16777111	16777121	16777123
callingPartyNumber	9728134987	30000	30000
originalCalledPartyNumber	30000	90000	90000
finalCalledPartyNumber	30000	90000	90000
lastRedirectDn	30000	90000	90000
origCause_Value	16	0	0
dest_CauseValue	0	0	0
origCalledPartyRedirectReason	0	354	354
lastRedirectRedirectReason	0	354	354
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf		27	27
lastRedirectRedirectOnBehalfOf		27	27
destConversationID	0	16777111	16777111

- 録音する側のコールの例 2: エージェント (30000) がカスタマー (9728134987) にコールし、カスタマーが応答します。録音機能により、録音デバイスへの 2 つの録音する側のコールが作成され、その結果 2 つの CDR (1 つはエージェント ボイス用、もう 1 つはカスタマー ボイス用) が追加されます。録音する側の CDR の **origConversationID** フィールドは、録音される側のコールの **origLegCallIdentifier** と一致します。この例では、エージェントが電話を切ります。

フィールド名	録音される側の コールの CDR	録音する側の コールの CDR1	録音する側の コールの CDR2
globalCallID_callId	71	100	110
origLegCallIdentifier	16777113	16777220	16777222
destLegCallIdentifier	16777114	16777221	16777223
callingPartyNumber	30000	30000	30000
originalCalledPartyNumber	9728134987	90000	90000
finalCalledPartyNumber	9728134987	90000	90000
lastRedirectDn	9728134987	90000	90000
origCause_Value	16	16	16
dest_CauseValue	0	0	0
origCalledPartyRedirectReason	0	354	354
lastRedirectRedirectReason	0	354	354
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf		27	27
lastRedirectRedirectOnBehalfOf		27	27
destConversationID	0	16777113	16777113

AAC コールおよび iLBC コール

次の例は、AAC コールおよび iLBC コールの CDR を示しています。

AAC コールの例

- 次の例は、AAC コーデックを使用するコールに適用されます。

フィールド名	AAC の CDR
globalCallID_callId	121
origLegCallIdentifier	101
destLegCallIdentifier	102
callingPartyNumber	51234
originalCalledPartyNumber	57890
finalCalledPartyNumber	57890
lastRedirectDn	57890
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origMediaCap_payloadCapability	42
origMediaCap_Bandwidth	256
destMediaCap_payloadCapability	42
destMediaCap_Bandwidth	256

iLBC コールの例

- 次の例は、iLBC コーデックを使用するコールに適用されます。

フィールド名	iLBC の CDR
globalCallID_callId	121
origLegCallIdentifier	101
destLegCallIdentifier	102
callingPartyNumber	51234
originalCalledPartyNumber	57890
finalCalledPartyNumber	57890
lastRedirectDn	57890
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origMediaCap_payloadCapability	86
origMediaCap_Bandwidth	15
destMediaCap_payloadCapability	86
destMediaCap_Bandwidth	15

モビリティ

次の例は、モビリティ コールの CDR を示しています。

モビリティの例

- **モビリティ Follow Me の例**: 企業固定電話番号 22285 と携帯電話番号 9728324124 を持つデュアルモードフォンがあります。22202 が 22285 にコールし、22285 と 9728324124 の両方で呼出音が鳴ります。携帯電話がこのコールに応答します。この Follow Me コールに対して 1 つの CDR が生成されます。80 秒間の通話が行われます。

フィールド名	Follow Me コールの CDR
globalCallID_callId	861
origLegCallIdentifier	22481077
destLegCallIdentifier	22481078
callingPartyNumber	22202
originalCalledPartyNumber	22285
finalCalledPartyNumber	9728324124
lastRedirectDn	22285
origCause_Value	16
dest_CauseValue	0
lastRedirectRedirectReason	0
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0
origTerminationOnBehalfOf	
destTerminationOnBehalfOf	
joinOnBehalfOf	0
duration	80

- **モビリティ HandIn の例**: 企業固定電話番号 22285 と携帯電話番号 9728324124 を持つデュアルモードフォンが、携帯電話 9728324214 にコールします。39 秒間の通話の後、デュアルモードフォンが企業ネットワークに接続され、このコールは携帯電話ネットワークから企業ネットワークに切り替えられます。さらに 15 秒間の通話が続行します。

フィールド名	携帯電話 #9728324214 へのコールの CDR	企業への HandIn コールの CDR
globalCallID_callId	864	864
origLegCallIdentifier	22481083	22481083
destLegCallIdentifier	22481085	22481087
callingPartyNumber	22202	22202
originalCalledPartyNumber	919728324124	22285
finalCalledPartyNumber	919728324124	22285
lastRedirectDn	919728324124	22285
origCause_Value	393216	0
dest_CauseValue	393216	16
lastRedirectRedirectReason	0	303
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	24
origTerminationOnBehalfOf	24	24
destTerminationOnBehalfOf	24	12
joinOnBehalfOf	0	24
duration	39	15

- モビリティ HandOut の例**：企業固定電話番号 22285 と携帯電話番号 9728324124 を持つデュアルモードフォンがあります。handout 番号 (H 番号) は 555123 です。コールが企業固定電話番号 22285 に着信します。21 秒間の通話の後、デュアルモードフォンは企業ネットワークから切り離されて携帯電話ネットワークに着信します。このコールは企業ネットワークから携帯電話ネットワーク (9728324124) に切り替えられます。さらに 39 秒間の通話が続行します。

フィールド名	22285 への企業固定電話コールの CDR	携帯電話から H 番号への HandOut サーバコールの CDR	Handout コールの CDR
globalCallID_callId	964	965	964
origLegCallIdentifier	22481083	22481095	22481093
destLegCallIdentifier	22481094	22481096	22481095
callingPartyNumber	22202	9728324124	22202
originalCalledPartyNumber	22285	555123	9728324124
finalCalledPartyNumber	22285	555123	9728324124
lastRedirectDn	22285	555123	9728324124
origCause_Value	393216	393216	0
dest_CauseValue	393216	393216	16
lastRedirectRedirectReason	0	0	319
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	0	24
origTerminationOnBehalfOf	24	24	24
destTerminationOnBehalfOf	24	24	12
joinOnBehalfOf	0	0	24
duration	21	0	39

- モビリティ コール ピックアップの例**：企業固定電話番号 22285 と携帯電話番号 9728324124 を持つデュアルモードフォンが、企業固定電話番号 22285 へのコールを確立します。40 秒間の通話の後、コール ピックアップが起動します。このコールは企業固定電話から携帯電話に切り替えられます。さらに 111 秒間の通話が続行します。

フィールド名	22285 への企業固定電話コールの CDR	携帯電話へのサーバコールの CDR	最後の Handout コールの CDR
globalCallID_callId	555	566	964
origLegCallIdentifier	22481111	22481222	22481111
destLegCallIdentifier	22481112	22481223	22481222
callingPartyNumber	22202		22202
originalCalledPartyNumber	22285	9728324124	9728324124
finalCalledPartyNumber	22285	9728324124	9728324124
lastRedirectDn	22285	9728324124	9728324124
origCause_Value	393216	0	0
dest_CauseValue	393216	0	16
lastRedirectRedirectReason	0	0	335
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	0	24
origTerminationOnBehalfOf	24	24	24
destTerminationOnBehalfOf	24	24	12
joinOnBehalfOf	0	0	24
duration	40	0	111

- **モビリティ IVR の例**：コールが文字列 DID#RemoteDest#TargetNum# とともに Cisco Unified Communications Manager に着信します。このコールは TargetNum にリダイレクトされます。9728131234 が IVR にコールし、データが収集されます。転送先に 812345 が指定され、このコールは 812345 にリダイレクトされます。コールは 60 秒間接続されます。

フィールド名	リダイレクトされたコールの CDR
globalCallID_callId	12345
origLegCallIdentifier	16677100
destLegCallIdentifier	16677102
callingPartyNumber	9728131234
originalCalledPartyNumber	8005559876
finalCalledPartyNumber	812345
lastRedirectDn	8005559876
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
lastRedirectRedirectReason	399
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	24
origTerminationOnBehalfOf	0
destTerminationOnBehalfOf	0
duration	60

インターコム コール

次の例は、インターコムの CDR を示しています。

インターコムの例

- **ウィスパー インターコムの例**：電話機 20000 がインターコムを起動します。設定済みのインターコム パーティション名は「Intercom」を示します。

フィールド名	元のコールの CDR
globalCallID_callId	1111000
origLegCallIdentifier	21822467
destLegCallIdentifier	21822468
callingPartyNumber	20000
originalCalledPartyNumber	20001
finalCalledPartyNumber	20001
origCause_Value	16
dest_CauseValue	0
origMediaTransportAddress_IP	0
origMediaTransportAddress_Port	0
destMediaTransportAddress_IP	-47446006
destMediaTransportAddress_Port	28480
origCalledPartyNumberPartition	Intercom
callingPartyNumberPartition	Intercom
finalCalledPartyNumberPartition	Intercom
duration	5

- トークバック インターコム の例：電話機 20000 がインターコム ボタンを押します。20001 でトークバックを開始して 20000 に発話します。設定済みのインターコム パーティション名は「intercom」を示します。

フィールド名	元のコールの CDR
globalCallID_callId	1111000
origLegCallIdentifier	21822469
destLegCallIdentifier	21822470
callingPartyNumber	20000
originalCalledPartyNumber	20001
finalCalledPartyNumber	20001
origCause_Value	16
dest_CauseValue	0
origMediaTransportAddress_IP	-131332086
origMediaTransportAddress_Port	29458
destMediaTransportAddress_IP	-47446006
destMediaTransportAddress_Port	29164
origCalledPartyNumberPartition	Intercom
callingPartyNumberPartition	Intercom
finalCalledPartyNumberPartition	Intercom
duration	5

CDR フィールドの説明

表 10-4 は、現在の CDR のすべてのフィールドを CDR に表示される順序で定義しています。

表 10-4 CDR フィールドの説明

フィールド名	値の範囲	説明
cdrRecordType	0、1、2	<p>このフィールドは、レコードのタイプを定義します。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 0：呼詳細レコードの開始（未使用） 1：呼詳細レコード（CDR）の終了 2：CMR レコード <p>デフォルト：CDR では、このフィールドは常に 1 のままです。</p>
globalCallID_callManagerId	正の整数	<p>このフィールドは、一意の Cisco Unified Communications Manager ID を示します。</p> <p>グローバル コール ID は、2 つのフィールド（globalCallID_callId および globalCallID_callManagerId）で構成されます。</p> <p>標準コールに関連付けられているすべてのレコードは、グローバル コール ID が同じになります。</p> <p>デフォルト：このフィールドには必ず値が格納されています。</p>
globalCallID_callId	正の整数	<p>このフィールドは、各コールに割り当てられた一意のコール ID の値を示します。この ID は、各コールサーバ上で別個に割り当てられます。コールが開始すると、連続的に値が選択されます。コールが成功しても失敗しても、各コールに値が割り当てられます。Cisco Unified Communications Manager が再起動すると、この値は 1 にリセットされます。</p> <p>グローバル コール ID は、2 つのフィールド（globalCallID_callId および globalCallID_callManagerId）で構成されます。</p> <p>標準コールに関連付けられているすべてのレコードは、グローバル コール ID が同じになります。</p> <p>デフォルト：このフィールドには必ず値が格納されています。</p>
origLegCallIdentifier	正の整数	<p>このフィールドは、コールの発信レグを示します。この値は、クラスタ内で一意であることを注意してください。複数のサブコール、したがって複数の CDR（コール転送時と同様）間でコールの同じレグが存続する場合、この値は一定になります。</p> <p>デフォルト：このフィールドには必ず値が格納されています。</p>

表 10-4 CDR フィールドの説明 (続き)

フィールド名	値の範囲	説明
dateTimeOrigination	整数	このフィールドは、ユーザがオフフック状態にした日時、または着信コールの H.323 セットアップ メッセージを受信した日時を示します。時間は UTC として格納されます。 デフォルト：このフィールドには必ず値が格納されています。
origNodeId	正の整数	このフィールドは、コールの発信者がコールの発信時に登録されたクラスタ内のノードを示します。 デフォルト：このフィールドには必ず値が格納されています。
origSpan	0、正の整数	ゲートウェイで発信されたコールの場合、このフィールドは、コールが発信された T1、PRI、または BRI トランクの B チャネル番号を示すか、FXS または FXO トランクに対するゼロの値を示します。 H.323 ゲートウェイの場合、スパン番号が不明のため、このフィールドには発信者のコール レッグ ID が格納されます。 ゲートウェイで発信されたコールでない場合、値はゼロになります。 デフォルト：このフィールドには、上記のルールに基づいて値が格納されます。
origIpAddr	整数	このフィールドは、コール シグナリングを発信したデバイスの IP アドレスを示します。 Cisco Unified IP Phone の場合、このフィールドは電話機のアドレスを示します。 PSTN コールの場合、このフィールドは H.323 ゲートウェイのアドレスを示します。 クラスタ間コールの場合、このフィールドはリモート Cisco Unified Communications Manager のアドレスを示します。 P.10-9 の「IP アドレス」 に IP アドレスの形式が記載されています。 デフォルト：このフィールドには、上記のルールに基づいて値が格納されます。

表 10-4 CDR フィールドの説明 (続き)

フィールド名	値の範囲	説明
callingPartyNumber	テキスト文字列	<p>このフィールドは、最大 25 文字の数字列を示します。</p> <p>Cisco Unified IP Phone で発信されたコールの場合、このフィールドは使用された回線の番号を示します。</p> <p>着信 H.323 コールの場合、このフィールドは、セットアップメッセージの Calling Party Number フィールドで受信された値を示します。このフィールドは、Cisco Unified Communications Manager に到達する前に発呼側番号に対して行われた変換（ゲートウェイにおける変換など）を反映しています。</p> <p>サーバコールで、Cisco Unified Communications Manager が発呼側の存在しないハーフコールを発信した場合、このフィールドは空白のままのことがあります。</p> <p>CallingPartyNumber には SIP URI が格納される場合があります。</p> <p>デフォルト：このフィールドには、上記のルールに基づいて値が格納されます。</p>
callingPartyUnicodeLoginUserID	Unicode : UTF_8	<p>このフィールドは、発呼側のログイン ユーザ ID を示します。このフィールドの形式は、UTF_8 です。</p> <p>デフォルト：空白の文字列 “”。ユーザ ID が存在しない場合、このフィールドは空白のままです。</p>
origCause_location	0 ~ 15	<p>ISDN シグナリング リンク経由で受信された切断原因の場合、このフィールドは、ISDN 解放メッセージに示される Location フィールドを示します。P.10-107 の「コール終了原因コード」に、Q.850 ごとの有効な値を示しています。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager の内部で作成された切断原因の場合、この値はゼロになります。</p> <p>デフォルト：0</p>
origCause_value	0 ~ 129	<p>発信側で切断されたコールの場合、このフィールドには切断の原因が反映されます。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、現在 Q.850 コードおよび Cisco Unified Communications Manager 定義の一部のコードを使用しています。P.10-107 の「コール終了原因コード」に、これらのコードを示しています。</p> <p>終端側で切断されたコールの場合、このフィールドはゼロを示します。</p> <p>Q.850 に記載されている標準値に加えて、ある機能（転送/会議）によってコールが分割されると、CDR が終了し、このフィールドには 393216 がセットされます。これは、このフィールド独自の値です。</p> <p>デフォルト：0</p>

表 10-4 CDR フィールドの説明 (続き)

フィールド名	値の範囲	説明
origPrecedenceLevel	0 ~ 4	<p>MLPP の場合、各コール レッグに優先レベルが含まれます。このフィールドは、元のレッグの優先レベルを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 優先レベル 0 = フラッシュ オーバーライド / エクゼクティブ オーバーライド 優先レベル 1 = フラッシュ 優先レベル 2 = 即時 優先レベル 3 = 優先順位 優先レベル 4 = ルーチン <p>デフォルト : 4</p>
origMediaTransportAddress_IP	0、整数	<p>このフィールドは、コール用のメディアを発信したデバイスの IP アドレスを示します。</p> <p>Cisco Unified IP Phone の場合、このフィールドは電話機のアドレスを示します。</p> <p>PSTN コールの場合、このフィールドは H.323 ゲートウェイのアドレスを示します。</p> <p>クラスタ間コールの場合、このフィールドはリモート電話機のアドレスを示します。</p> <p>P.10-9 の「IP アドレス」に IP アドレスの形式が記載されています。</p> <p>デフォルト : 0。メディアが確立されなかった場合、このフィールドは 0 のままです。</p>
origMediaTransportAddress_Port	0、正の整数	<p>このフィールドは、OrigMediaTransportAddress_IP フィールドに関連付けられている IP ポート番号を示します。</p> <p>デフォルト : 0。メディアが確立されなかった場合、このフィールドは 0 のままです。</p>
origMediaCap_payloadCapability	0、正の整数	<p>このフィールドは、発信者がメディアの送信に使用するコーデック タイプを示します。</p> <p>現在、Cisco Unified Communications Manager は、ペイロード機能の値として 0、1 ~ 16、18 ~ 20、25、32、33、81 ~ 86 を使用しています。P.10-106 の「コーデック タイプ」に、有効な値を示しています。</p> <p>デフォルト : 0。メディアが確立されなかった場合、このフィールドは 0 のままです。</p>
origMediaCap_maxFramesPerPacket	0、正の整数	<p>このフィールドは、発信側から送信されたパケットごとのデータのミリ秒数を示します。通常、このフィールドには G.729 または G.711 コーデックに対して 10、20、または 30 がセットされますが、ゼロ以外の任意の値がセットされることもあります。</p> <p>デフォルト : 0。メディアが確立されなかった場合、このフィールドは 0 のままです。</p>

表 10-4 CDR フィールドの説明 (続き)

フィールド名	値の範囲	説明
origMediaCap_g723BitRate	0	このフィールドは、現在のリリースの Cisco Unified Communications Manager では使用していません。 このフィールドは 0 のままです。
origVideoCap_Codec	0、 100 = H.261、 101 = H.263、 102 = Vieo	このフィールドは、発信者がビデオの送信に使用するコーデック タイプを示します (H.261、H.263、または Vieo)。 デフォルト：0。メディアが確立されなかった場合、このフィールドは 0 のままです。
origVideoCap_Bandwidth	0、正の整数	このフィールドは、kbps 単位で測定される帯域幅を示します。 デフォルト：0。メディアが確立されなかった場合、このフィールドは 0 のままです。
origVideoCap_Resolution	0、 1 = SQCIF、 2 = QCIF、 3 = CIF、 4 = CIF4、 5 = CIF16	このフィールドは、ビデオ解像度を示します。 デフォルト：0。メディアが確立されなかった場合、このフィールドは 0 のままです。
origVideoTransportAddress_IP	0、整数	このフィールドは、コールを発信したデバイスの IP アドレスを示します。 デフォルト：0。メディアが確立されなかった場合、このフィールドは 0 のままです。
origVideoTransportAddress_Port	0、正の整数	このフィールドは、origVideoTransportAddress_IP フィールドに関連付けられているビデオ RTP ポートを示します。 デフォルト：0。メディアが確立されなかった場合、このフィールドは 0 のままです。

表 10-4 CDR フィールドの説明 (続き)

フィールド名	値の範囲	説明
origRSVPAudioStat	0 ~ 5	<p>このフィールドは、発信元から終端への RSVP オーディオ予約のステータスを示します。</p> <p>0 : 予約なし</p> <p>1 : コールの設定時または機能の起動時の RSVP Reservation Failure 状態</p> <p>2 : コールの設定時または機能の起動時の RSVP Reservation Success 状態</p> <p>3 : コールの設定時または機能の起動時の RSVP Reservation No Response (RSVP Agent) 状態</p> <p>4 : RSVP Mid Call Failure Preempted 状態 (コールの設定後に優先処理が行われた)</p> <p>5 : RSVP Mid Call Failure Lost Bandwidth 状態 (MLPP 優先処理以外のすべてのコール中機能を含む)</p> <p>デフォルト : 0</p>
origRSVPVideoStat	0 ~ 5	<p>このフィールドは、発信元から終端への RSVP ビデオ予約のステータスを示します。</p> <p>0 : 予約なし</p> <p>1 : コールの設定時または機能の起動時の RSVP Reservation Failure 状態</p> <p>2 : コールの設定時または機能の起動時の RSVP Reservation Success 状態</p> <p>3 : コールの設定時または機能の起動時の RSVP Reservation No Response (RSVP Agent) 状態</p> <p>4 : RSVP MID Call Failure Preempted 状態 (コールの設定後に優先処理が行われた)</p> <p>5 : RSVP MID Call Failure Lost Bandwidth 状態 (MLPP 優先処理以外のすべてのコール中機能を含む)</p> <p>デフォルト : 0</p>
destLegCallIdentifier	0、正の整数	<p>このフィールドは、コールの終端レグを示します。この値は、クラスタ内で一意のままです。複数のサブコール、したがって複数の CDR (コール転送時と同様) 間でコールの同じレグが存続する場合、この値は一定になります。</p> <p>デフォルト:0。送信先に到達できなかった場合、このフィールドは 0 のままです。</p>
destNodeId	0、正の整数	<p>このフィールドは、コールの発信時にコールの終端側が登録されるクラスタ内のノードを示します。</p> <p>デフォルト:0。送信先に到達できなかった場合、このフィールドは 0 のままです。</p>

表 10-4 CDR フィールドの説明 (続き)

フィールド名	値の範囲	説明
destSpan	0、正の整数	<p>ゲートウェイで受信されたコールの場合、このフィールドは、コールが受信された T1、PRI、または BRI トランクの B チャネル番号を示すか、FXS または FXO トランクに対するゼロの値を示します。</p> <p>H.323 ゲートウェイの場合、スパン番号が不明のため、このフィールドには接続先のコール レッグ ID が格納されません。</p> <p>ゲートウェイで受信されたコールでない場合、値はゼロになります。</p> <p>デフォルト:0。送信先に到達できなかった場合、このフィールドは 0 のままです。</p>
destIpAddr	0、整数	<p>このフィールドは、コール シグナリングを終端したデバイスの IP アドレスを示します。</p> <p>Cisco Unified IP Phone の場合、このフィールドは電話機のアドレスを示します。</p> <p>PSTN コールの場合、このフィールドは H.323 ゲートウェイのアドレスを示します。</p> <p>クラスタ間コールの場合、このフィールドはリモート Cisco Unified Communications Manager のアドレスを示します。</p> <p>P.10-9 の「IP アドレス」に IP アドレスの形式が記載されています。</p> <p>デフォルト:0。送信先に到達できなかった場合、このフィールドは 0 のままです。</p>
originalCalledPartyNumber	テキスト文字列	<p>このフィールドは、コール転送の前に、表示されていた元のコールの番号を示します。変換ルールが設定されている場合、この番号には、変換が行われた後に着信番号が反映されます。</p> <p>このフィールドは、最大 48 文字の数字列で、番号または SIP URL のどちらかになります。</p> <p>デフォルト: 空白の文字列 ""。送信先に到達できなかった場合、このフィールドは空白のままです。</p>

表 10-4 CDR フィールドの説明 (続き)

フィールド名	値の範囲	説明
finalCalledPartyNumber	テキスト文字列	<p>このフィールドは、応答があるまで、またはリングアウトするまで、最後に表示されたコールの番号を示します。自動転送が発生しなかった場合、この数字は originalCalledPartyNumber と同じになります。</p> <p>会議ブリッジへのコールの場合、このフィールドには会議ブリッジの実際の ID (b0019901001 などの英数字文字列) が格納されます。</p> <p>このフィールドは、最大 48 文字の数字列で、番号または SIP URL のどちらかになります。</p> <p>デフォルト：空白の文字列 ""。送信先に到達できなかった場合、このフィールドは空白のままです。</p>
finalCalledPartyUnicodeLoginUserID	Unicode : UTF_8	<p>この最終着信側フィールドは、ログイン ユーザ ID を示します。このフィールドの形式は、UTF_8 です。</p> <p>デフォルト：空白の文字列 ""。ユーザ ID が存在しない場合、このフィールドは空白のままです。</p>
destCause_location	0 ~ 15	<p>ISDN シグナリング リンク経由で受信された切断原因の場合、ISDN 解放メッセージはこのロケーション フィールドを示します。P.10-107 の「コール終了原因コード」に、Q.850 ごとの有効な値を示しています。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager が内部で作成する切断原因の場合、この値はゼロになります。</p> <p>デフォルト：0。送信先に到達できなかった場合、このフィールドは 0 のままです。</p>
destCause_value	0 ~ 129	<p>着信側が切断したコールの場合、このフィールドには切断の原因が反映されます。P.10-107 の「コール終了原因コード」に、Q.850 ごとの有効な値を示しています。</p> <p>発信側が切断したコールの場合、このフィールドはゼロのままです。</p> <p>Q.850 に記載されている標準値に加えて、ある機能 (転送/会議) によってコールが分割されると、CDR が終了し、このフィールドには 393216 がセットされます。これは、このフィールド独自の値です。</p> <p>デフォルト：0。送信先に到達できなかった場合、このフィールドは 0 のままです。</p>
destPrecedenceLevel	0 ~ 4	<p>MLPP の場合、各コール レッグに優先レベルが含まれます。このフィールドは、送信先レッグの優先レベルを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 優先レベル 0 = フラッシュ オーバーライド • 優先レベル 1 = フラッシュ • 優先レベル 2 = 即時 • 優先レベル 3 = 優先順位 • 優先レベル 4 = ルーチン <p>デフォルト：4</p>

表 10-4 CDR フィールドの説明 (続き)

フィールド名	値の範囲	説明
destMediaTransportAddress_IP	0、整数	<p>このフィールドは、コール用のメディアを終端したデバイスの IP アドレスを示します。</p> <p>Cisco Unified IP Phone の場合、このフィールドは電話機のアドレスを示します。</p> <p>PSTN コールの場合、このフィールドは H.323 ゲートウェイのアドレスを示します。</p> <p>クラスタ間コールの場合、このフィールドはリモート電話機のアドレスを示します。</p> <p>P.10-9 の「IP アドレス」に IP アドレスの形式が記載されています。</p> <p>デフォルト:0。送信先に到達できなかった場合、このフィールドは 0 のままです。</p>
destMediaTransportAddress_Port	0、正の整数	<p>このフィールドは、DestMediaTransportAddress_IP フィールドに関連付けられている IP ポート番号を示します。</p> <p>デフォルト:0。送信先に到達できなかった場合、このフィールドは 0 のままです。</p>
destMediaCap_payloadCapability	0、正の整数	<p>このフィールドは、終端側がメディアの送信に使用するコーデック タイプを示します。</p> <p>現在、Cisco Unified Communications Manager は、ペイロード機能の値として 0、1 ~ 16、18 ~ 20、25、32、33、81 ~ 86 を使用しています。P.10-106 の「コーデック タイプ」に、有効な値を示しています。</p> <p>デフォルト:0。送信先に到達できなかった場合、このフィールドは 0 のままです。</p>
destMediaCap_maxFramesPerPacket	0、正の整数	<p>このフィールドは、コールの終端側から送信されたパケットごとのデータのミリ秒数を示します。通常、このフィールドには G.729 または G.711 コーデックに対して 10、20、または 30 がセットされますが、ゼロ以外の任意の値がセットされることもあります。</p> <p>メディアが確立されなかった場合、このフィールドはゼロを示すことがあります。</p> <p>デフォルト:0。送信先に到達できなかった場合、このフィールドは 0 のままです。</p>
destMediaCap_g723BitRate	0	<p>このフィールドは、現在のリリースの Cisco Unified Communications Manager では使用していません。</p> <p>デフォルト:このフィールドは 0 のままです。</p>
destVideoCap_Codec	0、 100 = H.261、 101 = H.263、 102 = Vieo	<p>このフィールドは、終端側がビデオの送信に使用するコーデック タイプを示します (H.261、H.263、または Vieo)。</p> <p>デフォルト:0。送信先に到達できなかった場合、このフィールドは 0 のままです。</p>

表 10-4 CDR フィールドの説明 (続き)

フィールド名	値の範囲	説明
destVideoCap_Bandwidth	0、正の整数	このフィールドは、帯域幅を示します。測定単位は kbps です。 デフォルト:0。送信先に到達できなかった場合、このフィールドは 0 のままです。
destVideoCap_Resolution	0、 1 = SQCIF、 2 = QCIF、 3 = CIF、 4 = CIF4、 5 = CIF16	このフィールドは、ビデオ解像度を示します。 デフォルト:0。送信先に到達できなかった場合、このフィールドは 0 のままです。
destVideoTransportAddress_IP	0、整数	このフィールドは、コールを受信したデバイスの IP アドレスを示します。 デフォルト:0。送信先に到達できなかった場合、このフィールドは 0 のままです。
destVideoTransportAddress_Port	0、正の整数	このフィールドは、destVideoTransportAddress_IP フィールドに関連付けられているビデオ RTP ポートを示します。 デフォルト:0。送信先に到達できなかった場合、このフィールドは 0 のままです。
destRSVPAudioStat	0 ~ 5	このフィールドは、終端から発信元への RSVP オーディオ予約のステータスを示します。 0: 予約なし 1: コールの設定時または機能の起動時の RSVP Reservation Failure 状態 2: コールの設定時または機能の起動時の RSVP Reservation Success 状態 3: コールの設定時または機能の起動時の RSVP Reservation No Response (RSVP Agent) 状態 4: RSVP Mid Call Failure Preempted 状態 (コールの設定後に優先処理が行われた) 5: RSVP Mid Call Failure Lost Bandwidth 状態 (MLPP 優先処理以外のすべてのコール中機能を含む) デフォルト: 0

表 10-4 CDR フィールドの説明 (続き)

フィールド名	値の範囲	説明
destRSVPVideoStat	0 ~ 5	<p>このフィールドは、終端から発信元への RSVP ビデオ予約のステータスを示します。</p> <p>0 : 予約なし</p> <p>1 : コールの設定時または機能の起動時の RSVP Reservation Failure 状態</p> <p>2 : コールの設定時または機能の起動時の RSVP Reservation Success 状態</p> <p>3 : コールの設定時または機能の起動時の RSVP Reservation No Response (RSVP Agent) 状態</p> <p>4 : RSVP Mid Call Failure Preempted 状態 (コールの設定後に優先処理が行われた)</p> <p>5 : RSVP Mid Call Failure Lost Bandwidth 状態 (MLPP 優先処理以外のすべてのコール中機能を含む)</p> <p>デフォルト : 0</p>
dateTimeConnect	0、整数	<p>このフィールドは、コールが接続された日時を示します。時間は UTC として格納されます。コールへの応答がなかった場合、この値はゼロになります。</p> <p>デフォルト : 0。コールが接続されなかった場合、このフィールドは 0 のままです。</p>
dateTimeDisconnect	0、整数	<p>このフィールドは、コールが切断された日時を示します。コールが接続されなかった場合でも、このフィールドはセットされます。時間は UTC として格納されます。</p> <p>デフォルト : 0。コールが接続されなかった場合、このフィールドは 0 のままです。</p>
lastRedirectDn	テキスト文字列	<p>このフィールドは、最大 25 文字の数字列を示します。この数字列は、番号または SIP URL のどちらかになります。</p> <p>自動転送されたコールの場合、このフィールドは、コールが最終送信先に到達する以前の最後のホップの直前の電話番号を示します。発生したホップが 1 つだけの場合、この番号は OriginalCalledPartyNumber と一致します。</p> <p>自動転送されなかったコールの場合、このフィールドの値は OriginalCalledPartyNumber および FinalCalledPartyNumber と一致します。</p> <p>会議ブリッジへのコールの場合、このフィールドには会議ブリッジの実際の ID (b0019901001 などの英数字文字列) が格納されます。</p> <p>デフォルト : 空白の文字列 ""。コールがリダイレクトされなかった場合、このフィールドは空白のままです。</p>

表 10-4 CDR フィールドの説明 (続き)

フィールド名	値の範囲	説明
pkid	テキスト文字列	このフィールドは、データベースが各行を一意に識別するために内部で使用するテキスト文字列を示します。このテキスト文字列は、コール自体に対して意味はありません。 デフォルト: このフィールドには必ず一意の ID が格納されています。
originalCalledPartyNumberPartition	テキスト文字列	このフィールドは、OriginalCalledPartyNumber フィールドに関連付けられているパーティション名を一意に示します。これは、Cisco Unified Communications Manager が、異なるパーティションにある同じ内線番号を持つ複数の Cisco Unified IP Phone をサポートしているためです。 H.323 ゲートウェイ経由で発信されたコールの場合、このフィールドは、そのゲートウェイを示すルートパターンに関連付けられているパーティション名を一意に示します。 デフォルト: 空白の文字列 ""。元の着信側にパーティションが存在しなかった場合、このフィールドは空白のままです。
callingPartyNumberPartition	テキスト文字列	このフィールドは、CallingPartyNumber フィールドに関連付けられているパーティション名を一意に示します。これは、Cisco Unified Communications Manager が、異なるパーティションにある同じ内線番号を持つ複数の Cisco Unified IP Phone をサポートしているためです。 H.323 ゲートウェイ経由で受信したコールの場合、このフィールドは空白のままです。 デフォルト: 空白の文字列 ""。元の着信側にパーティションが存在しなかった場合、このフィールドは空白のままです。
finalCalledPartyNumberPartition	テキスト文字列	このフィールドは、FinalCalledPartyNumber フィールドに関連付けられているパーティション名を一意に示します。これは、Cisco Unified Communications Manager が、異なるパーティションにある同じ内線番号を持つ複数の Cisco Unified IP Phone をサポートしているためです。 H.323 ゲートウェイ経由で発信されたコールの場合、このフィールドは、そのゲートウェイを示すルートパターンに関連付けられているパーティション名を一意に示します。 デフォルト: 空白の文字列 ""。最終着信側にパーティションが存在しなかった場合、このフィールドは空白のままです。

表 10-4 CDR フィールドの説明 (続き)

フィールド名	値の範囲	説明
lastRedirectDnPartition	テキスト文字列	<p>このフィールドは、LastRedirectDn フィールドに関連付けられているパーティション名を一意に示します。これは、Cisco Unified Communications Manager が、異なるパーティションにある同じ内線番号を持つ複数の Cisco Unified IP Phone をサポートしているためです。</p> <p>H.323 ゲートウェイ経由で発信されたコールの場合、このフィールドは、そのゲートウェイを示すルートパターンに関連付けられているパーティション名を示します。</p> <p>デフォルト：空白の文字列 ""。最後のリダイレクト側にパーティションが存在しなかった場合、またはコールがリダイレクトされなかった場合、このフィールドは空白のままです。</p>
duration	0、正の整数	<p>このフィールドは、Connect Time と Disconnect Time の差を示します。このフィールドは、コールが接続されていた時間を秒単位で示します。コールが接続されなかった場合、または接続時間が 1 秒未満の場合、このフィールドはゼロのままです。</p> <p>デフォルト：0</p>
origDeviceName	テキスト文字列	<p>このフィールドは、発信側デバイスの名前を識別するテキスト文字列を示します。</p> <p>デフォルト：このフィールドには必ず値が格納されています。</p>
destDeviceName	テキスト文字列	<p>このフィールドは、送信先デバイスの名前を識別するテキスト文字列を示します。</p> <p>デフォルト：空白の文字列 ""。元のデバイスに名前が付いていなかった場合、このフィールドは空白のままです。</p>
origCallTerminationOnBehalfOf	0、正の整数	<p>このフィールドは、発信者が切断された原因を識別するコードを示します。</p> <p>たとえば、コールの発信者が電話を切った場合、OnBehalfOf code は「12」（デバイス）を示します。コールが転送のために終了した場合、OnBehalfOf コードは「10」（転送）を示します。</p> <p>コードのリストについては、P.10-112 の「OnBehalfOf コード」を参照してください。本リリースで新しい OnBehalfOf コードが追加されました。</p> <p>デフォルト：0</p>

表 10-4 CDR フィールドの説明 (続き)

フィールド名	値の範囲	説明
destCallTerminationOnBehalfOf	0、正の整数	<p>このフィールドは、送信先が切断された原因を識別するコードを示します。</p> <p>たとえば、コールの発信者が電話を切った場合、OnBehalfOf code は「12」(デバイス)を示します。コールが転送のために終了した場合、OnBehalfOf コードは「10」(転送)を示します。</p> <p>コードのリストについては、P.10-112の「OnBehalfOf コード」を参照してください。本リリースで新しい OnBehalfOf コードが追加されました。</p> <p>デフォルト：0</p>
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	0、正の整数	<p>このフィールドには、元の着信側のリダイレクト原因を示すコードが格納されます。</p> <p>たとえば、元の着信側が会議のためにリダイレクトされた場合、OnBehalfOf コードは「4」になります。</p> <p>コードのリストについては、P.10-112の「OnBehalfOf コード」を参照してください。本リリースで新しい OnBehalfOf コードが追加されました。</p> <p>デフォルト：0</p>
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0、整数	<p>このフィールドには、最後のリダイレクト側のリダイレクト原因を示すコードが格納されます。</p> <p>たとえば、最後のリダイレクト側が会議のためにリダイレクトされた場合、OnBehalfOf コードは「4」になります。</p> <p>コードのリストについては、P.10-112の「OnBehalfOf コード」を参照してください。本リリースで新しい OnBehalfOf コードが追加されました。</p> <p>デフォルト：0</p>
origCalledPartyRedirectReason	0、整数	<p>このフィールドは、元の着信側のリダイレクト原因を示します。</p> <p>コードの完全なリストについては、P.10-111の「リダイレクト原因コード」を参照してください。</p> <p>デフォルト：0</p>
lastRedirectRedirectReason	0、整数	<p>このフィールドは、最後のリダイレクト原因を示します。</p> <p>コードの完全なリストについては、P.10-111の「リダイレクト原因コード」を参照してください。</p> <p>デフォルト：0</p>

表 10-4 CDR フィールドの説明 (続き)

フィールド名	値の範囲	説明
destConversationID	0、整数	このフィールドは、会議コールのパーティを識別するために使用される一意識別子を示します。 会議チェーニング シナリオの場合、origConversationID および destConversationID フィールドは、どの会議がチェーニングされたかを示します。 デフォルト：0
globalCallId_ClusterId	テキスト文字列	このフィールドは、Cisco Unified Communications Manager のクラスタを特定する一意の ID を示します。 このフィールドはインストール時に生成されるもので、Cisco Unified Communications Manager では使用しません。この一意のキーは、globalCallId_ClusterId + globalCallId_CMIId + globalCallId_CallId の各フィールドで構成されています。 デフォルト：このフィールドには必ず値が格納されています。
joinOnBehalfOf	0、整数	このフィールドには、結合の原因を示すコードが格納されます。 たとえば、転送のために結合が発生した場合、OnBehalfOf コードには「10」が格納されます。 コードのリストについては、P.10-112 の「OnBehalfOf コード」を参照してください。 デフォルト：0
Comment	テキスト文字列	このフィールドでは、テキストを CDR に追加できます。このテキストは、コールに関する詳細を説明するものです。 たとえば、次のフィールドは迷惑呼にフラグを設定します。 Tag : CallFlag Value : MALICIOUS デフォルト：空白の文字列 ""。
authCodeDescription	テキスト文字列	このフィールドは、FAC の説明を示します。 デフォルト：空白の文字列 "" またはヌル。
authorizationLevel	0、整数	このフィールドは、FAC のレベルを示します。 デフォルト：0
clientMatterCode	テキスト文字列	コールが拡張される前に、ユーザはクライアント証明書コードを入力します。このコードは、アカウントまたは課金コードをコールに割り当てるために使用できます。このフィールドは、クライアント証明書コードを示します。 デフォルト：空白の文字列 "" またはヌル。

表 10-4 CDR フィールドの説明 (続き)

フィールド名	値の範囲	説明
origDTMFMethod	0、正の整数	<p>このフィールドは、発信者が使用する DTMF 方式を示します。</p> <p>0 : DTMF なし (一致する任意の DTMF を使用する)</p> <p>1 : OOB (SIPTrunk の背後にあるエンドポイントが OOB をサポートしている場合、それを使用する)</p> <p>2 : 2833 (SIPTrunk の背後にあるエンドポイントが RFC2833 をサポートしている場合、それを使用する)</p> <p>3 : OOB と 2833 (SIPTrunk の背後にあるエンドポイントが KPML と RFC2833 の両方をサポートできる場合、それらを使用する)</p> <p>4 : 不明</p> <p>デフォルト : 0 (初期設定なし)</p>
destDTMFMethod	0、正の整数	<p>このフィールドは、送信先が使用する DTMF 方式を示します。</p> <p>0 : DTMF なし (一致する任意の DTMF を使用する)</p> <p>1 : OOB (SIPTrunk の背後にあるエンドポイントが OOB をサポートしている場合、それを使用する)</p> <p>2 : 2833 (SIPTrunk の背後にあるエンドポイントが RFC2833 をサポートしている場合、それを使用する)</p> <p>3 : OOB と 2833 (SIPTrunk の背後にあるエンドポイントが KPML と RFC2833 の両方をサポートできる場合、それらを使用する)</p> <p>4 : 不明</p> <p>デフォルト : 0 (初期設定なし)</p>
callSecuredStatus	0、正の整数	<p>このフィールドは、コール中に達成した最も高いセキュリティステータスを示します。たとえば、コールが最初はセキュリティ保護されておらず、後でセキュリティ保護されるようになった場合、コールの別の部分のステータス値が異なっても、CDR には 1 (セキュリティ保護あり) が格納されます。</p> <p>0 : セキュリティ保護なし</p> <p>1 : 認証済み (暗号化されていない)</p> <p>2 : セキュリティ保護あり (暗号化されている)</p> <p>デフォルト : 0 (セキュリティ保護なし)</p>
origConversationID	整数	<p>このフィールドは、コールの発信レックに関連付けられている会議 ID を示します。ほとんどの場合、このフィールドの値は 0 になります。</p> <p>会議チェーニングシナリオの場合、origConversationID および destConversationID フィールドは、どの会議がチェーニングされたかを示します。</p> <p>デフォルト : 0</p>

表 10-4 CDR フィールドの説明（続き）

フィールド名	値の範囲	説明
origMediaCap_Bandwidth	0、正の整数	このフィールドは、コールの発信時に使用されたメディアの帯域幅を示します。 デフォルト：0
destMediaCap_Bandwidth	0、正の整数	このフィールドは、コールの着信時に使用されたメディアの帯域幅を示します。 デフォルト：0
authorizationCodeValue	テキスト文字列	このフィールドは、コールに関連付けられている FAC を示します。 デフォルト：空白の文字列 "" またはヌル。

CMR のフィールドの説明 (診断)

表 10-5 は、CMR のフィールド、値の範囲、およびフィールドの説明を CMR に表示される順に示しています。

表 10-5 CMR フィールドの説明

フィールド名	値の範囲	説明
cdrRecordType	0、1、または 2	<p>このフィールドは、このレコードのタイプを示します。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 0 : 呼詳細レコードの開始 (未使用) 1 : 呼詳細レコードの終了 2 : CMR レコード <p>デフォルト : CMR では、このフィールドは常に 2 のままです。</p>
globalCallID_callManagerId	正の整数	<p>このフィールドは、一意の Cisco Unified Communications Manager ID を示します。</p> <p>このフィールドは、グローバル コール ID の一方の構成要素です。グローバル コール ID は、次のフィールドで構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> globalCallId_callId globalCallID_callManagerID <p>標準コールに関連付けられているすべてのレコードは、グローバル コール ID が同じになります。</p> <p>デフォルト : このフィールドには必ず値が格納されています。</p>
globalCallId_callId	正の整数	<p>このフィールドは、各コールに割り当てられた一意のコール ID の値を示します。この ID は、各コールサーバ上で別個に割り当てられます。コールが開始すると、連続的に値が選択されます。成功か失敗かに関係なく、各コールは値を割り当てられます。</p> <p>このフィールドは、グローバル コール ID の一方の構成要素です。グローバル コール ID は、次の 2 つのフィールドで構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> globalCallId_callId globalCallID_callManagerID <p>標準コールに関連付けられているすべてのレコードは、グローバル コール ID が同じになります。</p> <p>デフォルト : このフィールドには必ず値が格納されています。</p>
nodeId	正の整数	<p>このフィールドは、このレコードを生成した Cisco Unified Communications Manager クラスタ内のノードを示します。</p> <p>デフォルト : このフィールドには必ず値が格納されています。</p>

表 10-5 CMR フィールドの説明 (続き)

フィールド名	値の範囲	説明
callIdentifier	正の整数	このフィールドは、このレコードが属するコール レッグ ID を示します。 デフォルト：このフィールドには必ず値が格納されています。
directoryNumber	整数	このフィールドは、診断情報が収集されたデバイスの電話番号を示します。 デフォルト：このフィールドには必ず値が格納されています。
dateTimeStamp	整数	このフィールドは、デバイスがオンフック状態になったおおよその時刻を示します。Cisco Unified Communications Manager は、電話機が診断情報の要求に応答した時刻を記録します。 デフォルト：このフィールドには必ず値が格納されています。
numberPacketsSent	整数	このフィールドは、この接続で送信を開始してから、デバイスが送信した Routing Table Protocol (RTP) データ パケットの合計数を示します。接続が「受信専用」モードに設定されていた場合、この値はゼロのままです。 デフォルト：0
numberOctetsSent	整数	このフィールドは、この接続で送信を開始してから、デバイスが RTP データ パケットで送信したペイロード オクテット (ヘッダーおよびパディングを除く) の合計数を示します。接続が「受信専用」モードに設定されていた場合、この値はゼロのままです。 デフォルト：0
numberPacketsReceived	整数	このフィールドは、この接続で受信を開始してから、デバイスが受信した RTP データ パケットの合計数を示します。マルチキャスト コールの場合、この値には異なるソースから受信したパケットも含まれます。接続が「送信専用」モードに設定されていた場合、この値はゼロのままです。 デフォルト：0
numberOctetsReceived	整数	このフィールドは、この接続で受信を開始してから、デバイスが RTP データ パケットで受信したペイロード オクテット (ヘッダーおよびパディングを除く) の合計数を示します。マルチキャスト コールの場合、この値には異なるソースから受信したパケットも含まれます。接続が「送信専用」モードに設定されていた場合、この値はゼロのままです。 デフォルト：0

表 10-5 CMR フィールドの説明 (続き)

フィールド名	値の範囲	説明
numberPacketsLost	整数	このフィールドは、受信を開始してから損失した RTP データ パケットの合計数を示します。この値は予測されるパケット数を示すもので、実際に受信したパケット数よりも少なくなります。受信したパケット数には、遅延または重複したパケットが含まれます。このため、遅延したパケットは損失に含まれず、また重複するパケットが存在する場合、損失がマイナスになることがあります。予測されるパケット数は、受信した最後のシーケンス番号を拡張したものを示します。次に定義されるように、受信した最初のシーケンス番号より小さくなります。接続が「送信専用」モードに設定されていた場合、この値はゼロのままです。詳細については、RFC 1889 を参照してください。 デフォルト：0
jitter	整数	このフィールドは、RTP データ パケットの到着間隔時間の統計的分散の推定値を示します。この値は、ミリ秒単位で測定され、符号なし整数として表されます。到着間隔ジッタ J は、受信者のパケットを送信者のパケットと比較し、その差分 D の平均偏差 (平滑化した絶対値) を示します。RFC 1889 には、詳細な計算アルゴリズムが記載されています。接続が「送信専用」モードに設定されていた場合、この値はゼロのままです。 デフォルト：0
latency	整数	このフィールドは、ネットワーク遅延の推定値をミリ秒単位で示します。この値は、RTP Control Protocol (RTCP) メッセージに示される NTP タイムスタンプと受信者の NTP タイムスタンプとの差の平均値を示すもので、これらのメッセージの受信時に測定されます。 Cisco Unified Communications Manager は、すべての推定値を合計し、受信した RTCP メッセージ数で割ることによって平均値を計算します。詳細については、RFC 1889 を参照してください。 デフォルト：0
pkid	テキスト文字列	このフィールドは、データベースが各行を一意に識別するために内部で使用するテキスト文字列を示します。このテキスト文字列は、コール自体に対して意味はありません。 デフォルト：このフィールドには必ず一意の ID が格納されています。
directoryNumberPartition	テキスト文字列	このフィールドは、電話番号のパーティションを示します。 デフォルト：空白の文字列 ""。パーティションが存在しない場合、このフィールドは空白のままになることがあります。
deviceName	テキスト文字列	このフィールドは、デバイスの名前を示します。 デフォルト：空白の文字列 ""。デバイス名が存在しない場合、このフィールドは空白のままになることがあります。

表 10-5 CMR フィールドの説明 (続き)

フィールド名	値の範囲	説明
globalCallId_ClusterId	テキスト文字列	<p>このフィールドは、複数の Cisco Unified Communications Manager のクラスタを特定する一意の ID を示します。</p> <p>このフィールドはインストール時に生成されますが、Cisco Unified Communications Manager では、globalCallId_ClusterId、globalCallId_callManagerId、および globalCallId_callId は使用されません。</p> <p>デフォルト：このフィールドには必ず値が格納されています。</p>
varVQMetrics	テキスト文字列	<p>このフィールドには、音声品質メトリックの変数が格納されます。このフィールドは、複数の音声品質メトリックをセミコロンで区切った文字列からなります。</p> <p>この文字列の形式は次のとおりです。</p> <p>fieldName=value;fieldName=value.precision</p> <p>次の例は音声品質データを示していますが、名前は異なる場合があります。</p> <p>"MLQK=4.5000;MLQKav=4.5000;MLQKmn=4.5000;MLQKmx=4.5000;MLQKvr=0.95;CCR=0.0000;ICR=0.0000;ICRmx=0.0000;CS=0;SCS=0"</p> <p> (注) K ファクタ データの完全なリストについては、表 10-6 「Cisco Unified Communications Manager CMR に保存される K ファクタ データ」を参照してください。</p>

CMR の K ファクタ データ

K ファクタは、ITU 標準 P.VTQ で定義されているエンドポイント平均オピニオン スコア (MOS) 推定アルゴリズムです。これは、一般的な推定法則であり、特定の減衰パターンに対する Perceptual Evaluation of Speech Quality (PESQ) 実装の平均値を推定するために使用されます。

MOS は、適切に計画されたリスニング試験の結果に対応しています。ITU 標準 P.862.1 で定義されているとおりに、すべての MOS 試験で 5 ポイント PESQ スケールが使用されています。ITU 標準 P.862.1 では、PESQ について、狭帯域電話ネットワークおよび音声コーデックのエンドツーエンド音声品質を評価するための客観的な方法であると説明しています。

MOS 推定値は、フレーム損失密度に反比例します。受信側でフレームの損失または廃棄が増えるにつれて、明瞭度が低下します。このようなフレームの損失または廃棄を「秘匿」といいます。秘匿統計では、障害が発生したネットワークにおけるパケット (フレーム) 損失とその音声品質への影響を測定します。

K ファクタは、ビット落ちなどのパケット損失や震音によって発生する歪みのためにユーザが感じる不快感について、重み付き平均の推定値を示すものです。エコーなど遅延に関連する障害の影響は、推定値に含まれません。K ファクタは、会話品質 (MOS-CQO) ではなくリスニング品質 (MOS-LQO) を示し、ユーザが感じる不快感の平均を 1 (音声品質が悪い) から 5 (音声品質が非常に良い) までの測定値で提供します。

K ファクタは、多数の音声データベースの音声サンプルで調整および改良されています。これらの音声データベースでは、調整用の文章や P.862.1 値に関連するネットワーク条件はそれぞれ 8 秒間に設定されています。より正確なスコアを求めるために、8 秒間のアクティブな音声ごとに K ファクタ推定値が生成されます。

K ファクタおよびその他の MOS 推定値は、あくまでも二次的統計または派生統計と考えてください。これらの値は、問題が深刻化して初めてネットワーク オペレータに警告を出すためです。主要な統計は、パケット数や秘匿秒数カウンタになります。これらの値は、MOS を通じてネットワーク障害を目や耳で自覚する前に、ネットワーク オペレータに警告を出すためです。

表 10-6 は、Cisco Unified Communications Manager CMR に保存される K ファクタ データを示しています。

表 10-6 Cisco Unified Communications Manager_CMР に保存される K ファクタ データ

フィールド名	電話機での表示名	D&I ユーザ インターフェイスのテキストと説明
CCR	累積秘匿率	累積秘匿率は、コール開始後に観測された発話時間に対する秘匿時間の累積率を示します。
ICR	間隔秘匿率	間隔秘匿率は、間隔ベースの平均秘匿率で、アクティブな音声の最後の 3 秒間の発話時間に対する秘匿時間の割合を示します。
ICRmx	最大秘匿率	間隔最大秘匿率は、コール中に観測された最大秘匿率を示します。
CS	秒数を秘匿	「秒数を秘匿」は、コール中に観測された秘匿の時間を示します。
SCS	厳密に秒数を秘匿	「厳密に秒数を秘匿」は、大量に観測された秘匿の時間を示します。通常、50 ミリ秒または約 5 パーセントを超える秘匿が観測された場合、音声は聞き取りにくくなります。
MLQK	MOS LQK	MOS リスニング品質 K ファクタは、1 つのパスで受信した音声の最後の 8 秒の MOS スコアの推定値を示します。

表 10-6 Cisco Unified Communications Manager_CMR に保存される K ファクタ データ (続き)

フィールド名	電話機での表示名	D&I ユーザ インターフェイスのテキストと説明
MLQKmn	最小 MOS LQK	最小 MOS リスニング品質 K ファクタは、コールの開始後に観測された最小スコアを示し、最も品質の悪い音声を 8 秒間隔で示します。
MLQKmx	最大 MOS LQK	最大 MOS リスニング品質 K ファクタは、コールの開始後に観測された最大スコアを示し、最も品質の良い音声を 8 秒間隔で示します。
MLQKav	平均 MOS LQK	平均 MOS リスニング品質 K ファクタは、コールの開始後に観測された実行中の平均スコアを示します。

コーデック タイプ

表 10-7 は、コーデック フィールドに表示される圧縮およびペイロードのタイプを示しています。

表 10-7 コーデック タイプ

値	説明
1	非標準
2	G711Alaw 64k
3	G711Alaw 56k
4	G711mu-law 64k
5	G711mu-law 56k
6	G722 64k
7	G722 56k
8	G722 48k
9	G7231
10	G728
11	G729
12	G729AnnexA
13	Is11172AudioCap
14	Is13818AudioCap
15	G.729AnnexB
16	G.729 Annex AwAnnexB
18	GSM Full Rate
19	GSM Half Rate
20	GSM Enhanced Full Rate
25	Wideband 256K
32	Data 64k
33	Data 56k
40	G7221 32K
41	G7221 24K
42	AAC
80	GSM
81	ActiveVoice
82	G726_32K
83	G726_24K
84	G726_16K
86	iLBC
100	H261
101	H263
102	Vieo
103	H264
106	H224

コール終了原因コード

次の各表は、CDR の原因フィールドに表示されるコール終了原因コードを示しています。

- 表 10-8 「コール終了原因コード
- 表 10-9 「Cisco 固有のコール終了原因コード

表 10-8 コール終了原因コード

コード	説明
0	エラーはありません。
1	未割り当ての番号です。
2	指定の中継ネットワークへのルートがありません（国内使用）。
3	着信先へのルートがありません。
4	特別な情報トーンが送信されました。
5	間違ってダイヤルされたトランクのプレフィックス（国内使用）。
6	チャンネルが受け入れられません。
7	コールが与えられ、確立されたチャンネルで配送されています。
8	プリエンプション。
9	プリエンプション：回線は再利用のために予約されています。
16	通常のコールのクリアです。
17	ユーザがビジーです。
18	ユーザの応答がありません。
19	ユーザから応答がありません（ユーザは警告されています）。
20	加入者が不在です。
21	コールが拒否されました。
22	番号が変更されました。
26	選択されていないユーザのクリアです。
27	着信先に異常があります。
28	番号の形式が無効です（アドレスが不完全です）。
29	ファシリティが拒否されました。
30	状況問い合わせへの応答です。
31	通常、未指定。
34	使用できる回線またはチャンネルがありません。
38	ネットワークに異常があります。
39	常時フレームモード接続はサービスを行っていません。
40	常時フレームモード接続は動作しています。
41	一時的な障害です。
42	機器輻輳を切り替えています。
43	アクセス情報は削除されました。
44	要求された回線またはチャンネルが使用できません。
46	優先コールがブロックされました。
47	リソースが使用できません、未指定。
49	QOS が使用できません。
50	要求されたファシリティは登録されていません。
53	サービス処理が妨害されました。

表 10-8 コール終了原因コード (続き)

コード	説明
54	着信コールが拒否されました。
55	着信コールが非公開ユーザグループ (CUG) 内で拒否されました。
57	ベアラ機能は認められていません。
58	ミーティングセキュア会議の最低セキュリティレベルを満たしていません。
62	指定の発信アクセス情報と加入者クラスに矛盾があります。
63	サービスまたはオプションが使用できません、未指定。
65	ベアラ機能が実装されていません。
66	チャンネルタイプが実装されていません。
69	要求されたファシリティが実装されていません。
70	限られたデジタル情報ベアラ機能のみが使用できます (国内使用)。
79	サービスまたはオプションが実装されていません、未指定。
81	コールの参照値が無効です。
82	指定のチャンネルは存在しません。
83	一時停止されているコールは存在しますが、このコールの ID は存在しません。
84	コールの ID は使用中です。
85	一時停止されているコールはありません。
86	要求されたコール ID を持つコールはクリアされました。
87	ユーザは CUG (非公開ユーザグループ) のメンバーではありません。
88	互換性のない着信先です。
90	着信先番号が欠落しており、DC が登録されていません。
91	中継ネットワークの選択が無効です (国内使用)。
95	無効なメッセージ、未指定。
96	必須の情報要素が欠落しています。
97	メッセージタイプが存在しないか実装されていません。
98	メッセージがコールの状態と互換性がないか、またはメッセージタイプが存在しないか実装されていません。
99	情報要素またはパラメータが存在しないか実装されていません。
100	情報要素の内容が無効です。
101	メッセージがコールの状態と互換性がありません。
102	タイマーが切れたときにコールが終了され、回復ルーチンが実行されてエラーから回復しました。
103	パラメータが存在しないか実装されていません - 渡されました (国内使用)。
110	認識されないパラメータを持つメッセージは削除されました。
111	プロトコルエラー、未指定。
122	優先レベルを超過しました。
123	デバイスがプリエンプション可能ではありません。
125	帯域幅の範囲外です (Cisco 固有)。
126	コール スプリット (Cisco 固有)。
127	インターワーキング、未指定。
129	優先が帯域幅の範囲外です。

表 10-9 Cisco 固有のコール終了原因コード

コード	説明
262144	会議がいっぱいになりました。 (以前は 124)
393216	コールが分割されました。 (以前は 126) このコードは、コールが分割されて終了したため、転送中にコールが終了した場合に適用されます (転送された最後のコールの一部ではありません)。このコードは、機能の動作の一部として、どのコールが終了したかを判断するのに役立ちます。
458752	任意の参加者を終了 / 最後の参加者を終了 (以前は 128)
1677257	CCM_SIP_400_BAD_REQUEST
33554453	CCM_SIP_401_UNAUTHORIZED
50331669	CCM_SIP_402_PAYMENT_REQUIRED
67108885	CCM_SIP_403_FORBIDDEN
83886081	CCM_SIP_404_NOT_FOUND
100663359	CCM_SIP_405_METHOD_NOT_ALLOWED
117440591	CCM_SIP_406_NOT_ACCEPTABLE
134217749	CCM_SIP_407_PROXY_AUTHENTICATION_REQUIRED
150995046	CCM_SIP_408_REQUEST_TIMEOUT
184549398	CCM_SIP_410_GONE
201326719	CCM_SIP_411_LENGTH_REQUIRED
234881151	CCM_SIP_413_REQUEST_ENTITY_TOO_LONG
251658367	CCM_SIP_414_REQUEST_URI_TOO_LONG
268435535	CCM_SIP_415_UNSUPPORTED_MEDIA_TYPE
285212799	CCM_SIP_416_UNSUPPORTED_URI_SCHEME
83886207	CCM_SIP_420_BAD_EXTENSION
369098879	CCM_SIP_421_EXTENSION_REQUIRED
402653311	CCM_SIP_423_INTERVAL_TOO_BRIEF
1073741842	CCM_SIP_480_TEMPORARILY_UNAVAILABLE
1090519081	CCM_SIP_481_CALL_LEG_DOES_NOT_EXIST
1107296281	CCM_SIP_482_LOOP_DETECTED = 0x42000000 + EXCHANGE_ROUTING_ERROR
1124073497	CCM_SIP_483_TOO_MANY_HOOPS
1140850716	CCM_SIP_484_ADDRESS_INCOMPLETE
1157627905	CCM_SIP_485_AMBIGUOUS
1174405137	CCM_SIP_486_BUSY_HERE
1191182367	CCM_SIP_487_REQUEST_TERMINATED
1207959583	CCM_SIP_488_NOT_ACCEPTABLE_HERE
1258291217	CCM_SIP_491_REQUEST_PENDING
1291845649	CCM_SIP_493_UNDECIPHERABLE
1409286185	CCM_SIP_500_SERVER_INTERNAL_ERROR
1442840614	CCM_SIP_502_BAD_GATEWAY
1459617833	CCM_SIP_503_SERVICE_UNAVAILABLE
1476395110	CCM_SIP_504_SERVER_TIME_OUT

表 10-9 Cisco 固有のコール終了原因コード (続き)

コード	説明
1493172351	CCM_SIP_505_SIP_VERSION_NOT_SUPPORTED
1509949567	CCM_SIP_513_MESSAGE_TOO_LARGE
2701131793	CCM_SIP_600_BUSY_EVERYWHERE
2717909013	CCM_SIP_603_DECLINE
2734686209	CCM_SIP_604_DOES_NOT_EXIST_ANYWHERE
2751463455	CCM_SIP_606_NOT_ACCEPTABLE

リダイレクト原因コード

表 10-10 は、レコードに表示される有効なリダイレクト原因コードを示しています。

表 10-10 リダイレクト原因コード

Q.931 標準リダイレクト原因コード	
値	説明
0	不明
1	話中転送
2	無応答時転送
4	コール転送
5	コール ピックアップ
7	コール パーク
8	コール パーク ピックアップ
9	CPE の異常
10	自動転送
11	コール パーク 復帰
15	すべてのコールの転送
非標準リダイレクト原因コード	
18	着信転送
34	ブラインド転送
50	即時転送
66	代替パーティへのコール転送
82	失敗時転送
98	会議
114	割込み
129	AAR
130	参照
146	置換
162	リダイレクト (3xx)
177	SIP : 話中転送のグリーティング
207	Follow Me (SIP : 不在転送のグリーティング)
209	アウトオブサービス (SIP : 話中転送のグリーティング)
239	時刻 (SIP : 不在転送のグリーティング)
242	サイレント (SIP : 無応答時転送のグリーティング)
257	応対不可 (SIP : 話中転送のグリーティング)
274	不在 (SIP : 無応答時転送のグリーティング)
303	モビリティ HandIn
319	モビリティ HandOut
335	モビリティ Cell Pickup
354	録音
370	モニタリング
399	モビリティ IVR

OnBehalfof コード

表 10-11 は、CDR レコードに表示される有効な OnBehalfof コードを示しています。

表 10-11 OnBehalfof コード

値	説明
0	不明
1	CctiLine
2	ユニキャスト共有リソース プロバイダー
3	コール パーク
4	会議
5	自動転送
6	ミーティング会議
7	ミーティング会議代行受信
8	メッセージ受信
9	マルチキャスト共有リソース プロバイダー
10	転送
11	SSAPI Manager
12	デバイス
13	コール制御
14	即時転送
15	割込み
16	ピックアップ
17	参照
18	置換
19	リダイレクト
20	コールバック
21	パス置換
22	FacCmc Manager
23	迷惑呼
24	モビリティ
25	AAR
26	ダイレクト コール パーク
27	録音
28	モニタリング

関連項目

- [CDR Analysis and Reporting の概要 \(P.1-1\)](#)
- [CDR Analysis and Reporting の基本操作 \(P.2-1\)](#)
- [CAR システムの設定 \(P.3-1\)](#)
- [CAR レポートの設定 \(P.4-1\)](#)
- [CAR ユーザ レポートの設定 \(P.5-1\)](#)
- [CAR システム レポートの設定 \(P.6-1\)](#)
- [CAR デバイス レポートの設定 \(P.7-1\)](#)
- [CDR 検索の設定 \(P.8-1\)](#)
- [CDR/CMR レコードのエクスポートの設定 \(P.9-1\)](#)
- [CAR レポートの結果 \(P.11-1\)](#)

関連資料

次の各資料には、CDR に関連する追加情報が記載されています。

- *Cisco Unified Communications Manager Serviceability アドミニストレーションガイド*
- *Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*

